

前期 2 年の課程

(M C)

研究のための倫理

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 野家 伸也

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ETH501J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

研究のための倫理

Ethics for Academic Research

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業の目的は、研究不正という逸脱行為を予防することである。前半部は「理論編」で、研究倫理の理論的諸問題を取り扱い、後半部の前提とする。研究者の「責任」という概念を中心として哲学的分析を行なう。後半部は「応用編」あるいは「実践編」で、研究不正の具体的な事例に即して受講者に疑似体験をしてもらうことで規範意識の涵養を図る。

The main purpose of this course is to prevent research misconduct previously. In the first part, students review basic knowledge and philosophical foundations of research ethics. In the second part, they experience actual cases of research misconduct simulatively.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

研究者を志す者として、高い規範意識をもって研究活動を行なえるようになること。

Students will develop the norm consciousness needed to conduct research in their majors.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 研究倫理について理論と実践の両面から学ぶ

1. 序論——学問研究とは何か

Introduction : What is academic research?

2. 研究倫理の根柢にあるもの

Foundations of research ethics

3. 研究倫理問題の歴史的背景

Historical background of research ethics

4. 研究者の倫理的責任 (1) 責任という概念——哲学的分析

Ethical responsibility of researchers (1) The concept of responsibility : Philosophical analysis

5. 研究者の倫理的責任 (2) 社会に対する研究者の責任——外部規範

Ethical responsibility of researchers (2) Responsibility for society : External ethics

6. 研究者の倫理的責任 (3) 学問そのものに対する研究者の責任——内部規範

Ethical responsibility of researchers (3) Responsibility for science itself : Internal ethics

7. 研究のための倫理規範

Ethical standards for research

8. 研究不正の事例研究 (1) ピルトダウン人事件

Case study of research misconduct (1) Piltdown Man hoax

9. 研究不正の事例研究 (2) 旧石器発掘捏造事件

Case study of research misconduct (2) The fabrication of paleolithic culture

10. 研究不正の事例研究 (3) シェーン事件

Case study of research misconduct (3) Schoen' s case

11. 心理学実験の問題 (1) モンスター・スタディ

Problems of human research (1) Monster Study

12. 心理学実験の問題 (2) ミルグラムの服従実験

Problems of human research (2) Milgram' s experiment on obedience to authority

13. 心理学実験の問題 (3) スタンフォード監獄実験

Problems of human research (3) Stanford prison experiment

14. 心理学の軍事利用の問題

Problems of military use of psychology

15. 動物実験の問題

Problems of animal research

試験 最終回に筆記試験を行なう

Test

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

期末の筆記試験の得点および授業への関与度の高さに応じて評価する。

Students are evaluated on their points from the final test and the level of class participation.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書は使用しない。資料は毎回の授業でプリントを配付する。

No textbooks will be used. References are handed out at every class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。

Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.

8. その他/In addition :

質問はメールでも受け付ける (メールアドレス : noe@tohtech. ac. jp)。

Students can email their questions (address : noe@tohtech. ac. jp).

研究のための日本語スキル

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 2 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐藤 勢紀子

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-JPN502J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

論文作成と口頭発表

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

日本語による効果的な論文作成および口頭発表の方法について、実際的なスキルを学ぶ。日本語で短い研究発表ができるようになること、適切な構成と表現で研究計画書/研究報告が書けるようになることを目指す。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ① 日本語による論文作成方法の習得
日本語で3 ページ程度の短い論文もしくは研究計画が書けるようになること。
- ② 日本語によるプレゼンテーション技術の習得
日本語で5~10 分のプレゼンテーションができるようになること。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 受講者は、専門分野の学術雑誌からサンプル論文を選定する。各自のサンプル論文の構成や表現がどうなっているかを見ながら、自分の分野の論文/研究計画書の書き方を学んでいく。学期の終わりに、研究計画もしくは研究報告の発表を行う。受講者は各発表者の発表についての評価シートを書く。期末レポートは、発表レジュメをもとにまとめ直して提出する。

- 1. ガイダンス
- 2. 書き言葉の特徴
- 3. 論文の条件・論文の構成
- 4. 序論の書き方
- 5. 本論—方法—の書き方
- 6. 本論—結果—の書き方
- 7. 本論—考察—の書き方
- 8. 結論の書き方
- 9. 注・文献の書き方
- 10. 要旨の書き方
- 11. 研究計画/研究報告の発表 (1)
- 12. 研究計画/研究報告の発表 (2)
- 13. 研究計画/研究報告の発表 (3)
- 14. 研究計画/研究報告の発表 (4)
- 15. 研究計画/研究報告の発表 (5)

試験 試験は行なわない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席 20%、課題の提出 40%、発表 20%、期末レポート 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書：二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子 (2009) 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会

参考書：アカデミック・ジャパニーズ研究会編著 (2015) 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』アルク

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

サンプル論文の選定、課題の実施、発表の準備、期末レポートの作成

8. その他/In addition :

研究のための英語スキル

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 2 講時 107 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : WANNER PETER JOH

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ENG503E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Academic Writing in English and Building a Foundation of Research

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course is designed to advance scholastic writing by setting high standards for scientific communication. Students learn basic grammar rules that apply to scholastic writing as well as style and furthermore how to cite sources.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

Upon completion of this course, students will be able to:

- Develop overall knowledge, skills, and competence for academic writing in English
- Develop more accuracy and command of English
- Increase their writing ability with more knowledge of critical/logical thinking
- Learn the basics of manuscript organization and ethical issues in science for their future research.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 The course syllabus and assignments are as follows:

1. Week 1 Course orientation
2. Week 2 Lecture. What is Academic Writing
3. Week 3-4 Writing Clearly and concisely
4. Week 5-6 Grammar and Usage
5. Week 7-9 Pronunciation/ Spelling/ Capitalization
6. Week 10-11 Quotation and Citation
7. Week 12-13 Reference and Bibliography
8. Week 14-15 Analysis of Model Manuscripts
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

試験 Not Applicable

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Grade will be determined by participation and presentation (50%) and assignments (50%). Information will be provided at the first class session.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

American Psychological Association (2015) Sixth Printing. Publication Manual of the American Psychological Association. Washington D.C.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Students are required to prepare and review for each class. In addition, they are expected to read assigned books and write essays.

8. その他/In addition :

Further information, including the professor's office hours and e-mail address, will be provided at the course orientation. More detailed information regarding components of each lesson will be provided at the course orientation. The schedule may be subject to change due to the professor's office duties, academic affairs, etc.

異文化理解基礎論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐野 正人

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS504J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

異文化理解の基礎と方法 (2018)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ボーダーレス化が進展している現代の国際社会において、各地域文化が共存・融合する一方で、激しい摩擦・衝突を引き起こす社会現象もますます顕著になっている。このような現象を理解するために、本授業においては世界各地の地域文化について、オムニバス方式で基礎的かつ包括的な講義を行う。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

アメリカ合衆国、イスラーム圏そして東アジア地域における文化の諸相の理解を通して、文化の多様性とその規定要因を理解する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 異文化の理解についてオムニバス方式で講義を行う。

1. ガイダンス

2. アメリカ史における「人種」①

3. アメリカ史における「人種」②

4. アメリカ史における「人種」③

5. アメリカ史における「人種」④

6. ムスリムたちが見た近代世界①

7. ムスリムたちが見た近代世界②

8. ムスリムたちが見た近代世界③

9. ムスリムたちが見た近代世界④

10. 中間まとめ

11. 東アジアの大衆文化①

12. 東アジアの大衆文化②

13. 東アジアの大衆文化③

14. 東アジアの大衆文化④

15. まとめ

試験 統一した試験は実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

各教員が課すレポート等を総合的に評価して判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

授業の中で適宜指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストが指示された場合は、事前に読んでおくことが求められる。

8. その他/In addition :

とくになし。

地域研究のためのフィールドワーク

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 朱 琳

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS505J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

地域研究のためのフィールドワーク

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

フィールドワークを実施する者は、フィールドワークで得られるべきデータがフィールドに出る前にすでに論理的に構成済みであること、またデータ入手のためのフィールドワークは倫理的に正しい方法で行われねばならないことを理解しておく必要がある。そこで本講義では、研究を進める上でフィールドワークはそもそも何のために行うのかについて解説した後、そのフィールドワークを実施する上で理解しておくべき技術的かつ倫理的な問題点について概観する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

地域研究のための広義のフィールドワークの方法や作法を習得する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 講義は3人の教員が4回ずつ担当する。初回は担当教員全員でオリエンテーションを実施する。第二回以降は、吉田、朱、ゴダールの順に講義を受け持ち、最終週に再び全教員による総括を行う予定にしている。各教員のテーマと概要は以下の通り。

1. オリエンテーション

2. 吉田栄人 「フィールドに出る前に (1) : フィールドワークとは何か」

本講義では、研究を進める上でフィールドワークがそもそもどのような位置づけにあるのかについて理解した上で、そのフィールドワークを実施する上で必要な方法論的かつ倫理的課題について概観する。フィールドワークを実施する者は、フィールドワークで得られるべきデータがフィールドに出る前にすでに論理的に構成済みであり、それを倫理的に正しい方法で入手することがフィールドワークであることを理解しておく必要がある。

3. 吉田栄人 「フィールドに出る前に (2) : フィールドワークとデータ」

4. 吉田栄人 「フィールドに出る前に (3) : フィールドワークの倫理」

5. 吉田栄人 「フィールドに出る前に (4) : フィールドノートとモノグラフ」

6. 朱琳「歴史学におけるフィールドワーク (1) : 資料の扱い方」

本講義では主に一次史料に焦点を絞って、日記・書簡・公文書のほか、絵画・映像・口承などの扱い方を学ぶ。と同時に、他の史料と比較しながら時代背景などを探り、史料批判(資料の信憑性・信頼度・有効性を見極める)の仕方をも検討する。

7. 朱琳「歴史学におけるフィールドワーク (2) : 日記と書簡」

8. 朱琳「歴史学におけるフィールドワーク (3) : 新聞・雑誌などのメディア」

9. 朱琳「歴史学におけるフィールドワーク (4) : その他 (ラジオ放送・広告・・・)」

10. ゴダール「日本近代史における事例研究の方法 (1)」

本講義では、研究を進める上で必要となる先行研究の調査と、研究対象となるフィールドの背景にある理論と概念について学ぶ。具体的には、近代日本の「日蓮主義運動」を日本近代史・世界史の中でどう位置付けるかという問いを中心に、宗教と国家、宗教と科学、ファシズム論争、などについて学ぶ。

11. ゴダール「日本近代史における事例研究の方法 (2)」

12. ゴダール「日本近代史における事例研究の方法 (3)」

13. ゴダール「日本近代史における事例研究の方法 (4)」

14. 総括

15. 予備日

試験 筆記試験は実施しない

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

各教員の授業への貢献度と、レポートにより評価を行う。

レポートの課題、提出方法、提出期限に関しては、各教員が授業時に説明する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

各教員が初回講義時に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各教員が初回講義時に指示する。

8. その他/In addition :

国際政治経済論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 1 講時 207 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 葉 剛

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-IPE515J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際政治経済論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

第二次世界大戦後、経済活動の与件としての「カネ」「ヒト」「モノ」の流動性が一層激しくなっており、経済のグローバル化が急速に進んでいる。このグローバリゼーションの進む中、大きな変貌を遂げている国際経済に関して、学問的にさまざまな視点—例えば、世界システム論、国際レギュレーション論、相互依存論等—から捉えられている。この講義において、国間の経済発展段階の相違、国際機構の在り方、国間の経済関係などの諸事象に関する諸説の考え方、分析手法、到達点と問題点についての解説を行う。この講義を通して、現代国際社会の複雑で多様な現実問題を解き明かすための先端的な知識と分析手法を理解する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- (1) 社会科学の基礎を固める。
- (2) 複雑な現代国際社会に関する分析視角、分析方法への理解を深める。
- (3) 国際政治経済を複合的に見る視点を構築する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 授業の形式を講義にする。

1. 国際経済の構図
2. 南北問題
3. 新興国の台頭
4. 国際機構の構想
5. OECD
6. IMF と世界銀行
7. GATT・WTO
8. 国際通商交渉
9. 日米貿易交渉
10. 国際地域経済統合
11. 欧州連合 (EU)
12. 北米自由貿易協定 (NFTA)
13. アジア太平洋経済協力 (APEC)
14. 国際地域紛争
15. 国際難民問題

試験 数回にわたり、共通課題を与え、レポートの作成を求める。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席、ノート、レポートに基づいて総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書の指定は特になし。
適宜に単行論文や学術書籍等を紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

関連書籍を自由に選びよく読むこと。

8. その他/In addition :

当該授業に関する相談や議論等は常に受け付ける。
メールアドレス : gn. ie. a3@tohoku. ac. jp

調査方法論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時 1 0 9 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 青木 俊明

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OS0508J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

調査方法論 Research Methodology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義では、社会科学系分野で用いられる調査方法と統計分析手法について解説する。前半では、様々な調査の実施方法とデータ収集方法を解説する。中盤では、統計分析の仕組みを解説する。後半では、環境問題における統計データの使い方や分析方法の考え方、注意事項などについて述べる。これにより、調査・分析の実施に必要な知識を習得する。

This course provides basic skill for qualitative research and analytical skill using statistics. In the first part, method for data collection in various research will be explained. In the middle part, basic knowledge in statistics is provided. In the end, a note of caution in actual survey will be provided.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

調査方法や統計分析に関わる用語を理解すること。
調査の実施手順を理解すること。
統計分析の仕組みと考え方を理解すること。

- to understand research method and basic terms for statistics
- to understand process of a survey
- to understand statistical analysis

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 調査方法と統計分析の基礎を学ぶ

This course will provide basic knowledge and skill for research in social science

1. オリエンテーション
introduction
2. 統計学の役割
role of statistics
3. 社会調査法の基礎
basic of social survey
4. 統計データ (データの集め方・単位)
how to collect data
5. 分布を示す指標
several indexes for data distribution
6. 標本分布
sample data distribution
7. 推定と検定の仕組み
statistical estimate and test
8. 2群の検定
a test between two groups
9. 偏相関と重回帰分析
partial correlation and multiple regression analysis
10. 偏相関と重回帰分析
partial correlation and multiple regression analysis
11. 分散分析
ANOVA
12. 環境問題における統計データの分析
statistical data in environmental issues
13. 環境経済学におけるデータ分析の考え方
data analysis in environmental economics
14. 環境影響評価におけるデータ分析の考え方
data analysis in environmental assessment
15. 試験とまとめ
summary and test
試験 有り
a test will be conducted

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

レポートと試験の合計点が 60 点以上となる場合を合格とする。

students who can achieve more than 60 % of total score will pass.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

- 青木担当回 南風原朝和：心理統計の基礎、有斐閣アルマ
大村 平：統計解析のはなし—データに語るテクニク、日科技連
鳥居 泰彦：はじめての統計学、日本経済新聞出版社

劉担当回 片谷教孝・松藤敏彦：環境統計学入門、オーム社
その他に適宜資料を配付する予定

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポート有り

a assignment will be distributed.

8. その他/In addition :

心理学の基礎知識と初級程度の統計学に習熟していることを前提として授業を進めていく。そのため、これらに対する知識や理解に自信のない受講生は、積極的に講義時間外に学習する必要がある。必要に応じて、英語文献の紹介や読解を行うので、英語の専門用語についても知識を得ておく必要がある。

Students who do not have basic knowledge about statistics have to study by themselves besides this course. The premise of the course is that most of the students have already know basic statistics. Also, English terms are supposed to be understood, because advanced literature written in English can be material in this course.

共生社会論

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 山下 博司

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS516J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

「境界を越える、他者と出会う」－異文化との邂逅・接触にともなう民族文化的諸問題と内的葛藤の諸相－

Transgressing the border, encountering the other: ethnocultural issues and internal conflicts in cross-ethnic/cross-cultural contact

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業科目は、問題設定や問題解決の方法における学際性をより前面に出し、多様な事例を踏まえた講義を展開することで、学際研究とその方法に関する基礎知識を涵養する場とするものである。異なる言語的・社会的・宗教的バックグラウンドを有する個人や集団が、他者の存在を認知・尊重し、友好的な関係を築き、あるいは互いに干渉または加害することなしに共存する様態や原理・論理を探究するとともに、個人やエスニック集団の対立の心理や民族問題惹起の要因を考察するものである。

From multicultural and interdisciplinary perspectives, this course deals with psychological, cultural, social, and religious phenomena relating to individuals and groups occasionally with different ethnocultural backgrounds and identities. This series of lectures not only theoretically provides the cause or backdrop of cultural discord or conflict issues in general underlying social relationships of individuals and groups, but also attempts to find a clue to the solution of such problems on a case by case basis.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

上記の問題設定をうけ、問題の所在を理論的に整理した上で、映像資料なども用いながら個人や民族の越境にともなう諸現象を各論的に取り上げ、問題の全体をマクロ的およびミクロ的視点から把握することを目指す。

Based upon the above perspectives, the lectures are twofold contentwise. Initial four lectures are delivered to sort out the ethnic problems and related issues and give logical frameworks, taking psychological matters into account. Then the rest of the serial lectures is devoted to specific issues concerning border crossers and immigrants under particular circumstances as represented in European feature films.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 初回のオリエンテーションで授業の趣旨・方法等の導入を図ったのち、3名の教員が各テーマに沿ってオムニバス形式で授業を展開し総括する。

After the orientation of this course being properly introduced, three instructors take turns in charge of subsequent lectures. Video materials and/or feature films are employed appropriately in due course.

1. オリエンテーション (佐藤透、坂巻康司、山下博司)

Course orientation by Toru Sato, Koji Sakamaki & Hiroshi Yamashita

2. 民族問題の理論と心理 (1) (佐藤透)

Theories and mentalities of ethnic problems (1), by T. Sato

3. 民族問題の理論と心理 (2) (佐藤透)

Theories and mentalities of ethnic problems (2), by T. Sato

4. 民族問題の理論と心理 (3) (佐藤透)

Theories and mentalities of ethnic problems (3), by T. Sato

5. 民族問題の理論と心理 (4) (佐藤透)

Theories and mentalities of ethnic problems (4), by T. Sato

6. 映像に見る越境者の姿 (1) (坂巻康司)

Images of border crossers in several films (1), by K. Sakamaki

7. 映像に見る越境者の姿 (2) (坂巻康司)

Images of border crossers in several films (2), by K. Sakamaki

8. 映像に見る越境者の姿 (3) (坂巻康司)

Images of border crossers in several films (3), by K. Sakamaki

9. 映像に見る越境者の姿 (4) (坂巻康司)

Images of border crossers in several films (4), by K. Sakamaki

10. 移民とホスト社会－移民2世の葛藤を映画シナリオから読み解く－ (1) (山下博司)

Immigrants and the host society: the ambivalent struggles and psychological frictions as reflected in cine scripts (1), by H. Yamashita

11. 移民とホスト社会－移民2世の葛藤を映画シナリオから読み解く－ (2) (山下博司)

Immigrants and the host society: the ambivalent struggles and psychological frictions as reflected in cine scripts (2), by H. Yamashita

12. 移民とホスト社会－移民2世の葛藤を映画シナリオから読み解く－ (3) (山下博司)

Immigrants and the host society: the ambivalent struggles and psychological frictions as reflected in cine scripts (3), by H. Yamashita

13. 移民とホスト社会－移民2世の葛藤を映画シナリオから読み解く－ (4) (山下博司)

Immigrants and the host society: the ambivalent struggles and psychological frictions as reflected in cine scripts (4), by H. Yamashita

14. 総括 (1)

Concluding session (1)

15. 総括 (2)

Concluding session (2)

試験 試験はおこなわない。

No term exam is conducted.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

レポートと出席状況を総合して評価をおこなう。割合は、レポートを60%、出席を40%とする。
レポートでは、担当教員の授業内容の中から自分の関心対象や問題意識に沿ったテーマを選び、日本語で論述するものとする。
参考文献や典拠を明示すること。

Evaluation is performed comprehensively based on a submitted paper and participation in discussion, etc.

The Allotment:

A term paper 60%

Attendance and participation 40%.

なお、レポート作成に当たっては、インターネット記事やウェブ上のデータなどをコピー（複写・複製）し、そのコピーしたものをレポート内にペースト（転写・貼付）するなどの行為を禁止する。発覚した場合は不正行為として厳正に対処するので留意すること。

Copying and pasting of passages or data from web sites massively without any reference are strictly prohibited in composing the term paper. In case an unfair act is detected, strict measures are to be taken.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教室で指示する。

References will be designated in the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義の進展にあわせて参考文献を提示していくので、そのつどそれらを参照の上、自らが問題意識を深めて授業に臨むことを希望する。

Students are advised to read specified materials in advance and to prepare for their active participation in the discussion.

8. その他/In addition :

希望する場合は個別の指導に応じる。

事前にEメール等で教員の都合を確認すること。

連絡先は以下のとおり。

Individual counseling can also be given. Contact the instructor by email in advance.

toru.sato.c6@tohoku.ac.jp

kojimaki@ac.auone-net.jp

hiroshi.yamashita.d8@tohoku.ac.jp

環境資源経済論

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 3 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐藤 正弘

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-EC0517E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Environmental and Resource Economics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course offers a general introduction to the basic theories of environmental economics and resource economics, and provides students with theoretical tools to explore interactions between the Earth systems and economic systems.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

Students are expected to understand basic models of environmental economics and resource economics, and be able to apply them to practical environmental issues.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Students are not required to have obtained any knowledge of economics in advance. The economic concepts and models needed to understand the course will be provided in class. The tentative schedule and contents are as follows:

1. Introduction
2. Earth systems and economic systems
3. Market equilibrium and welfare economics
4. Market equilibrium and welfare economics
5. Market failure (public goods, externalities, open-access)
6. Market failure (public goods, externalities, open-access)
7. Economic theories of environmental policies
8. Economic theories of environmental policies
9. Economic theories of natural resources
10. Economic theories of natural resources
11. Economic theories of natural resources
12. Economic theories of ecosystem services
13. Economic theories of sustainable development
14. Globalization and environmental problems
15. Conclusions, exam

試験 Exam

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Attendance (20%), Assignments (30%), Exam (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

To be designated

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Students are required to complete short assignments roughly every other week.

The basic math needed to understand the economic models will be given in class, but the students who are not familiar with even elementary calculus are encouraged to strengthen

8. その他/In addition :

言語研究法

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 3 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : SPRING RYAN EDWA

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN512E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Linguistic research methods: how to apply, perform and analyze them

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This class is designed to teach the basics of linguistic research methodology from a scientific standpoint. It will cover how to obtain a proper framework for research, various types of tests used in linguistics and how to perform them, and data analysis, including but not limited to basic statistical analysis.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

Upon completing this course, students will be able to:

- (1) apply linguistic research methods to a framework
- (2) understand and/or design linguistic tests and experiments
- (3) complete simple data analysis

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 The class will introduce the scientific method, how to apply it to linguistic studies, introduce various research methods and teach students how to put these aspects together into a report or paper.

1. Linguistics and the scientific method
 2. Getting a proper framework
 3. Forming a hypothesis
 4. Experimental linguistics vs. theoretical linguistics and theoretical tests
 5. Introduction to experimental methods: using the right tool for the right job
 6. Corpus studies
 7. Language learning and acquisition
 8. Other experimental based methodology
 9. Statistical Analysis
 10. Discourse Analysis
 11. Interviews and questionnaires
 12. Role plays, observations and case studies
 13. Qualitative analysis
 14. Ethical considerations
 15. Reaching conclusions and putting it all together
- 試験 There is no final test; instead there is a final paper.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Grades will be determined based on: (1) Participation and attendance in class, (2) homework, (3) final project / report

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

There is no textbook required for the class. We will provide the materials for students. However, the following books might be helpful if you have more questions about particular methods:

Green, G. M. & Morgan, J. L. (2001) A practical guide to syntax

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Homework will be given almost every class. It will ask you to think about the day's lesson and apply it to your own research or to your own ideas. The homework will usually be given in the form of a short writing assignment.

8. その他/In addition :

This class is designed specifically for first year master's students, but all are welcome.

言語科学概論(英語)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時 M6 0 1 大ホール左

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : WANNER PETER JOH

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN513E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Introduction to Language Sciences (English)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course will examine the structure of human language. Students will look at various theories and how to formulate them so they can try to represent and account for the structure and functions of human language.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

The goal of the course is for students to get a firm grasp of General Linguistics, and be able to solve simple linguistic problems.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 The course is planned to proceed in the basic order of the textbook chapters, approximately one chapter for every week.

1. Week 1 Introduction
2. Week 2 Morphology
3. Week 3 Phonetics and Phonetic Transcription
4. Week 4 Phonology: The Study of Sound Structure
5. Week 5 Syntax: The Study of Sentence Structure
6. Week 6 Semantics: The Study of Linguistic Meaning
7. Week 7 Language Variation
8. Week 8 Mid Term Test
9. Week 9 Language Change
10. Week 10 Pragmatics: The Study of Language Use and Communication
11. Week 11 Psychology of Language: Speech Production and Comprehension
12. Week 12 Language Acquisition in Children
13. Week 13 Language and the Brain
14. Week 14 Giftedness
15. Week 15 Final Test

試験 This course is planned to proceed along the schedule above. However, there may be changes in adjusting to the class and the teaching situation. Besides the class meetings, there will be homework and two tests.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

In course participation 20%, assignments 20%, mid-term 30%, and final 30%.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Akmajian, Adrian, Demers, Richard A., Farmer, Ann K., and Harnish, Robert M., An Introduction to Language and Communication (Sixth Edition) 2010 Massachusetts Institute of Technology. The MIT Press; Cambridge, Massachusetts, London, England.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Homework for every class.

8. その他/In addition :

言語科学概論(日本語)

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 6 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 高橋 大厚

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN514J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

言語科学概論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

言語科学研究および応用言語研究を始める学生のために、言語科学の基礎と応用について概説する。修士論文作成のための基礎的知識

を学び、言語研究への広い視野を身につける。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

言語科学研究分野および応用言語研究分野において研究するための基礎と広い視野を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 言語科学の基礎と応用について概説する。言語科学研究講座の教員 2 名 (小野、高橋) と応用言語研究講座の教員 2 名 (志村、鄭) が担当する。授業は 4 部構成である。

1. ガイダンス

2. 第 1 部：言語科学の基礎 (1)

統語論

3. 第 1 部：言語科学の基礎 (1)

統語論と意味論

4. 第 1 部：言語科学の基礎 (1)

意味論

5. 第 2 部：言語科学の基礎 (2)

音韻論：母音と子音

6. 第 2 部：言語科学の基礎 (2)

音韻論：音節構造とプロソディー

7. 第 2 部：言語科学の基礎 (2)

形態論：形態素と語形成

8. 第 2 部：言語科学の基礎 (2)

形態論：日本語の複合語

9. 第 3 部：言語科学の応用 (1)

第二言語習得研究概論

10. 第 3 部：言語科学の応用 (1)

第二言語習得研究の方法

11. 第 3 部：言語科学の応用 (1)

第二言語習得研究の事例

12. 第 4 部：言語科学の応用 (2)

言語教育とはどのような営みか

13. 第 4 部：言語科学の応用 (2)

言語教師に求められる資質

14. 第 4 部：言語科学の応用 (2)

言語教育と評価

15. まとめ

試験 各教員が試験もしくはレポートを課す。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

4 名の教員がそれぞれ筆記試験やレポート試験などを実施し、その平均点を成績評価とする。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

必要に応じて指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業で指示する。

8. その他/In addition :

ヨーロッパ政治社会論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 野村 啓介

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-HIS601J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

近代フランスにおける地域権力に関する史的考察 (1) : ワインづくりの史的諸問題

Historical Considerations on Local Powers in Post-Revolutionary France(1): Historical Issues of Winemaking

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

近代フランスの政治史的展開を考察するうえで、「パリ中心史観」から脱却し、「中央」の動向との関連において地域社会（ローカルレベル）のありようや歴史的役割をよりの確に把握することはきわめて重要である。その一環として本授業は、さしあたり革命後フランスにおけるワイン産地の地域権力および同地のワイン業利害に注目し、国家（中央政治）と地域社会の関係性をめぐる諸問題について考察する。

In exploring the political evolution in Post-Revolutionary France, it is extremely important to understand more appropriately conditions of local society and their historical roles in relation to the "central power", freed from a "Paris-centred historical perspective". As part of the study, this course will address issues related to the political relationship, between the central power and local ones, observed in Post-Revolutionary France, focusing on, for example, the local powers and wine interests in some wine-producing regions.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

歴史的考察力を養うため、史実吟味、史料や研究書の批判的読解、歴史方法論の検討といった歴史学研究の基礎的作業にふれる。

In order to improve abilities of a historical thinking, this course attempts to give students experience with basic procedures of the historical research, focusing on verifying historical facts and reading primary sources and research books critically, examining historiographical methods.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 本講義では、1935年に成立したAOC（原産地統制呼称）法の前史をなす近代フランスのワインをめぐる主要な諸問題を、とりわけボルドー・ブルゴーニュ・シャンパーニュの比較にたつて考察する。

In this course, students will consider important wine issues of the post-revolutionary period that could form a prehistory of the AOC (Appellation d'Origine Contrôlée) law of 1935, observing above all comparatively the Bordeaux, Bourgogne (Burgundy) and Champagne regions.

1. ガイダンス：歴史学の学問的性格について／ワイン史研究の意義

Introduction: On Characteristics of the Historical Science / Significance of the Wine History

2. 近代フランス史研究概論：中央と地方の関係に関する研究史

Overview of the History of Post-Revolutionary France: Historiography of the Central-Local Relationship

3. フランス第二帝制史の研究史：反動と革新のあいだ

Historiography of the History of the Second French Empire: Between "Réaction (Reaction)" and "Innovation (Progress)"

4. ワイン史のための基礎知識 (1) : ワインづくり

Basic Knowledge of the Wine History(1): Wine-Making Process

5. ワイン史のための基礎知識 (2) : ワイン業利害と商人

Basic Knowledge of the Wine History(2): Wine Interests and "Négociants (Merchants)"

6. ボルドー地方のワインづくり

Winemaking in the Bordelais (Bordeaux Region)

7. ブルゴーニュ・シャンパーニュ両地方のワインづくり

Winemaking in the Bourgogne and Champagne Regions

8. グランクリュの出現 (1) : 「クリュ」概念の史的展開

Birth of the Grands Crus(1): Historical Evolution of the Concept of "Cru"

9. グランクリュの出現 (2) : ボルドーワイン 1855 年格付の成立

Birth of the Grands Crus(2): Establishment of the Bordeaux Wine's 1855 Classification

10. グランクリュの出現 (3) : ブルゴーニュとシャンパーニュ

Birth of the Grands Crus(3): Examples of Bourgogne and Champagne

11. AOC 法成立史 (1) : 商人ワイン（「人工ワイン」）への批判

Road to the AOC Law(1): Critics against Merchants' Wines, i.e. "Vins artificiels"

12. AOC 法成立史 (2) : 「ワイン」定義をめぐる法的論議

Road to the AOC Law(2): Legal Controversy surrounding the Definition of "Wine"

13. AOC 法成立史 (3) : 「生産圏」概念と「原産地」概念

Road to the AOC Law(3): Emergence of the Concepts of "Aire de production (Producing Area)" and of "Origine (Origin)"

14. 総括 (1) : ワイン産地からみた近代フランス史における地域の位置づけ

Review(1): On the Historical Roles of Local Wine-Producing Regions in Post-Revolutionary France

15. 総括 (2) : AOC 法思想の歴史の意味

Review(2): Historical Significance of Legislative Principles Embodied in the AOC Law

試験 期末レポート The term paper

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業への参加と課題遂行 (50%)、および期末レポート (50%) により総合的に評価する。

Evaluation is determined comprehensively based on class participation and achieved assignments 60%, the term paper 40%.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

講義資料は授業において配布する。

Reading materials and handouts will be distributed in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

配布資料の毎回指定する部分を事前に読み、内容を理解しておくこと。

Students are required to read and understand the assigned part of the references before each class.

8. その他/In addition :

授業の基本形態は、講義と資料読解による。基礎的フランス語力をもつことが望ましいが、フランス語学習に意欲をもつ者はこのかぎりでない。

This course will be based on giving lectures and reading the references. It is more desirable that students have some elementary French proficiency; however, this is not the case when they have strong desire to learn French.

言語表象論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 5講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐藤 研一

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIT602J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

レッシング作喜劇『ユダヤ人』を読む

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

レッシング (1729-81) による一幕もの喜劇『ユダヤ人』Die Juden (1749 作、1754 刊行) を精読しながら、いかにレッシングが絶対主義的社会から市民社会への転形期のなかで、先達の諸作品や文学的伝統を咀嚼して、独自の文学的創造を遂げてゆくのか、解き明かす。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されているが、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれてくるものである。原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。なお、ドイツ語未習者の受講生には、英訳本を用意する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 レッシングは、近代が近世と衝突しつつ漸次的に地殻変動を起こす転形期を生きながら、擬古典主義の荒野に道を切り開き、革新的な文学を築き上げた。この点を踏まえて、演習形式で、彼の喜劇を読み味わい、新しい文学創出について考える。

1. レッシングについて紹介する。もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え展開してゆく。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進捗を記せば、以下の通り。

2. 『ユダヤ人』第 1 場、第 2 場

3. 『ユダヤ人』第 2 場、第 3 場

4. 『ユダヤ人』第 4 場、第 5 場

5. 『ユダヤ人』第 6 場

6. 『ユダヤ人』第 7 場、第 8 場、第 9 場

7. 『ユダヤ人』第 10 場

8. 『ユダヤ人』第 11 場、第 12 場

9. 『ユダヤ人』第 13 場、第 14 場

10. 『ユダヤ人』第 14 場、第 15 場

11. 『ユダヤ人』第 16 場

12. 『ユダヤ人』第 17、第 18 場、第 19 場

13. 『ユダヤ人』第 20 場、第 21 場

14. 『ユダヤ人』第 22 場

15. 『ユダヤ人』最終場、および総括

試験 なし

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

学生諸君の発表およびレポートに基づき評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Gotthold Ephraim Lessing: Die Juden. Stuttgart: Reclam, 2002.

柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986 年。

坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996 年。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

古今東西の戯曲に関心を寄せること。

8. その他/In addition :

毎回、全員に発表してもらう。

言語芸術論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 3 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 小林 文生

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIT603J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

文学と人生 — プルーストを読む

Literature and Life – Reading of Proust

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

20世紀最大の作家マルセル・プルースト (Marcel Proust, 1871-1922) の作品『失われた時を求めて』(A la recherche du temps perdu) から12箇所の抜粋を精読、分析し、それぞれに呼応する7つのテーマ(時間と空間、記憶と忘却、文学と諸芸術、人称と語り、文体と比喩、批評と理論、文学と価値)を取り上げて、プルーストが文学をどのように刷新したのかを考察する。同時に、それらのテーマに関連する主要な先行研究を概観し、また必要に応じて他の箇所や、さらに他の作家の作品にも言及することによって、文学研究の方法がどのように変遷したのかを提示する。それらを踏まえた上で、言語芸術としての文学が、生きることの意味とどのように関わることを受講生とともに考える。なお、フランス語を読めることが望ましいが、フランス語未習者も履修可とする。

We will analyze twelve passages extracted from Marcel Proust's A la recherche du temps perdu, which lead us to consider following seven themes: time and space, memory and oblivion, literature and other arts, person and narration, style and figure of speech, critique and theory, literature and value. Through this examination, we will see how Proust innovated the literature and the methodology of the study of literature, and we will also consider about the meaning of the literature in our life.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

(1) 20世紀文学のひとつの代表例としてマルセル・プルーストの作品を精読することによって、プルーストの文学世界を理解すると同時に、文学の意味についての理解を深める。

(2) プルーストの作品を例として、文学作品の分析と文学研究の方法を具体的に習得する。

(3) プルースト研究史を概観することによって、文学研究が(他の分野との関係も含めて)いかなる射程を持つかについて理解する。

(4) 以上を通して、言語芸術としての文学が人生においてどのような意義を持つのかについて理解を深める。

1) By means of intensive reading of Proust as a typical example of the twentieth century literature, you will understand not only Proust's literary universe but also the significance of the literature.

2) Through the work of Proust, you will master concretely a method of analysis and research of the literature.

3) Having a general view of the history of the studies on Proust you will grasp the reach of literary study.

4) Through this consideration, you will deepen your understanding of the meaning of the literature in your life.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 -

1. プルーストの生涯と『失われた時を求めて』の概観。

Chronology of Proust and general view of A la recherche du temps perdu.

2. テキスト1 (I. 3-9 / IV. 449-451) の精読を通して、「時間と空間」のテーマを考察する。

Reading of Text 1 (I. 3-9 / IV. 449-451) and examination of the theme: time and space.

3. テキスト1 (I. 3-9 / IV. 449-451) の精読を通して、「時間と空間」のテーマを考察する。

Reading of Text 1 (I. 3-9 / IV. 449-451) and examination of the theme: time and space.

4. テキスト2 (I. 43-47) の精読を通して、「記憶と忘却」のテーマを考察する。

Reading of Text 2 (I. 43-47) and examination of the theme: memory and oblivion.

5. テキスト2 (I. 43-47) の精読を通して、「記憶と忘却」のテーマを考察する。

Reading of Text 2 (I. 43-47) and examination of the theme: memory and oblivion.

6. テキスト3 (II. 191-193 / III. 761-763) の精読を通して、「文学と諸芸術」のテーマを考察する。

Reading of Text 3 (II. 191-193 / III. 761-763) and examination of the theme: literature and other arts.

7. テキスト3 (II. 191-193 / III. 761-763) の精読を通して、「文学と諸芸術」のテーマを考察する。

Reading of Text 3 (II. 191-193 / III. 761-763) and examination of the theme: literature and other arts.

8. テキスト4 (III. 152-157) の精読を通して、「人称と語り」のテーマを考察する。

Reading of Text 4 (III. 152-157) and examination of the theme: person and narration.

9. テキスト4 (III. 152-157) の精読を通して、「人称と語り」のテーマを考察する。

Reading of Text 4 (III. 152-157) and examination of the theme: person and narration.

10. テキスト5 (I. 132-141) の精読を通して、「文体と比喩」のテーマを考察する。

Reading of Text 5 (I. 132-141) and examination of the theme: style and figure of speech.

11. テキスト5 (I. 132-141) の精読を通して、「文体と比喩」のテーマを考察する。

Reading of Text 5 (I. 132-141) and examination of the theme: style and figure of speech.

12. テキスト6 (II. 623 / IV. 489-190) の精読を通して、「批評と理論」のテーマを考察する。

Reading of Text 6 (II. 623 / IV. 489-190) and examination of the theme: critique and theory.

13. テキスト6 (II. 623 / IV. 489-190) の精読を通して、「批評と理論」のテーマを考察する。

Reading of Text 6 (II. 623 / IV. 489-190) and examination of the theme: critique and theory.

14. テキスト7 (II. 691 / III. 761-762 / IV. 473-475) の精読を通して、「文学と価値」のテーマを考察する。

Reading of Text 7 (II. 691 / III. 761-762 / IV. 473-475) and examination of the theme: literature and value.

15. テキスト7 (II. 691 / III. 761-762 / IV. 473-475) の精読を通して、「文学と価値」のテーマを考察する。

Reading of Text 7 (II. 691 / III. 761-762 / IV. 473-475) and examination of the theme: literature and value.

試験 レポート提出。

Papers on the appointed themes.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

小レポート、および学期末のレポートにより評価する。

Papers.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

・精読テキスト : Marcel Proust, *A la recherche du temps perdu*, [1913-1927], édition publiée sous la direction de Jean-Yves Tadié, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 4 volumes, 1987-1989.

・『失われた時を求めて』のテキスト抜粋 (フランス語原文および日本語訳) はプリントを配付する。

・マルセル・プルースト研究、および関連テ

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各回のテキストをあらかじめ精読しておくこと。また、関連テーマについては、適宜報告を求めるので、指示に従って小レポートを作成し提出すること。

Read carefully the texts in advance. Submit papers about the appointed themes.

8. その他/In addition :

メールアドレス (小林文生) : fumio.kobayashi.d6@tohoku.ac.jp

芸術空間論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 市川 真理子

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIT604E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

The Original Staging of English Renaissance Plays

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

The main purpose of this course is to explore methods by which to recover the original staging of English Renaissance plays. Most examples are taken from Shakespearean plays.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

This course encourages participants to read plays in theatrical terms. Shakespeare and his contemporaries wrote their plays to be performed in English Renaissance playhouses. Unfortunately, the play texts provide relatively few stage directions. The dialogue, however, contains many cues for actors' movements, gestures, and actions. Participants will learn how to examine play texts so as to recover the original staging of early modern English plays.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Topics to be dealt with include the following: the design of early modern English playhouses; the nature of early modern English play texts; and how to deal with stage directions and speeches.

1. General Introduction
2. Lecture on early modern playhouses
3. Lecture on early modern play texts
4. Lecture on the early modern theatrical language
5. Reading material Unit 1
6. Reading material Unit 2
7. Reading material Unit 3
8. Reading material Unit 4
9. Discussion 1
10. Reading material Unit 5
11. Reading material Unit 6
12. Reading material Unit 7
13. Reading material Unit 8
14. Discussion 2
15. Conclusion

試験 one exam paper

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

1. Participation in class (80 percent weight)
2. One exam paper (20 percent weight)

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

M. Ichikawa, *The Shakespearean Stage Space* (Cambridge University Press, 2013) [参考書]

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Please read as many plays as possible.

8. その他/In addition :

Office hour: Mondays, 12:00 pm -12:30 pm

表象文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時 107 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 寺本 成彦

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIT605J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

映画史と文学作品翻案映画 (2) 1915-1929

History of the Cinema and Movies adapted from novels (2) 1915 -1929

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

第一次世界大戦中の 1915 年から、トーキー映画の全盛を迎えるまでの 1920 年代の映画史の流れを検討し、この最後発の芸術ジャンルがいかなる独自の表現様式を獲得していったのかを理解する。音声による表現の多様化がもたらされる前の、純粋に視覚的な物語る芸術として確立していった映画の撮影技法、編集技法について学ぶ。さらに、映画芸術の進展に伴いながら製作されてきた小説作品の翻案映画をいくつか検討し、映画における文学受容とその影響について明らかにする。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

1910 年第半ばから 1920 年代末までの欧米における、主として無声映画時代の映画芸術進展の歴史を把握する。その間、演劇的表現形式を逃れた映画がいかに独自の表現様式をさらに備えていったのか、他の芸術との差異をいかに形式的に獲得していったのかを理解する。無声映画時代の作品の分析を通して撮影技法、編集技法について知るとともに、それを他の映像分析において使用できるようにする。文学作品の翻案がいかになされたのかを把握し、それが映画にとっていかなる意義を持つのかを理論的に考察できるようにする。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 - 時代を追って通時的に映画の進展を跡付ける。主要な流派および映画作家に焦点を当て、講義中に代表的な映画作品の抜粋を上映しながら、理論的な考察を進めていく。

1. ガイダンス：映画はいかに D・W・グリフィスにまで至ったか (1895-1914)

2. D・W・グリフィスにおける映画の完成 (1) ~ 『国民の創生』(1915) と、トマス・ディクソン・ジュニア『クランズマン』(1905)

3. D・W・グリフィスにおける映画の完成 (2) ~ 『イントレランス』(1916)

4. D・W・グリフィスにおける映画の完成 (2) ~ 『散りゆく花』(1919)

5. ドイツ表現主義映画 (1) ~ R・ヴィーネ『カリガリ博士』(1919)

6. ドイツ表現主義映画 (2) ~ F・W・ムルナウ『吸血鬼ノスフェラトゥ』(1922) と、ブラム・ストーカー『ドラキュラ』(1897)

7. ドキュメンタリー映画の成立~ロバート・フラハティ『極北のナヌーク』(1922)

8. セルゲイ・M・エイゼンシュテインとモンタージュ理論 (1) ~ 『戦艦ポチョムキン』(1925)

9. セルゲイ・M・エイゼンシュテインとモンタージュ理論 (2) ~ 『十月』(1927)

10. フランス・アヴァンギャルド映画 (1) ~ ルイ・デリュック『狂熱』(1921)

11. フランス・アヴァンギャルド映画 (2) ~ ルネ・クレール『幕間』(1924)

12. フランス・アヴァンギャルド映画 (3) ~ F・レジェ『バレエ・メカニック』(1924)、マン・レイ『ひとで』(1928)

13. フランス・アヴァンギャルド映画 (4) ~ ジュルメーヌ・デュラック『貝殻と僧侶』(1927)

14. クローズアップ、あるいは饒舌な沈黙~カール・Th・ドライヤー『裁かるるジャンヌ』(1927)

15. まとめ

試験 - 実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

講義への出席と議論への参加、および学期末提出のレポートの評点を総合して成績評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

参考書 :

- ジョルジュ・サドゥール『世界映画全史』1 ~12, 村山匡一郎・出口丈人訳, 国書刊行会, 1992 年.

- 出口丈人『映画映像史—ムーヴィング・イメージの軌跡—』小学館, 2004 年.

その他の参考書については授業中に指示し、適宜プリントも配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業中に言及した映画作品を事前に見ておくようにすること。できれば映画館で鑑賞することが望ましいが、DVDなどでも可。

8. その他/In addition :

アメリカ政治社会論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 小原 豊志

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-HIS606J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

アメリカ合衆国における人民主権論の展開

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

南北戦争のさなかの 1863 年 11 月、ゲチスバーグ演説のなかでエイブラハム・リンカン大統領が「人民の、人民による、人民のための政府 (the government of the people, by the people, for the people)」を廃絶してはならない、と述べたことはあまりにも有名である。たしかに、この一節は統治の起源、主体、目的をすべて人民に帰した点で人民主権という合衆国の統治原理を見事に言い表している。しかしながら、かかる原理のもとに発足したはずの合衆国が建国からわずか 70 年にして国家分裂に陥り、その收拾にあたったリンカンがこの原理をあらためて国民に向かって説かなくてはならなかったのはなぜだったのだろうか。このような問題意識のもと、本講義では 1840 年代に起こった「ドアの反乱」という出来事を題材にして、アメリカ合衆国における人民主権論の史的展開を追跡する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

「ドアの反乱」の背景、要因、経過、結末を時系列に追跡し、そこで唱えられた人民主権論の特質を把握することによって、合衆国の立憲主義の歴史におけるこの出来事の意義を理解すること。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Rory Raven 著の The Dorr War: Treason, Rebellion & the Fight for Reform in Rhode Island の精読と議論を行なう。これにより、英文読解能力、論点の析出能力、ディベート力を養成する。なお、テキストの訳出は受講者全員が毎回担当することとする。

1. オリエンテーション

2. テキストの精読と議論 (1)

第 1 章 : The Charter

3. テキストの精読と議論 (2)

第 2 章 : We the People

4. テキストの精読と議論 (3)

第 3 章 : The People's Constitution

5. テキストの精読と議論 (4)

第 4 章 : A Movement Against All Law

6. テキストの精読と議論 (5)

第 5 章 : Algerine Law

7. テキストの精読と議論 (6)

第 6 章 : The Two Governmnets

8. テキストの精読と議論 (7)

第 7 章 : Unequal to His Situation

9. テキストの精読と議論 (8)

第 8 章 : There Is Danger Here

10. テキストの精読と議論 (9)

第 9 章 : Now Assembled in Arms

11. テキストの精読と議論 (10)

第 10 章 : Acote's Hill

12. テキストの精読と議論 (11)

第 11 章 : Algerine War

13. テキストの精読と議論 (12)

第 12 章 : Probably to Inspire Courage

14. テキストの精読と議論 (13)

第 13 章 : That Judicial Farce

15. 総括

試験 筆記試験は実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業への貢献度 (訳出・内容要約、および議論への参加度) を 40%、期末レポートを 60% に換算して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Rory Raven, The Dorr War: Treason, Rebellion & the Fight for Reform in Rhode Island (History Press, 2010).

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業では積極的な発言が求められるので、あらかじめテキストの訳出、内容要約、および論点の析出を行ってから授業にのぞむこと。

8. その他/In addition :

ラテンアメリカ社会文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時 207 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 吉田 栄人

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-CUA607J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

ラテンアメリカ先住民史/History of the Indians in Latin America

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

スペイン人の新大陸発見とその植民地支配によって生まれたラテンアメリカという地域あるいは諸国の社会と文化はどのように形成されてきたのか、その形成の歴史を主に先住民の視点から振り返る。/

In this class aims, the history of the formation of the "Indians" in Latin America from the discovery of the New world and its colonization by the Europeans to the present, will be reviewed and discussed from the point of view of the indigenous peoples.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

ラテンアメリカ地域の社会及び文化を理解する手掛かりを得る。その際に先住民という植民地支配を受けてきた人々の立ち位置を知り、その立ち位置が社会や歴史を語る上でいかなる理論的枠組みによるものかを理解できるようにする。/

This class aims to get new clues to understand the cultures and societies of Latin America. Especially it is expected to understand the situation of the subjugated Indians under colonial rule, and get knowledge on the theories used in discussing the Indians.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 以下のテーマに関して講義するとともに、参加者全員で討論する。

1. 第1回 オリエンテーション/Orientation
2. 第2回 ラテンアメリカ地誌/Geography of Latin America
3. 第3回 新大陸の発見と征服/Discover of New World and its Conquest
4. 第4回 アメリカとインディオの発明/Invention of America and Indians
5. 第5回 植民地支配下の先住民/Indians under Colonial Rule
6. 第6回 キリスト教の布教/Evangelization of Chistianity
7. 第7回 先住民社会の変容/Transformation of the Indigenous Societies
8. 第8回 ラテンアメリカ諸国の独立/Independence of the Latin American Countries
9. 第9回 国民国家の建設/Latin American Nations
10. 第10回 独裁政権/Dictators in Latin America
11. 第11回 社会革命/Social Revolutions
12. 第12回 奴隷制度から契約労働へ/From Slavery to Indentured Labor
13. 第13回 出稼ぎ労働/Migration
14. 第14回 ディアスポラ/Latin American Diaspora
15. 第15回 総括/ Overview

試験 期末にレポートを課す。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業への取り組み状況とレポートの内容により総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

アンリ・ファーヴル著 『インディヘニスモ：ラテンアメリカ先住民擁護運動の歴史』白水社、クセジュ文庫、2002年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定されたテーマに関して事前の下調べをしておく必要があります。

8. その他/In addition :

アメリカ芸論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 山内 玲

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIT608J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

アメリカスの短編小説を黒人表象の観点から読む

Reading Representation of People of African Descent in the Stories of Americas

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

1. 短編小説の精読により、文学作品の読解力を身に着ける。
2. 題目作品をその社会・歴史的な脈に置き、アメリカスの人種問題に関する基礎的な素養を身に着ける。
3. 研究を行う上で必要となる二次文献の読解力を身に着ける。

The aim of this class is to learn the academic reading skills of literature in relation to its historical context. In this semester, we read several short stories or excerpts from the novel of Americas and pay attention to the representation of people of African descent.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

1. 研究を行う上で必要となるレベルでの一次文献(文学作品)を読み解く力を習得する。
2. 講義で扱う作品の基礎的な社会背景と、その作品のテーマとのかかわりとの説明を受けた上で、アメリカスの人種問題を理解することができる。
3. 二次文献の内容を把握した上で、研究のテーマとその先行研究に対する位置づけを整理することができるようになる。

The goal of study in this class is to acquire:

1. the basic skills of reading literature through the close reading of stories
2. the basic knowledge of racial issues in Americas
3. the basic strategy of reading academic essays as second materials

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 学期中盤までは、各週配布した資料の短編小説を読んでいく。後半は二次文献を読んでいく。なお、下記の前定は講義の進み具合に応じて変更することがあるので、授業中の指示を確認すること。

In Week 2- 8, you are required to read assigned stories or excerpts.

In Week 9-14, you are required to read critical essays on these stories or excerpts.

The following schedule may change according to the ability and interest on the part of students.

1. Introduction
2. Reading Stories 1
3. Reading Stories 2
4. Reading Stories 3
5. Reading Stories 4
6. Reading Stories 5
7. Reading Stories 6
8. Reading Stories 7
9. Reading Stories 8
10. Intensive Reading of Criticism: (1)
11. Intensive Reading of Criticism: (2)
12. Intensive Reading of Criticism: (3)
13. Extensive Reading of Criticism: (1)
14. Extensive Reading of Criticism: (2)
15. Warp-up: How to Write a Research Paper

試験 You are required to submit a research paper at the end of the semester.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Class assignments (30%)

Contribution to the class discussion (30%)

A research paper (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Printed materials or PDF files are given during the class. The reading materials are written in or translated into English.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- You are required to read the assigned materials as a preparation for each class.
- As class assignments, you are required to submit a summary of the story or critical essay you read in every week.
- Pay attention to the significance of each critical

8. その他/In addition :

Though this lecture is given mainly in JAPANESE, the lecturer are required to write this syllabus in ENGLISH. The lecturer has no idea of why such an absurd thing happened. So please please be careful lest you get confused when you attend the first day of the class.

アメリカ文化形成論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 竹中 興慈

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS609J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

アメリカ分断の歴史的理由を探る

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

現在、アメリカ合衆国社会には大きな分断現象が渦巻いている。それは歴史的に見ていつの時代から存在したのであろうか。もし、アメリカ社会成立時からその源流があるとすれば、試みにその分断の歴史を探ってみよう。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

あらたに書き下ろされたアメリカ社会のとらえ方に関する研究書を批判的に読み、その当否をきめ細かく検討するなかで、研究者としての研究の視点、姿勢等を身につけていきたい。また、そのなかでアメリカ合衆国の研究の現在までの到達点を批判的に学んでいきたい。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 -

1. オリエンテーション
2. 日本語版への序文、序章、第1章 エル・ノルテの創設
3. 第2章 ニューフランスの創設
4. 第3章 タイドウォーターの創設
5. 第4章 ヤンキーダムの創設
6. 第5章 ニューネザーランドの創設
7. 第6章 植民地の最初の反乱
8. 第7章 深南部の創設
9. 第8章 ミッドランドの創設
10. 第9章 大アパラチアの創設
11. 第10章 共同の闘争
12. 第11章 六つの解放戦争
13. 第12章 独立か革命か
14. 第13章 北方の諸ネイション
15. 最初の分離運動

試験 試験に変えてレポートを提出してもらいます。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席、授業内における議論への参加度、レポートを総合的に評価します。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書として、コリン・ウッドワード著、肥後本他訳、『11の国のアメリカ史：分断と相克の400年』上下、岩波書店、2017年10月、を使います。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習は当然のことであるが、関係する研究書や概説を時間の許す限り読み漁ること。

8. その他/In addition :

併行して、個々の院生が研究したいテーマに関する研究書を、相談の上、読むこともあります。

ヨーロッパ・アメリカ研究総合演習 A

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 小原 豊志

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS610J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

ヨーロッパ・アメリカ研究の基礎 (2018-1)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ヨーロッパ、およびアメリカの文学・歴史・社会・芸術・文化を研究対象とする学生の修士論文作成に向け、受講生が研究報告をおこない、その報告に関する質疑応答や意見交換を出席者全員でおこなう。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

研究報告ならびに議論をつうじ、学術研究の方法を習得するとともに、完成度の高い修士論文を作成する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 1 年次学生は研究テーマの確定のため、研究題目発表会に向けた研究報告を数回にわたっておこなう。2 年次学生は修士論文の骨子確定のため、修士論文構想発表会に向けた研究報告を数回にわたっておこなう。

1. オリエンテーション
2. 発表 (1)
3. 発表 (2)
4. 発表 (3)
5. ディスカッション (1)
6. 発表 (4)
7. 発表 (5)
8. 発表 (6)
9. ディスカッション (2)
10. 発表 (7)
11. 発表 (8)
12. 発表 (9)
13. ディスカッション (3)
14. 総括 (1)
15. 総括 (2)

試験 レポート等

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

研究報告内容および議論への参加度を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他/In addition :

オフィスアワー : 木曜日 14:10~14:40

ヨーロッパ・アメリカ研究総合演習B

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 小原 豊志

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS610J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

ヨーロッパ・アメリカ研究の基礎 (2018-2)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ヨーロッパ、およびアメリカの文学・歴史・社会・芸術・文化を研究対象とする学生の修士論文作成に向け、受講生が研究報告をおこない、その報告に関する質疑応答や意見交換を出席者全員でおこなう。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

研究報告ならびに議論をつうじ、学術研究の方法を習得するとともに、完成度の高い修士論文を作成する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 1 年次学生はテーマの一層の絞り込みのために数回にわたって研究報告をおこなう。

2 年次学生は修士論文の完成に向け、修士論文の具体的な内容に関する研究報告を数回にわたっておこなう。

1. オリエンテーション
2. 発表 (1)
3. 発表 (2)
4. 発表 (3)
5. ディスカッション (1)
6. 発表 (4)
7. 発表 (5)
8. 発表 (6)
9. ディスカッション (2)
10. 発表 (7)
11. 発表 (8)
12. 発表 (9)
13. ディスカッション (3)
14. 総括 (1)
15. 総括 (2)

試験 レポート等

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

研究報告内容および議論への参加度を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他/In addition :

オフィスアワー : 木曜日 14:10~14:40

アジア社会文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), **単位数/Credit(s) :** 2

担当教員/Instructor : 勝山 稔

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIT611J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

アジア社会文化研究の基礎知識

Basic knowledge of Asian culture and society

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義では、中国がどのような歴史を歩んできたのかを学ぶことによって、アジア社会文化の特徴や個性を歴史的に理解することを目的とする。

This course covers the history of China to help students understand the characteristics of studies of Asian society and culture with China from a historical perspective.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

本講義の最大の目的は、従来の講義で二次的な扱いしか受けていなかった「研究」という視点を加味し、研究の意義や過去の研究者の足跡、そして研究の現場や実例を多角的に体験することで、基礎知識の再確認と学問研究の意義を理解することにある。

The main purpose of this course is to review basic knowledge and understand the significance of scholarly research, by adding the perspective of "research," which has only been a secondary element in lectures in the past, and through learning the significance of research and the achievements of researchers in the past, and experiencing research sites and actual examples from various angles.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 本授業は講義を中心に進める。内容及び進度予定は以下のとおりである。

This is a lecture-centered course. The contents and schedule are as shown below:

1. 史料の扱い方

How to handle it historical sources

2. 敦煌文書

Dunhuang manuscripts

3. 史料批判の方法と実例

The method and example of historical-records criticism

4. 正史と『資治通鑑』の基礎知識

Basic knowledge of "Zheng shu" and "Zi zhi tong jian"

5. 目録の歴史と変遷

History of a list, and changes

6. 政書と『永楽大典』

"zheng shu" and "Yong le da dian"

7. 『四庫全書』

"Si ku quan shu"

8.

9.

10.

11.

12.

13.

14.

15.

試験 なし

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

Submitted reports, attendance and so on are evaluated.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

必要に応じて、資料 (プリント等) を配布する。

References (handouts) are provided, when needed.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間は限られているので、自主学習が重要になる。予習・復習を必ず行うようにすること。

The session time is limited and therefore self-directed learning is important. Students are required to prepare and review for each class.

8. その他/In addition :

アジア思想文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 5 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 朱 琳

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS627J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

近代日本知識人の「中国」表象——明治大正期の中国紀行文を手がかりに

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、明治大正期の代表的な中国紀行文を取り上げ、近代日本知識人の中国認識の再考を試みる。また、同時代の社会背景や彼らをめぐる交友関係などにも目を配りながら、それぞれの中国認識の表と裏、光と影、理想と現実などをも探ってみる。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

明治大正期の中国紀行文を手がかりに、近代日本知識人の「中国」表象の一側面を明らかにする。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 近代日本知識人の「中国」表象を解明するために、基礎事実の確認、原典の精読、研究文献の分析などに目を配りながら、授業を進めていく。

教員による講義の形をとらず、関連テキストの輪読や院生による研究発表を中心に授業を実施する予定である。したがって、履修者の積極的な参加が不可欠である。この点に関しては、履修の際、ぜひ留意していただきたい。

1. ガイダンス

2. 内藤湖南『燕山楚水』(博文館、1900年) ①

3. 内藤湖南『燕山楚水』(博文館、1900年) ②

4. 内藤湖南『燕山楚水』(博文館、1900年) ③

5. 夏目漱石「満韓ところどころ」(『朝日新聞』、1909年10月21日—12月30日) ①

6. 夏目漱石「満韓ところどころ」(『朝日新聞』、1909年10月21日—12月30日) ②

7. 夏目漱石「満韓ところどころ」(『朝日新聞』、1909年10月21日—12月30日) ③

8. 徳富蘇峰『七十八日遊記』(民友社、1906年) ①

9. 徳富蘇峰『七十八日遊記』(民友社、1906年) ②

10. 徳富蘇峰『支那漫遊記』(民友社、1918年) ①

11. 徳富蘇峰『支那漫遊記』(民友社、1918年) ②

12. 芥川龍之介『支那遊記』(改造社、1925年) ①

13. 芥川龍之介『支那遊記』(改造社、1925年) ②

14. 芥川龍之介『支那遊記』(改造社、1925年) ③

15. 総括

試験 与えられた課題を小論文にまとめ提出する

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

平常点 (出席+レポート+授業への参加および貢献度など) 60%+授業発表 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

参考書: 小島晋治編『明治中国見聞録集成』20巻、ゆまに書房、1997年。

同 『大正中国見聞録集成』20巻、ゆまに書房、1999年。

張明傑編 “近代日本人中国遊記”シリーズ、中華書局。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の宿題 (指定した原典の精読や周辺文献の蒐集など) を果たすこと。

8. その他/In addition :

学生の理解度などにあわせて、ことわりなく授業の内容や進度を調整することがある。

東アジア社会構造論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 前島 佳孝

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-HIS613J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

中国古代中世における社会構造の諸相

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

中国古代中世の様々な社会的事象の構造を分析することを通じて、中国を中心とする東アジア世界の形成を考える。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

中国を中心とする東アジア世界の形成について知る。

歴史事象を構造的に整理・把握する意識を養う。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 講義形式で行う。

1. ガイダンス

2. 「東洋」とはどこか

3. 都市国家の時代

4. 春秋戦国時代の社会変革

5. 漢代の農民と豪族

6. 西晋の「滅亡」

7. 東晋南朝の世界観

8. 暦の基本構造

9. 前近代東アジア地域システム

10. 隋代の長安と洛陽

11. 禅譲革命の様式化と例外

12. 奈良・平安時代の中国認識

13. 唐宋変革

14. 科挙通史

15. まとめ

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席：40%、レポート：60% で評価を行う。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書：プリントを配布する。

参考書：松丸道雄等編『世界歴史大系 中国史』各巻（東京：山川出版社・1996～）、愛宕元，富谷至編『中国の歴史』（京都：昭和堂・2009年）。他にも授業中に随時紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義に先だって上掲参考書の当該箇所を目を通して置く。講義で述べた事項を各自の専門とする時代や地域、テーマと比較して考えることは有益である。さらに検証内容の構造を示す概念図を描き起こすことも試みて欲しい。

8. その他/In addition :

講義は日本語で行う。

イスラーム圏政治社会論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 黒田 卓

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-HIS614J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

イスラームの発祥と共同体

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

中東地域を核とするイスラーム圏。現代の政治状況は混沌として先行きさえ不透明な状況である。しかし移ろいやすい政治世界の背後には、この地域に 1500 年にわたって培われてきた思想や文化の営みがある。本授業は、いま一度原点に立ち返って、イスラームの発祥した現場がどのような環境であり、それが預言者をリーダーとして成立する共同体の在り方や思想にどのような刻印を残したかを検討する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ・イスラームが発祥するアラビア半島の物理的・精神的環境をを理解する
- ・イスラームの預言者ムハンマドの生涯と思想を大枠で把握する。
- ・イスラーム共同体の在り方と政治思想の発展を理解する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 本授業は、現代政治の動向を考えるうえでも不可欠なイスラームのイスラームたる所以に当たるところを探る試みであり、そのため講義形式による分かりやすい説明と、日本語で書かれた定評ある著作を精読することにより、多角的にイスラームを理解できるように考慮する。

1. オリエンテーション
2. イスラームとは何か(1)
3. イスラームとは何か(2)
4. イスラームとは何か(3)
5. 預言者ムハンマド(1)
6. 預言者ムハンマド(2)
7. 預言者ムハンマド(3)
8. 預言者ムハンマド(4)
9. 預言者ムハンマド(5)
10. 中間まとめ
11. イスラーム発祥の現場(1)
12. イスラーム発祥の現場(2)
13. イスラーム発祥の現場(3)
14. イスラーム発祥の現場(4)
15. 最終まとめ

試験 著作の読解や中味の報告、議論を重視する。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席状況、討論への参加、レポート提出などを基礎に総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書として、イスラームの宗教・政治思想とアラブ的思考法を考察する井筒俊彦『イスラーム生誕』(人文書院、初版 1979 年、後に中公文庫 440、1990 年に再録)を使う。参考書は授業のなかで適宜紹介するが、カレン・アームストロングの『ムハンマド：世界を変えた預言者の生涯』(国書刊行会、2016 年)も随時比較の対象として参照する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教科書として使うテキストは必ず受講者が全員読んで、討論に参加できるように備えること。

8. その他/In addition :

授業は講義形式と著作の輪読・報告形式を併用する。

中東・アフリカ社会構造論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 3 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 大河原 知樹

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS615J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

中東・アフリカ研究とディアスポラ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ディアスポラは、かつてはユダヤ社会に限って用いられた概念でしたが、20 世紀半ば以降、多様なコミュニティを指して用いられるに至りました。この授業では、ディアスポラ研究の展開を扱った論文（英文、邦訳あり）を手掛かりとして、ディアスポラ研究の基礎を理解することをめざします。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ・ディアスポラとは何かを理解する。
- ・ディアスポラの古典的概念と新しい研究の展開を理解する。
- ・自分の研究テーマに、可能なかぎり、ディアスポラ研究を応用する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 回により、講義、学生による発表、または全体討論となります。

1. ディアスポラ研究の展開（講義）
2. ケース 1 : ユダヤ・ディアスポラ（講義）
3. ケース 2 : 被害者ディアスポラ
4. 討論 : ケース 1 及び 2
5. ケース 3 : 労働ディアスポラと帝国ディアスポラ
6. ケース 4 : 交易ディアスポラ
7. 討論 : ケース 3 及び 4
8. ディアスポラの力（1）
9. ディアスポラの力（2）
10. 討論 : ディアスポラの力
11. ディアスポラ（1）
12. ディアスポラ（2）
13. 討論 : ディアスポラ
14. 総括と批判的検討（1）
15. 総括と批判的検討（2）

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

平常点（40%）とレポート（60%）により評価します。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

講義初回に提示します。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

関連項目を発展的に学習することによって、学習内容を深めるよう、努めてください。

8. その他/In addition :

中東・アフリカ社会文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 松原 康介

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS616J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

中東・北アフリカ地域の都市世界をさぐる

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

中東・北アフリカ地域には、イスラームをはじめとする様々な宗教が、都市の構成にも影響を与えてきました。一見すると迷路のようでありながら、しかし隠された秩序のある都市空間は、現在、世界遺産にも登録され、様々な保全、活性化、観光化のための試みもなされています。さらに、かつてのフランスの植民地であったことから、パリを思わせるような新市街も存在し、多文化空間を実現しています。

この講義では、講師自身が作成、撮影してきた映像資料をふんだんに用いて、中東・北アフリカ地域に古くから存在してきた、歴史都市の空間のありかたを学習します。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

目標1 : 中東・北アフリカ地域の特徴ある都市空間について、宗教施設、交易施設、市場、隊商宿、公共浴場といった、基本的な構成要素の存在と、それらの有機的なつながりをイメージできる。

目標2 : また、現在における、老朽化と保全、開発と観光といった課題を概略的に説明できる。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 -

1. 迷宮都市フェスの空間秩序と北アフリカの諸都市(1)
2. 迷宮都市フェスの空間秩序と北アフリカの諸都市(2)
3. 迷宮都市フェスの空間秩序と北アフリカの諸都市(3)
4. シリア・アレppoの旧市街と西アジアの歴史都市(1)
5. シリア・アレppoの旧市街と西アジアの歴史都市(2)
6. シリア・アレppoの旧市街と西アジアの歴史都市(3)
7. 中央アジアと中国・西安、東南アジアの都市空間(1)
8. 中央アジアと中国・西安、東南アジアの都市空間(2)
9. 中央アジアと中国・西安、東南アジアの都市空間(3)
10. 日本の先人・番匠谷堯二の業績(1)
11. 日本の先人・番匠谷堯二の業績(2)
12. 日本の先人・番匠谷堯二の業績(3)
13. 世界遺産と国際協力、そして内戦復興の都市計画(1)
14. 世界遺産と国際協力、そして内戦復興の都市計画(2)
15. 世界遺産と国際協力、そして内戦復興の都市計画(3)

試験 最終レポートの提出をもってこれにかえます。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席50% レポート50%により評価します。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

陣内秀信・新井勇治『イスラーム世界の都市空間』法政大学出版局、2002

松原康介『モロッコの歴史都市 フェスの保全と近代化』学芸出版社、2008

※そのほか、参考書を講義中に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義で紹介する参考書や映画などを見ておくと具体的な都市・建築のイメージがわかります。また、仙台であれば青葉通りなど、戦災復興都市計画の成果を実地で見聞しておくべターです。

8. その他/In addition :

特になし

アジア・アフリカ研究総合演習A

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 黒田 卓

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS617J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

アジア・アフリカ研究の現状と課題 A

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）を中心に行う。

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を中心に行う。

1. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 1
2. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 2
3. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 3
4. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 4
5. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 5
6. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 6
7. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 7
8. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 8
9. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 9
10. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A10
11. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A11
12. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A12
13. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A13
14. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A14
15. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A15

試験 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から、

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を試験する。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

資料は発表者が作成・配布する。

参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レジュメの準備、討論の内容整理が必須。

8. その他/In addition :

とくになし。

アジア・アフリカ研究総合演習 B

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 黒田 卓

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS617J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

アジア・アフリカ研究の現状と課題 B

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）を中心に行う。

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を中心に行う。

1. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 1
2. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 2
3. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 3
4. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 4
5. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 5
6. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 6
7. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 7
8. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 8
9. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 9
10. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 10
11. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 11
12. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 12
13. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 13
14. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 14
15. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 15

試験 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から、

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を試験する。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

資料は発表者が作成・配布する。

参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レジュメの準備、討論の内容整理が必須。

8. その他/In addition :

とくになし。

日本文化基層論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 3 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐藤 勢紀子

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIT618J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

平安人の表現と意識—『源氏物語』を中心に—

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

『源氏物語』を主対象に、一般に平安文学を特徴づけるものとされている「あはれ」、「宿世」、「色好み」という三つの表現を核として関連する様々な表現を取り上げ、古代から中世にかけての日本人のものの見方や考え方について考察する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ・ 平安時代の文学、思想、社会状況についての知見をもとに、日本語および日本文化の基層についての理解を深める。
- ・ 辞書や注釈書等を手引きとして、古文を読む方法を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 下記のテーマで講義を行う。受講者は授業期間中 1 回、その回のテーマと関係の深い『源氏物語』の一節について報告する。報告者は担当部分の『源氏物語』テキストの原文および口語訳のほか、その部分についての 3 つの訳本（現代日本語訳／外国語訳）を選んで読み、訳の異同について報告し、担当部分の内容についてコメントする。それをもとにクラスで意見交換を行う。

1. ガイダンス
 2. 『源氏物語』の概要
 3. テキスト、注釈、翻訳、翻案
 4. 総論
 5. 時間意識(1) 「年返る」「年変はる」—年次交替の捉え方—
 6. 時間意識(2) 「あはれ」—時間経過がもたらす感動—
 7. 時間意識(3) 「さるべき」—前世が決める現世の時間—
 8. 階層意識(1) 「奏す」—敬語で表す人間関係—
 9. 階層意識(2) 「宿世」—仏教の三世観と階層—
 10. 階層意識(3) 「憂き身」—女性の境涯—
 11. 階層意識(4) 「心にかなはぬ身」「身にかなはぬ心」—中流貴族の悲哀—
 12. 恋愛観(1) 「色好み」①—「色好み」の肯定的な捉え方—
 13. 恋愛観(2) 「色好み」②—「色好み」の否定的な捉え方—
 14. 恋愛観(3) 「袖触る」—淡い関係—
 15. 恋愛観(4) 「心の引く方」—恋の引力—
- 試験 試験は行わない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席および授業参加 40%、報告 30%、期末レポート 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教室で指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

前もって配布されるテキストを読んで授業に参加する。報告では、テキストの精読、訳本との比較、内容についての考察を行い、レジュメを作成する。

8. その他/In addition :

比較文化形成論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 鈴木 道男

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-CLC619J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

江戸博物学とその現代への継承

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

18 世紀から 19 世紀初頭にかけて、西欧以外では唯一日本において[「博物学」が発展したとされる。自然物の命名記載、およびその体系化を目指す「博物学」について、比較の視点から、特に日本における展開と独自性について理解し、併せて明治以降の日本人の自然理解の特殊性にそれを照射する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- 1) 江戸博物学の独自性を理解し、当時の諸学におけるその位置を確認しつつ、その到達点を探る。
明治以降に江戸博物学が及ぼし続けた影響を理解する。
- 2) 植民地の産物の体系的整理の必要から発展した西洋の博物学と、いわゆる「鎖国」によって必然的に成立した日本の博物学の発展史の差異を理解する。
- 3) 日本においても限定的ながら西洋学の博物学が存在した事例を理解する。
- 4) 江戸博物学が近代日本に継承された歴史的経緯とその影響を理解する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 一座学を中心とするが、講義期間内に一度、狩野文庫第八門を中心に、江戸博物学の成果の実物に触れて理解を深める。

1. 現代と博物学
2. 西洋博物学と植民地
3. 本草学と博物学
4. 狩野文庫実習
5. ケンペルと中村楊斎の『訓蒙図彙』
6. 丹羽正伯の『産物帖』と博物大名
7. ツェンペリと江戸の学者たち
8. シーボルトと尾張・江戸の学者たち
ケンペル、ツェンペリ、シーボルトの来日をもたらしたもの
9. 化政期の「江戸」博物学
10. 堀田正敦と化政期の政治、学問
11. 堀田正敦の博物学 1 鳥の殿様 総合の学としての博物学
12. 堀田正敦の博物学 2 北方への関心
13. 堀田正敦の博物学 3 網羅的博物学への展開
14. 幕末の博物学
15. 明治以降の日本博物学 (ファーブル理解を中心に) - 日本人の自然理解の特殊性

試験 試験は行わない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業への参加を重視する。レポートを課す。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

必要な資料は教室で渡す。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

期末にレポートを課すので、その準備が必要となる。

8. その他/In addition :

ゼミスター中に一度狩野文庫において実習する。

近代日本思想論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : GODART GERARD RA

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-HIS628J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

Nichirenism: Religion and Modernity in Japanese and World History

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

In this course, we will explore the phenomenon of Nichirenism, a modern variant of Nichiren Buddhism that captivated the imagination of many Japanese, especially in the early twentieth century. By situating Nichirenism in Japanese and world intellectual history, we will learn about larger historical problems of the twentieth century, such as the impact of war, the relations between religion and ideology, science & technology, fascism, and total war theory.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

Students will participate in an on-going research project and thereby develop insights into the practice of modern Japanese intellectual history.

Classes will consist of discussion and in-class projects centered around primary and secondary sources, in both Japanese and English. Texts will be provided by the instructor.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 -

1. Course orientation
2. Introductory Lecture: Nichirenism
3. Approaches to Nichirenism (1)
4. Approaches to Nichirenism (2)
5. Approaches to Nichirenism (3)
6. Primary text readings: Tanaka Chigaku
7. Primary text readings: Ishiwara Kanji
8. Primary text readings: Ishiwara Kanji
9. Primary text readings: Ishiwara Kanji
10. Primary text readings: Nichirenism and the Imperial Japanese Navy (1)
11. Primary text readings: Nichirenism and the Imperial Japanese Navy (2)
12. Religion, Science, and Technology (1): Tanaka Chigaku
13. Religion, Science, and Technology (2): Miyazawa Kenji
14. Situating Nichirenism in the Twentieth Century
15. Situating Nichirenism in the Twentieth Century

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Assessment will be based on class participation and one final take-home essay.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Texts will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Students are expected to read texts in advance.

8. その他/In addition :

現代日本社会論 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 妙木 忍

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-SOC629J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

現代日本社会論 II—統計からみる日本の女性と男性—

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この講義は、男女共同参画統計データブックを用いて、日本の現状や国際社会における日本の位置付けを理解することを目的としています。人口、家族、世帯、労働、家計、教育、社会保障、社会福祉、保健、防災などさまざまなトピックがありますが、2018 年度は以下の項目を扱います。また、男女共同参画に関わる学問領域の成立と発展を、日本や世界の動向とともに、解説します。講義を受ける中で、受講生の関心にそって自ら問いを立て、解く訓練をおこないます。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ・男女共同参画統計データや、それに関わる学問領域の発展過程を理解しながら、日本社会を多角的に考察します。
- ・メディア・リテラシーを身につけます。
- ・自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができるようになることを目標とします。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 下記の第 1 回から第 15 回を参照してください。状況に応じて、進度は変更になる場合があります。

1. オリエンテーション
2. リサーチとは何か? リサーチ・プロポーザルの作成
3. 男女共同参画からみた日本社会と国際社会
4. 男女共同参画に関する学問領域の成立と発展 (1)
5. 男女共同参画に関する学問領域の成立と発展 (2)
6. 統計をよむ (1) 家族と世帯
7. 統計をよむ (2) 労働力と就業
8. 統計をよむ (3) 労働条件
9. 統計をよむ (4) 生活時間と無償労働
10. 統計をよむ (5) 家計と資産
11. 統計をよむ (6) 教育と学習
12. 統計をよむ (7) 社会保障と社会福祉
13. 統計をよむ (8) 意思決定と意識調査
14. プレゼンテーション
15. まとめと討論

試験 実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業への参加度 (20%)、課題提出 (20%)、プレゼンテーション (20%)、レポート (40%)。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書: 男女共同参画統計研究会編集、2015、『男女共同参画統計データブック—日本の女性と男性—2015』、ぎょうせい。
参考文献: 授業中に紹介します。適宜プリントも配布します。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業の予習と復習、宿題、リサーチ・プロポーザルの作成、レポートの執筆。

8. その他/In addition :

教員の連絡先とオフィスアワーは授業中に伝えます。

比較社会文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時 207 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐野 正人

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-CLC623J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

東アジアの大衆文化を考える

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

東アジアの大衆文化は、最近とみに相互交流が進んでいる。ドラマ、映画、音楽、漫画、ファッション、等々の各分野で「韓流」「日流」「華流」のブームが見られるように、国境の枠を超えた流通と相互交流が行われるようになっている。授業では主に東アジアの日本、韓国、中国、台湾での大衆文化の交流のあり方を検討していく。主に佐野が 2000 年代以降の「韓流」と「日流」を取り上げ、相互の文化交流のあり方を検討する。その後、学生が発表を担当し、東アジアでの文化流通の様々な様相を検討していく。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ・ 2000 年代の東アジアの文化交流の概要、「韓流」と「日流」について考察する
- ・ 「韓流」の代表的な作品 (映画、ドラマ)、「日流」の代表的作品 (小説、ドラマ、アニメ) を知る
- ・ 中国、台湾での「哈日族」、「哈韓族」について知る
- ・ 東アジアの文化交流についてそれぞれのテーマを決め、まとめる

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 2000 年代の東アジアの文化交流について、特に「韓流」「日流」「華流」を中心として、その様々な様相を検討していく。

1. オリエンテーション (1) 2000 年代以降の東アジアの大衆文化交流
2. オリエンテーション (2) 「韓流」と「日流」をめぐって
3. オリエンテーション (3) 代表的な「韓流」作品
4. オリエンテーション (4) 代表的な「日流」作品
5. オリエンテーション (5) 中国、台湾の大衆文化交流
6. 学生発表 (1)
7. 学生発表 (2)
8. 学生発表 (3)
9. 学生発表 (4)
10. 学生発表 (5)
11. 学生発表 (6)
12. 学生発表 (7)
13. 学生発表 (8)
14. 学生発表 (9)
15. まとめ・総括

試験 試験は行なわないが、期末レポートを課す。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席・平常点および期末レポートによって、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

授業内で指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

扱う地域や範囲が広いので、各自のテーマを設定し、それについての調査、研究を進める。それについての発表を行い、期末レポートにまとめる。

8. その他/In addition :

一応東アジア (日本、韓国、中国、台湾) の大衆文化を主な対象とするが、それ以外の地域出身の者でも参加してもらってかまわない。その他の地域の大衆文化を取り上げる可能性もある。

日本宗教史Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : KLAUTAU ORION

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-HIS630J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

近代日本仏教史入門

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ペリー来航にともなった「開国」、そして明治維新によって、それまでの体制が動揺し、様々な形で変遷した。一部の知識人に、江戸幕府を象徴する「旧弊」のひとつとして理解された仏教も、制度的な面のみならず、思想的にも再構築されていく過程に置かれた。この科目では、この変遷過程の社会的な要素も念頭に置きながら、特に思想史的な側面を検討していく。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

近代日本仏教史の基礎的な知識を身に付けつつ、当該研究分野の現状と課題を確認する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 本講義において具体的に、次の三つの視点から近代仏教思想の理解を目指す—— (1) 維新と宗門、(2) 近代知と仏教、(3) 仏教とナショナリズム。

1. ガイダンス

2. 「Modern Buddhism」研究の課題

3. 近代日本仏教の研究史と現状①

4. 近代日本仏教の研究史と現状②

5. 幕末期の仏教思想①

6. 幕末期の仏教思想②

7. 明治初期の仏教①

8. 明治初期の仏教②

9. 近代知と仏教①

10. 近代知と仏教②

11. 立憲国家と仏教①

12. 立憲国家と仏教②

13. 仏教と社会实践——新仏教運動をめぐって

14. 近代仏教と「精神主義」

15. 全体のまとめ

試験 本科目では、試験を行わない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

平常点 (授業への積極的な取り組み) と学期末レポートに基づいて総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

【参考書】大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎編『近代仏教スタディーズ——仏教からみたもうひとつの近代』法蔵館、2016年。その他の使用テキストおよび参考文献は、担当教員が授業にて指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストが指示された場合、事前に読んでくれることが求められる。

8. その他/In addition :

特になし

日本研究基礎論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 茂木 謙之介

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS631J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

〈天皇〉から考える日本学

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

近現代の天皇とそれを取り囲むシステムとしての天皇（制）は、「日本」を考えるに際して不可避のテーマだが、同時にさまざまな力学の絡み合うことに由来する問の困難さも内在させている。本講義では近現代天皇（制）をめぐる表象文化史を中心的な素材とし、表象文化論・メディア史・文学研究等の学知を参照しつつ、検討する。その過程は同時に近現代日本を学際的に問う日本学の方法を考究するものともなるだろう。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

近代天皇（制）の表象について、基礎的な知識を共有することができる。一つの検討対象について多角的なアプローチが可能であることを理解し、それを実際に運用することができる。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 明治から現代にいたる天皇（制）に関する諸表象を検討する。

1. イントロダクション
2. 前近代の天皇と近代の天皇
3. 近代天皇像の形成
4. さらされる身体
5. 〈御真影〉という装置
6. 検閲というシステム
7. ワークショップ「天皇制の近代と宗教」①
8. ワークショップ「天皇制の近代と宗教」②
9. ワークショップ「天皇制の近代と宗教」③
10. 僻地と国民国家
11. 消費社会とファッション
12. 危機と奇跡
13. 〈人間天皇〉とその周辺
14. 皇族の神格化と地域社会
15. まとめ

試験 実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

コメントペーパー20%、レポート80%で評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書および参考書は特に使用しない。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時に配布するレジュメについて、授業後に復習し、疑問等あった場合は次回以降の授業で質問すること。

8. その他/In addition :

国際日本研究総合演習 A

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐野 正人

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS626J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際日本研究の実践

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

受講者が各自の研究テーマで研究発表を行い、それについて参加者全員で討議する。国際日本研究に関わる研究を行う上で必要とされる方法論と研究発表の仕方を、各人の研究テーマに即して検討する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

国際日本研究に関わる研究テーマの設定の仕方、資料の扱い方、発表の仕方、発表レジュメ/ハンドアウトの書き方について学ぶ。また、他の受講者の発表について討議することで、他者の論の論点を把握し、批評する能力を高める。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 発表者はあらかじめ演習参加者に配布した発表レジュメ/ハンドアウトにもとづき各自の研究テーマで発表を行なう。その後、全員で発表内容や発表の仕方について質疑応答、意見交換を行なう。

1. 第1回 ガイダンス
2. 第2回 発表および討議
3. 第3回 発表および討議
4. 第4回 発表および討議
5. 第5回 発表および討議
6. 第6回 発表および討議
7. 第7回 発表および討議
8. 第8回 発表および討議
9. 第9回 発表および討議
10. 第10回 発表および討議
11. 第11回 発表および討議
12. 第12回 発表および討議
13. 第13回 発表および討議
14. 第14回 発表および討議
15. 第15回 発表および討議

試験 試験は行なわないが、発表レジュメ/ハンドアウトをもとに、討議の内容にもとづく検討結果やその後の研究成果を反映させた期末レポートの提出を課す。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

受講者の発表内容、討議への参加、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

必要に応じて、教室で指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表の準備を行なうこと、毎回の授業の前に発表レジュメ/ハンドアウトを読んで要点を把握し、質問やコメントを考慮しておくこと、期末レポートをまとめること。

8. その他/In addition :

レジュメ/ハンドアウトは、発表する週の月曜日までに提出のこと。
本授業においては、受講者の積極的な発言が求められる。

国際日本研究総合演習 B

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), **単位数/Credit(s) :** 2

担当教員/Instructor : 鈴木 道男

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-ARS626J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際日本研究の実践 2

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

受講者が各自の研究テーマとその進度に応じて発表を行い、参加者全員による討議を受ける。研究推進に必要とされる方法論、発表法について議論が行われる。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

各自の研究に関するテーマ設定の適切さ、発表の行い方、レジュメと資料の作成法について学ぶ。他の発表者への討議に参加し、適切に批評する方法を理解し。各自の研究に生かす。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 発表者はあらかじめ期日までにレジュメ・藩祖アウトを参加者全員に配布し、これにもとづいて当日発表する。その後全員で質疑及び意見交換をおこなう。

1. ガイダンス
2. 発表および討議
3. 発表および討議
4. 発表および討議
5. 発表および討議
6. 発表および討議
7. 発表および討議
8. 発表および討議
9. 発表および討議
10. 発表および討議
11. 発表および討議
12. 発表および討議
13. 発表および討議
14. 発表および討議
15. 発表および討議

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

試験は行わない。ただし、各自が発表したレジュメ等をもとに、討論で受けた私的に答え、その後の研究成果を反映させた期末レポートの提出を求める。これをもとに、総合的に評価する

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

特に設定しない。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表準備、期末レポート準備、他の発表者のレジュメ等の精読。

8. その他/In addition :

発表レジュメ・資料は発表の月の月曜日までに提出、配布すること。すべての出席者の活発な議論が求められる。

欧米国際関係論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 担当教員

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-POL622E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Global Issues of the 21st Century: understanding through the historical context colonialism and post-colonialism

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course deals with global issues, such as terrorism, ethnic and religious conflicts, drugs, poverty, the environment, human rights (racial discrimination), cultural and national identities through the history of British & European Empire and its colonial and international relations. It does this on the grounds that it is absolute vital to understand history and the historical context in order to fully appreciate Twenty-First century global issues.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

To be announced.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 See above.

1. The course looks at the history of British & European relations with their formal and informal empire (colonies) which caused and still causes several conflicts and global questions. The course will examine a wide range of topics associated with history a

2. Basic knowledge of the history of the British and European Empire PART 1: I will provide an outline of the history of the British Empire as a whole including British India, South-East Asia, Middle East and the White Dominions, Canada, Australia, New Zeala

3. Basic knowledge of the history of the British and European Empire PART 2: I will introduce the notion of formal and informal empires as Britain' s role as a world power rested not just on simple territorial annexation but also its financial and trade contr

4. This session will look at the Middle East in historical context. It is well known that Britain used diplomacy towards the Arabs, the Jews and France during the First World War in order to win the war against Turkey which was Germany' s ally. This caused mu

5. This session will also look at the Middle East in historical context. It was worth noting that the League of Nations which was established in the post First World War period allowed Britain to rule Palestine and even Iraq as mandates. This eventually led

6. After looking briefly at British India the class examines how Britain financed British India using the opium trade with China, and it focuses on the Opium war against China in the 19th century. Trade, capitalism and pure commercial profit are still explan

7. In this session, we will focus on the issue of immigration and racial discrimination in their historical context. Immigration is one of the important global issues in the present world and racial discrimination is still one of the biggest problems. After

8. We will examine the slave trade, which Britain was historically involved with the slave trade in order to maximize the profits from its sugar plantations in the Caribbean and brought black Africans to the American continents. Then, after abolishing the sl

9. We will investigate the role of religion in world affairs. This has been increasingly prominent since the end of the Cold War, while the interplay between religion and the Cold War is also currently a hot topic in historical and international relations st

10. The session will discuss the Vatican' s attempt to make a rapprochement with the Anglo-Saxons, which were historically anti-Catholic. This proved extremely important both during and after the Cold War. Fortunately even during the nineteenth century, for Br

11. We will focus on the Vatican' s relations with Third World, such as the Asian, the African and particularly the Latin America countries. The Vatican' s connections with those areas have more recently become more important, thus proving that the Papacy is in

12. The class will deal with the poverty and environment issues which can be seen as the negative heritage of British & European imperialism. However, I will also point to the attempt to tackle poverty and environmental issues through non-governmental organiz

13. We will deal with cultural and national identities. Samuel Huntington, in response to the drift towards globalization, argued that there was a danger of a clash of civilizations, Christian vs. Muslims, West vs. East. This conservative view of the world as

14. Following the previous class' s argument, the class will examine multi-culturalism and the integration of different cultures, and how the second and third generations of immigrant communities live in Britain and France, and the question of segregation or i

15. Reflections and conclusions

試験 To be announced.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

To be announced.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

A. Best, J. Hanhimaki, J. Maiolo & S. Kirsten, International History of the Twentieth Century and Beyond, London, 2008

Further details will be announced in the first class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

To be announced.

8. その他/**In addition** :

東アジア国際関係論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 1 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 勝間田 弘

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-POL602E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

International Relations of East Asia

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

The aim of this course is to gain comprehensive knowledge of international relations in East Asia. In particular, its aim is to examine the characteristics of international relations in this region and their key determinants. The term "East Asia" here refers to the area encompassing Northeast and Southeast Asia. This region is diverse in terms of culture, religion, political systems and the levels of economic development. International relations in such a region must be analyzed from multiple points of views. In this respect, various analytical concepts and theories in the social sciences will be covered in this course.

This course (International Relations of East Asia II) need not be seen as an extension of the other (International Relations of East Asia I). All the sessions will be held in English in the former, and in Japanese, in the latter. Students may choose to take either one of them.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- To be able to identify the characteristics of international relations in East Asia
- To be able to specify the determinants of these characteristics

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 With the aim of gaining comprehensive knowledge of international relations in East Asia, a wide range of topics will be covered in this course. Specific topics to be covered in each lecture are not be fixed in advance, and will be decided on the basis of students' interests. Examples of relevant topics include the following:

1. Theories of international relations
2. Regional security
3. Economic cooperation
4. Trade and investment
5. Japanese foreign policy
6. Chinese foreign policy
7. Korean foreign policy
8. Sino-Japanese relations
9. Association of Southeast Asian Nations (ASEAN)
10. ASEAN + 3 and East Asia Summit
11. East Asian community
12. European Union and East Asia
13. United States and the Asia-Pacific
14. Human rights and democracy
15. Global norms and world politics

試験 Students will be graded on the basis of attendance, class participation, presentations, as well as exams and/or term papers.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

- Attendance and class participation 20%
- Presentations 40%
- Exams and/or term papers 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Saadia M. Pekkanen, John Ravenhill, and Rosemary Foot (eds.), The Oxford Handbook of the International Relations of Asia (Oxford: Oxford University Press, 2014).

David Shambaugh and Michael Yahuda (eds.), The International Relations of Asia, 2nd ed. (

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- Students are expected to work on assignments every week.

8. その他/In addition :

- Students should make an appointment and visit the course instructor's office when they have questions.

国際経済関係論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 横川 和男

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-EC0603J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際収支と為替相場の経済分析

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

国際マクロ経済モデルを用いて国際収支、為替相場、金融・財政政策を統合的に理解し、政策分析に応用する力を養う。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

国際マクロ経済モデルを構築して分析する力を養う。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 講義と文献講読、実習、討論を組み合わせる。

1. 国際経済関係の諸側面
2. 国際経済関係のミクロ経済的側面
3. 国際経済関係のマクロ経済的側面
4. 国際収支に現われる国際経済関係の分析 1
5. 国際収支に現われる国際経済関係の分析 2
6. 国際収支に現われる国際経済関係の分析 3
7. 為替相場と国際収支の分析 1
8. 為替相場と国際収支の分析 2
9. 為替相場と国際収支の分析 3
10. 為替相場と国際収支の分析 4
11. 開放マクロ経済モデルの構築と運用 1
12. 開放マクロ経済モデルの構築と運用 2
13. 開放マクロ経済モデルの構築と運用 3
14. 開放マクロ経済モデルの構築と運用 4
15. プロジェクトの報告

試験 なし。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

課題に対するレポートと報告による。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

参考文献は、講義中に指定する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義で学んだ分析手法の応用練習。

8. その他/In addition :

根気よく分析に取り組むことが必要。

国際経済政策論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時 2 0 3 演習室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 葉 剛

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-EC0623J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際経済政策論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

第二次世界体制後、経済のグローバル化が急速に進んでいる。一つの国の経済はグローバル経済と切り離すと、ますます発展できなくなっている。一方、グローバル・イシューといわれた国際貿易問題、難民問題、資源の開発と利用をめぐる国間の争い、自然環境の悪化が顕著に現れている。このような国際経済の変遷過程において、一つの国の対外経済政策も変容しつつあると同時に、国際協力、グローバル・ガバナンスの構築も行われている。この講義において、国際社会の諸問題を研究対象とする大学院学生に複雑で多様な現代国際社会の諸問題を解き明かすための先端的な知識と分析手法を教えることを目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

1. 現代国際社会に関する経済学の分析視角、分析方法への理解を深める。
2. 社会科学的研究の基本を固める。
3. 現在国際社会への問題関心を共有し、これらの問題点をめぐる議論を通じてそれぞれの研究につなげていく。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 授業の形式は講読にする。

講読では主に、社会科学としての経済学の視角、分析方法論について説明を行う。

授業中、取り上げる内容が自由貿易体制、国際労働移動、地域経済統合等からなる。

1. 社会科学の方法論(1)
2. 社会科学の方法論(2)
3. 国際自由貿易体制(1)
4. 国際自由貿易体制(2)
5. 国際自由貿易体制(3)
6. 国際金融体制(1)
7. 国際金融体制(2)
8. 国際金融体制(3)
9. 地域経済統合の意味(1)
10. 地域経済統合の意味(2)
11. 地域経済統合の意味(3)
12. グローバル・イシューとガバナンス(1)
13. グローバル・イシューとガバナンス(2)
14. グローバル・イシューとガバナンス(3)
15. 解題と総括

試験 共通課題を与え、レポートの作成を求める。

(レポートの内容と提出について学生の状況によって判断する)。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席、ノート、最終レポートに基づいて、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書の指定は特になし。

適宜に単行論文や学術書籍等を紹介し、またはプリントを配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

紹介した単行論文や学術書籍をよく読むこと。

8. その他/In addition :

当該授業に関する相談や議論等は常に受け付ける。

メールアドレス : gn. ie. a3@tohoku. ac. jp

国際政治経済論総合演習 A

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時 207 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 葉 剛

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-IPE605J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際政治経済研究の課題と方法 A

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

受講生各自がそれぞれの研究テーマに即して、報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員で分析・討論を行う。受講生が国際政治経済の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、それぞれの問題意識をもとに教員による研究・論文作成の指導を受ける。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

受講生が自らの研究を日本国内外の類の研究状況と比較検討し、その研究テーマの漸新性（創新性）、意義、その分析手法の特徴などを発表する。特に、この総合演習において研究課題の設定、研究資料の収集と扱い、分析の手法、論理的な展開の手法、論文作成に必要な知識と研究成果のプレゼンテーション能力を習得する。また、他の学生は発表についての的確に理解し、他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法を学び、批評する能力を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 一人か、数人の受講生の研究報告とこれに関する検討(質疑、応答)を中心に行う。

1. 修士1年次受講者は研究計画の報告と研究の方向付け

修士2年次受講者は研究の進捗状況の報告と自段階の研究の方法付け

2. 修士1年次受講者は研究計画の報告と研究の方向付け

修士2年次受講者は研究の進捗状況の報告と自段階の研究の方法付け

3. 修士1年次受講者は研究計画の報告と研究の方向付け

修士2年次受講者は研究の進捗状況の報告と自段階の研究の方法付け

4. 修士1年次受講者は研究計画の報告と研究の方向付け

修士2年次受講者は研究の進捗状況の報告と自段階の研究の方法付け

5. 修士1、2年次受講生とも先行研究論文の報告、内容の吟味、自分の研究への生かし方の明確化。研究が1段階進むごとにそのとりまとめの報告と討論、および研究指導

6. 修士1、2年次受講生とも先行研究論文の報告、内容の吟味、自分の研究への生かし方の明確化。研究が1段階進むごとにそのとりまとめの報告と討論、および研究指導

7. 修士1、2年次受講生とも先行研究論文の報告、内容の吟味、自分の研究への生かし方の明確化。研究が1段階進むごとにそのとりまとめの報告と討論、および研究指導

8. 修士1、2年次受講生とも先行研究論文の報告、内容の吟味、自分の研究への生かし方の明確化。研究が1段階進むごとにそのとりまとめの報告と討論、および研究指導

9. 修士1、2年次受講生とも先行研究論文の報告、内容の吟味、自分の研究への生かし方の明確化。研究が1段階進むごとにそのとりまとめの報告と討論、および研究指導

10. 修士1、2年次受講生とも先行研究論文の報告、内容の吟味、自分の研究への生かし方の明確化。研究が1段階進むごとにそのとりまとめの報告と討論、および研究指導

11. 修士1、2年次受講生とも先行研究論文の報告、内容の吟味、自分の研究への生かし方の明確化。研究が1段階進むごとにそのとりまとめの報告と討論、および研究指導

12. 研究の取りまとめと発表会に向けての準備

13. 研究の取りまとめと発表会に向けての準備

14. 研究の取りまとめと発表会に向けての準備

15. 研究の取りまとめと発表会に向けての準備

試験 演習でのパフォーマンス (下記のような諸事項)

1. 研究資料の収集と扱い方、分析手法、レジュメの作成、発表の方法、

2. 他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法

3. 論文の書き方

を考査する。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席、演習での発表・報告と討論の内容に基づき、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書は特に指定しない。発表者が資料を作成し参加者全員に配布する。参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レジュメと PPT の作成、討論内容の整理が必須である。

8. その他/In addition :

特になし。

国際政治経済論総合演習 B

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時 207 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 葉 剛

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-IPE605J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際政治経済研究の課題と方法 B

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

受講生各自がそれぞれの研究テーマに即して、報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員で分析・討論を行う。受講生が国際政治経済の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、それぞれの問題意識をもとに教員による研究・論文作成の指導を受ける。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

受講生が自らの研究を日本国内外の類の研究状況と比較検討し、その研究テーマの漸新性（創新性）、意義、その分析手法の特徴などを発表する。特に、この総合演習において研究課題の設定、研究資料の収集と扱い、分析の手法、論理的な展開の手法、論文作成に必要な知識と研究成果のプレゼンテーション能力を習得する。また、他の学生は発表についての的確に理解し、他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法を学び、批評する能力を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 一人か、数人の受講生の研究報告とこれに関する検討(質疑、応答)を中心に行う。

1. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
2. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
3. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
4. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
5. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
6. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
7. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
8. 受講生各自の研究報告とそれに関する研究指導。
9. 修士2年次受講生による修士論文の報告とそれに関するコメントと討論。
10. 修士2年次受講生による修士論文の報告とそれに関するコメントと討論。
11. 修士2年次受講生による修士論文の報告とそれに関するコメントと討論。
12. 修士2年次受講生による修士論文の報告とそれに関するコメントと討論。
13. 修士1年次受講生による1年間の研究報告とそれに関するディスカッション。
14. 修士1年次受講生による1年間の研究報告とそれに関するディスカッション。
15. 修士1年次受講生による1年間の研究報告とそれに関するディスカッション。

試験 演習でのパフォーマンス (下記のような諸事項)

1. 研究資料の収集と扱い方、分析手法、レジュメの作成、発表の方法、
2. 他者に対する討議の仕方、批判的検討の方法
3. 論文の書き方を
を考査する。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席、演習での発表・報告と討論の内容に基づき、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書は特に指定しない。発表者が資料を作成し参加者全員に配布する。参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レジュメと PPT の作成、討論内容の整理が必須である。

8. その他/In addition :

特になし。

資源循環型環境システム論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 劉 庭秀

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-SUD606J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

資源循環型社会の構築

Creation of a Resources Recycling-Oriented Society

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義では、主に資源循環政策の変遷、リサイクル問題の特質、環境政策学の基礎理論について講義する。さらに、アジア各国における廃棄物管理の特徴、再生資源の有効利用方法とマテリアルフローについて紹介する。また、具体的な事例（例えば、自動車・小型家電・容器包装・リサイクル、廃棄物焼却とエネルギー回収など）を用いて、総合的な廃棄物管理とリサイクルシステムを理解することに重点を置いている。

This course introduces the history of resources recycling policy, the characteristic of waste recycling issues and basic theories on environmental policy. In addition, this lecture deals with the feature of Waste Management in Asian countries, the effective utilization method of recycled material, and material flow. It also enhances to understand Integrated Waste Management and Recycling System through detailed case study, for example, ELV (End-of Life Vehicle), small home appliance, containers and packaging, waste incineration and energy recovery and so on.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

本講義の到達目標は、

- (1) 環境政策の運用実態と問題点を理解すること、
 - (2) 廃棄物管理とリサイクル政策の仕組み、政策評価理論の基礎的な知識を得ること、
 - (3) 先進国と開発途上国における廃棄物問題と政策の違いを認識すること、
- である。

The aims of this course are to

- (1) Understand the operation status of environment policy and its issues.
- (2) Obtain basic knowledge about the mechanism of waste management and recycling policy and the theory of policy evaluation
- (3) Realize differences of waste issues and policy between advanced and developing countries.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 廃棄物の適正処理と再資源化の具体的な事例を通して、環境政策の基本的な理論と実証分析方法を理解することを目的とする。

At the end of the course, participants are expected to understand basic theories on environmental policy and case study methods through the detailed case examples on proper waste disposal and recycling.

1. 授業の概要と実施計画の説明

Introduction

2. 廃棄物問題と環境政策との関係

Correlation between Waste Problems and Environmental Policy

3. 廃棄物の組成分析（質と量）の考え方

Waste Composition Analysis (Volume and Quality)

4. 廃棄物管理、潜在エネルギー、二酸化炭素排出の基礎的な計算方法

Basic Calculation Method on Waste Management, Potential Energy and CO2 Emission

5. 廃プラスチックと容器包装リサイクル

Waste Plastic and Containers and Packaging Recycling

6. 廃棄物焼却とエネルギー回収

Waste Incineration and Energy Recovery

7. マテリアルフローの考え方

Concept of Material Flow

8. 総合的な廃棄物管理

Integrated Waste Management

9. 自動車リサイクルの仕組みと課題

ELV Recycling Issues and Mechanism

10. 都市鉱山事業の妥当性検討 I

Revalidation of Urban Mining Project I

11. 都市鉱山事業の妥当性検討 II

Revalidation of Urban Mining Project II

12. 廃棄物の収集・運搬・選別・破砕・再資源化技術について

Waste Collecting, Transportation, Sorting, Shredding and Recycling Technology

13. 環境影響評価手法の紹介（ライフサイクルアセスメント）

Introduction of Environmental Impact Assessment Method (Life Cycle Assessment)

14. 環境影響評価の事例分析

Case Study of Environmental Impact Assessment

15. 最終レポートの発表

Presentation for Final Report

試験 最終レポートと発表

Final Report and Presentation

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

成績評価は以下の方法で行う。

- (1) 講義への出席状況と受講態度 30%
- (2) 最終レポート 50%
- (3) 最終レポートの発表 20%

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- (1) Class attendance and attitude in class:30%
- (2) Final report: 30%
- (3) Presentation for final report: 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

特になし。必要に応じて授業資料、参考文献のリストを配布

Will provide the list of references implement a timely.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

-

8. その他/In addition :

オフィスアワー 木曜日 13:30-14:30

Office Hours are from p.m. 1:30 to p.m. 2:30 on every Thursday.

環境共生行動論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 青木 俊明

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-PSY624J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

環境配慮行動のメカニズムと促進策
mechanism and promotion of pro-environmental behavior

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義では、環境配慮行動のメカニズムや促進要因、阻害要因について、心理学的側面を中心に解説する。特に、社会的ジレンマと市民参加については詳細に講義する。これらを通じて、公共問題に対する人間の一般的な行動傾向を理解し、公共政策の立案能力を涵養することを目指す。

Students will gain a basic understanding about mechanism, promotion factors, and obstructive factors of pro-environmental behavior from the view points of social psychology. Goal of this course is that students understand human behavior in public issues, and explain it based on behavior theories.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- 1) 環境配慮行動に関わる基本用語を理解すること
- 2) 環境配慮行動のメカニズムを理解すること
- 3) 環境問題の改善策について、独自の提案ができるようになること

- 1) to understand basic technical terms and social problems.
- 2) to understand mechanism of pro-environmental behavior
- 3) to be able to propose public policy to improve social problem

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 環境問題に関わる協力行動と非協力行動の発生機構を、心理学的視点から解説する。

Based on theories in social psychology, mechanism of cooperative behavior and non-cooperative behavior will be explained.

1. リスク認知
risk perception
 2. 社会的ジレンマ 1
social dilemma 1
 3. 社会的ジレンマ 2
social dilemma 2
 4. 援助行動としての環境配慮行動
pro-environmental behavior viewed as helping behavior
 5. 態度と行動の不一致
inconsistency between attitude and behavior
 6. コミュニケーションによる環境行動の促進
promoting pro-environmental behavior thorough communication
 7. 交渉技術を用いた環境行動の促進
promoting pro-environmental behavior using negotiation skill
 8. エンパワメントの効果
pro-environmental behavior and empowerment
 9. 公正と環境行動 (相対的剥奪)
fairness and pro-environmental behavior (relative deprivation)
 10. 公正と環境行動 (分配的公正)
fairness and pro-environmental behavior (distributive justice)
 11. 公正と環境行動 (手続き的公正)
fairness and pro-environmental behavior (procedural justice)
 12. 公正-協力の統合モデル
integration of fairness theories and cooperative behavior theories
 13. 協力行動における遺伝要因と環境要因の影響
impact of gene and developmental environemnta
 14. 無意識下の協力行動
cooperative behavior under unconsciousness
 15. 協力行動の感染
contagion of cooperative behavior
- 試験 有り
a test will be conducted

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

試験とプレゼンテーションの合計が 60 点以上となる場合に合格とする。

students who achieve more than 60 % of total score will pass.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

環境行動の社会心理学、広瀬幸雄、北大路書房
Yukio, HIROSE, Social psychology for Pro-environmental behavior.

Kitaouji-shobo

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポート有り

An assignment will be imposed.

8. その他/In addition :

環境問題は、現在進行形の問題であるため、常に環境関連のニュースや雑誌の記事などに関心を持って参加することが望ましい。また、社会心理学の基礎用語および基本的理論については、予め理解しておくことが望ましい。

It is preferable to study basic words and theories in social psychology, in advance.

持続可能型開発論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 西宮 宜昭

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-SUD625E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Sustainable Development II

Sustainability, Sustainable Development, Sustainable Development Goals :SDGs and Development Assistance

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This class is introductory to aim at:

1) providing the applied students with basic knowledge of sustainability, sustainable development and SDGs. Those three topics are addressed in the context of development assistance especially focusing on Japan's Official development assistance (ODA). The outline of development assistance is also covered in this class.

2) making the students aware of and familiarizing students with:

factual situation of the above mentioned three topics in the frontline development assistant projects: What is going on and what is reality about the three topics?

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

On the completion of this class, the students are able to:

1) have deeper understanding of development assistance situation such as history, priority area and issues in addition to sustainability, sustainable development and SDGs.

2) identify the issues in development assistance related to sustainability, sustainable development and SDGs

3) formulate own concept on sustainability and sustainable development

4) have a base of application of sustainability to own field/expertise and/ or businesses

5) improve their discussion and presentation skills

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Outline of this class

This class is organized by lectures, discussions and mini research/presentation by the students. The covered subjects are what sustainability, sustainable development, Sustainable Development Goals are, issues and factual situation in development assistance projects.

1. Guidance

The class outline including objectives/goals, schedule, components, assignments/mini research and presentation and grading.

2. Overview of Development Assistance: history, recent trend, present situations (aid volume, aid agencies, issues etc.)

3. Overviews of sustainability discourse, sustainable development and SDGs including their relation

4. Video Watching (JICA' s video programs for SDGs)

5. SDGs: background, 17 goals and MDGs (Millennium Development Goals),

6. Case introduction and discussion using JICA' s development assistance project related to sustainability

7. Mini research and presentation preparation: Overviewing delivered references/reports to select the theme and consultation for theme selection with the instructor

8. Ditto and fix the provisional theme for mini research/ presentation

9. Individual power point slide presentation and discussions:

10. -ditto-

11. -ditto-

12. Feedback/reflection

13. Special topic introduction and discussions: infrastructure and sustainable development

14. Guest speaker' s presentation: From frontline field of development assistance project related to sustainability

15. In class individual term paper preparation (Turn in due is two weeks later)

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

The grading of this class will be based on the attitude, individual presentation and individual term paper with the following distribution:

1) Positive attitude to course works 10 %

2) Individual presentation 50%

This presentation will be evaluated by the presenter' s voice/attitude such as eye contact (10%), presentation skill (20%) and power point slide contents (20%)

3) Individual term paper 40 % (max 5 pages with figure and chart)

To pass this course, grade points more than 60% is required.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

There are not specific text books. Related references are handed out in class. It is recommended the students take a look at Brundtland Report "Our common future" referring to the web:

<http://www.un-documents.net/our-common-future.pdf>

For the theme

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

The students are required:

1) to conduct mini research: reading the reports and/or literatures, analyzing/criticizing them, find and organizing students own opinions

2) to prepare power point slides based on the mini research for the presentation

8. その他/In addition :

1) This class gives more priority to practical case knowledge about development projects rather than theories.

2) Students are required to actively take part in class for discussion and presentation.

3) Specific background or experiences are not required

4) In Session 9-12, each student will have 30 minutes for the presentation but time allocation will depend on the number of the students presentation time will be shortened.

5) Flexible class operation can be taken: a little modification of lecture and discussions is possible during the class.

環境政策論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 担当教員

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-PUP627E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

環境政策論Ⅱ / Environmental Public Policy Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、最新の環境政策の理論と実際を概括的に、参加型双方向形式で学びます。具体的には、最初に講師から各トピックに関する基本講義を行い、その上で、①学生は自身の興味関心に合うトピックと論点を選択し、簡単なプレゼン（各人 10分～15分程度を想定）にまとめて報告をする。②いくつかのホットトピックと論点（具体的には気候変動国際交渉と、SDGsの2つを予定）に関する政策ゲームを講師が提供し、学生は参加体験する。①②のどちらについても、事後にディスカッションを行い、テーマについての論点を掘り下げていきます。以上の実践的な授業により、体感的に環境政策に対する理解を深め、学生の将来の研究や就職（公務員、企業、NPO等）につなげます。

This class aims to provide students with a wide overview of the latest theory and practice of environmental policy in participative and interactive manner. First of all, basic concepts of each issue will be briefly presented by a lecturer in their historical and practical context of environmental policies. Then, 1) students are expected to make a short presentation about their choosing a question of topics, 2) students will experience the exercise of political negotiation games about climate change and SDGs (Sustainable Development Goals) in the class. After that, a lecturer and students will have discussions in each theme. Students can grow deeper understanding on environmental policies through this practical class; and then, they can get a good provision of their future study and job hunting.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

環境政策のトピックに関して基本的な知識と理解を得ること。また、環境政策の立案と実践に当たっては、理論に加えて、各関係ステークホルダー（利害関係者）等との調整が必要であることを理解すること。その上で、将来、実際に国や自治体、企業、NPOなどで環境政策を実践することがあったり、研究を深めたりする上でも、対応できるように準備することを目指します。

Students are required to get basic understanding in each topics of environmental policies.

Then, students are expected to understand the necessity for consensus building among stakeholders in order to make and practice environmental policies in addition to those theories. Also, students are expected to get acquired how to practices of making environmental policies for their future study and job.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 広く環境政策全般を対象に、環境政策の理論と実践について、各トピックを例として学ぶ。特に最近のホットイシューである地球温暖化やSDGsについては多角的に取り上げる。

Overview; the lecture focuses on wide range environmental policies and students learn the theories and practices of environmental policies. Hot issues, especially, such as climate change and SDGs will be delivered from some points of views.

1. 授業の全体像と進め方及び各回の概要説明、次回以降の学生の発表論点と担当を決める

Introduction (to decide which topic as you want to present from next classes)

2. 環境政策の歴史、環境政策の手法、環境政策の立案と合意形成

History, approach, methods and how to build and get consensus on environment policies.

3. 公害問題、水俣病対策、石綿問題対策

Pollution, Minamata - diseases, and Asbestos

4. 環境アセスメント政策（国内・アジア諸国）

Environmental assessment (national and Asia)

5. 政府・企業・自治体の環境政策①（主に温暖化対策）

Government, business and local (especially climate change) ①

6. 海外諸国の環境政策（主に温暖化対策）：米国、英国、中国など

Oversea countries such as the USA, The UK and China (especially climate change)

7. 気候変動国際交渉ワークショップ体験①

Negotiation and role playing workshop on climate change ①

8. 気候変動国際交渉ワークショップ体験②

Negotiation and role playing workshop on climate change ②

9. 廃棄物・リサイクル政策

Waste and Recycle law and policies

10. 生物多様性・自然保護政策

Bio diversity and restoring nature

11. 地球環境保護条約（気候変動関係以外）

Global environmental treaties (without climate change)

12. 政府・企業・自治体の環境政策②（主にSDGsの取組）

Government, business and local (especially SDGs) ②

13. SDGsゲーム体験①

“2030 SDGs” game playing ①

14. SDGsゲーム体験②

“2030 SDGs” game playing ②

15. 講義全体を通じた振り返り

Feedback through whole this lecture

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業への出席・参加と貢献度 (40%)、レポート (60%)

Attendance, participation and contribution for the class (40%), Report (60%)

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

<総論>

環境政策論 第3版 倉坂秀史

環境政策論 政策手段と環境マネジメント 森晶寿ほか

政策・合意形成入門 倉坂秀史

Japan's Environment Policy (対訳版) 谷みどり

<各論>

地球温暖化は解決できるのか パリ協定から未来へ! 小西雅子

持続可能な開発目標とは何か 2030年へ向けた変革のアジェンダ 蟹江憲史 編

SDGsとESG時代の生物多様性・自然資本経営 藤田香

地球環境条約 生成・展開と国内実施 西井正弘 編

Strengthening EIA

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

特にありませんが、時間があれば、指定の参考書や環境省HPを見ておいてください。

Not especially, but if students have enough time to preparation, please read the above references and check the website on the Ministry of Environment, Japan.

8. その他/In addition :

学生の皆さんが大学院修了後も通用するように、政策ゲームなどを交えつつ、アカデミックな内容にとどまらない、楽しく実践的に学べる講義にしたいと思っていますので、出来る限り授業を休まず積極的に参加し貢献して下さる学生の皆さんをお待ちしています。基本的には、日本語での授業を想定していますが、参加学生によっては英語も用います。原則オフィスアワーはありませんが、授業終了後に質問や相談をしたい方は受け付けます。また、連絡用のメールアドレスは、一番最初の授業でお伝えします。

The class will be delivered in not only academic but also practical and enjoyable manner with discussion and negotiation games for the success of your career after graduation. Thus, please attend and contribute to the class positively. Basically the lecture will be delivered in Japanese but if necessarily for students, English also will be used. In essential, the lecturer does not have an office-hours for students but after the class the lecturer will be available for asking questions from students and talking. Email address of the lecturer for contact will be shown in the first class.

自然産業調整論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 3 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 冬木 勝仁

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-EC0610J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

経済のグローバル化と農業・食料

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

農業に代表される自然産業は地域特有の自然条件等を前提として成り立っているため、本来的に多様性を有している。科学技術の発展はある程度自然条件の制約を緩和し、農業生産力の飛躍的な発展をもたらしたが、そのことが地域的特性を排除し、多様であるべき自然産業とそれを前提とした生活とを画一化することになった。

その方向は経済のグローバル化が進展する中でますます強まり、その結果様々な問題が生じている。本講義では、現在の農業・食料をめぐる諸問題を素材に、自然と人間の関係と人間同士の関係（社会関係）との相互関係を考察する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

経済のグローバル化についての基礎知識を身につけるとともに、その下での自然産業のあるべき姿について考察する能力を獲得することを目標とする。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 下記の示したトピックスについて、毎回スライドと配布資料を用いて解説し、授業の終わりに理解度を確認するための小テストを行う。

1. 授業の概要と進め方
2. 世界の「食」と地球環境
3. 自然産業をめぐる調整の焦点
4. バイオ・エネルギーとアグリビジネス
5. バイオ燃料をめぐる企業・農家・政府
6. マネー市場と穀物産業
7. 現代世界の食料問題と自然産業
8. 世界穀物貿易と穀物メジャー
9. 戦後グローバル・フード・システムとアメリカ
10. 農業と国際政治経済
11. バイオ・テクノロジーと自然産業
12. 環境・食料問題と知的財産
13. 生物多様性と自然産業
14. 生物多様性・生態系と国際政治経済
15. 総括

試験 毎回の授業の最後に小テストを行う。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

講義にあわせて行う小テストとレポートによって評価し、それぞれの評価割合は 60%、40%である。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書は用いない。参考書は講義中に適宜指示するが、受講前に下記の文献を読んでおけば、講義内容を理解する上で役立つ。
冬木勝仁『グローバル化下のコメ・ビジネス—流通の再編方向を探る—』日本経済評論社（東京）、2003年4月、228頁

林希一郎編著『生物多様性・生態系と経済の基礎知識』中央法規（東京）、2010年1月、412頁

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

食料・農業をめぐる最近の動向について、新聞等のメディアで確認しておくこと。

8. その他/In addition :

担当教員への連絡は e-mail で行うこと。アドレスは下記の通り。
katsuhito.fuyuki.d2@tohoku.ac.jp

環境教育論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 阿部 治

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-EDU626J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

環境教育論Ⅱ/Environmental Education II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

環境教育並びに ESD(持続可能な開発のための教育)の国内外の動向を理解し、持続可能な社会構築に向けた環境教育/ESD の果たす役割について考察するとともに、特に持続可能な地域創生や SDGs の達成といった今日的課題をも取り上げ、環境教育/ESD 推進に向けた (グローバル) パートナーシップの在り方などを検討する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

環境教育/ESD が持続可能な社会形成に果たす役割について理解し、国レベルでの環境教育や ESD 推進に向けた方策や国際レベルにおける推進並びにパートナーシップの方策などを指摘することができる。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 環境教育/ESD の国内外の動向を理解し、国内並びに国際的な推進について検討する。

1. 環境教育とは何か 1
2. 環境教育とは何か 2
3. ESD とは何か 1
4. ESD とは何か 2
5. 日本における環境教育/ESD の動向 1
6. 日本における環境教育/ESD の動向 2
7. 日本における環境教育/ESD の動向 3
8. 日本における環境教育/ESD の動向 4
9. 海外における環境教育/ESD の動向 1
10. 海外における環境教育/ESD の動向 2
11. 海外における環境教育/ESD の動向 3
12. 海外における環境教育/ESD の動向 4
13. 環境教育/ESD におけるパートナーシップ
14. 環境教育/ESD におけるグローバルパートナーシップ 1
15. 環境教育/ESD におけるグローバルパートナーシップ 2

試験 レポート試験を行う

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

各授業時での討論への参加やリアクションペーパー (50%) と課題レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

使用する資料は初回に配布するが、下記の参考書も活用する。
 『日本型環境教育の知恵』日本環境教育フォーラム編 小学館
 『アジア・太平洋地域の ESD』阿部・田中編 明石書店
 『ESD の地域創生力』阿部治編 合同出版

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前配布資料を読み込み、授業に臨むこと

8. その他/In addition :

この授業は講師による一方的な講話形式ではなく受講者との対話を通じた双方向の学びの形式をとるので、受講者の積極的な参加を期待している。

国際環境資源政策論総合演習 A

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 青木 俊明

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OS0613J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際環境資源政策論特別演習 A
Special Seminar of International Environmental Resource Policy A

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

国際環境資源政策論分野の研究を行っている大学院生の研究活動に対し、幅広い研究視点にもとづいたアドバイスを与え、研究方法の確立と研究発表能力向上のための研究指導を行う。また、各自の研究テーマにおける研究背景と問題意識を具体化し、研究目的を明確にする。

This course gives useful advices to graduate students for the field of international environmental resource policy research based on broad viewpoint. The aims of this course are to confirm research approach and promote presentation ability. And participants are expected to embody own research background, issue and goal.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

明確な研究テーマを設定し、研究の背景と問題意識を多角的に検証すること。
先行研究を比較考察し、研究の目的と独創性、研究意義を明確にすること。
適切な研究分析手法を身につけること。

Define each research theme.

Analyze research background and problem consciousness from diversified standpoints.

Clarify research goal, originality and significance through weighing previous studies.

Gain an understanding of applicable research approach.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Students will gain a basic understanding about research activity and paper evaluation.

1. 授業の概要、実施計画の説明

Introduction

2. 研究の背景と必要性の考察

Consideration of Research Background and Necessity

3. 先行研究のサーベイ I

Survey of Previous Studies I

4. 先行研究のサーベイ II

Survey of Previous Studies II

5. 環境科学分野の学術論文講読・発表

Reading and Presentation on Environmental Science Research

6. 環境社会学分野の学術論文講読・発表

Reading and Presentation on Environmental Sociology Research

7. 国際協力学分野の学術論文講読・発表

Reading and Presentation on International Cooperation Research

8. 国際環境資源政策論の研究手法 I

Research Approach on International Environmental Resource Policy I

9. 国際環境資源政策論の研究手法 II

Research Approach on International Environmental Resource Policy II

10. 国際環境資源政策論の研究手法 III

Research Approach on International Environmental Resource Policy III

11. 研究仮説及びシナリオの設定 I

Research Hypothesis and Scenario Setting I

12. 研究仮説及びシナリオの設定 II

Research Hypothesis and Scenario Setting II

13. 事例研究発表 I

Presentation for Case Study I

14. 事例研究発表 II

Presentation for Case Study II

15. 事例研究発表 III

Presentation for Case Study III

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

発表内容 (発表資料を含む) 50%、出席 20%、授業への参加 30%

Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Attitude in Class:30%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

特になし。適宜参考文献リストを配布する予定

Will be introduced the list of references implement a timely in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

自主ゼミ、関連研究会などに出席し、研究分析スキルを高めること。

Attend related research seminars and workshop to improve own research capability.

8. その他/In addition :

-

国際環境資源政策論総合演習 B

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 青木 俊明

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OS0613J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

国際環境資源政策論総合演習 B
Seminar of International Environmental Resource Policy B

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

国際環境資源政策論分野の研究を行っている大学院生の研究活動に対し、幅広い研究視点にもとづいたアドバイスを与え、研究方法の確立と研究発表能力向上のための研究指導を行う。また、各自の研究テーマにおける研究背景と問題意識を具体化し、研究目的を明確にする。

This course gives useful advices to graduate students for the field of international environmental resource policy research based on broad viewpoint. The aims of this course are to confirm research approach and promote presentation ability. And participants are expected to embody own research background, issue and goal.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

国際環境資源政策論分野の分析ツールを習得し、事例研究分析に応用できること。

事例研究に必要な調査方法論を理解し、各自の研究分析方法を設定できること。

全国学会の研究発表ができる論文作成、発表スキルを身につけること。

Acquire General Research Methods of Analysis on International Environmental Resource Policy.

Apply These Methods to Theoretic Model and Case Study Analysis

Clarify Own Research Approach using Social Inquiry, which needs for Case Study and Scenario Analysis.

Gain Presentation and Writing Skill for the National Academic Conference.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 -

1. 授業の概要、実施計画の説明

Introduction

2. 研究調査方法論の考察 I

Consideration of Research Approaches I

3. 研究調査方法論の考察 II

Consideration of Research Approaches II

4. 研究調査方法論の考察 III

Consideration of Research Approaches III

5. 現地調査とインタビュー調査方法 I

Field Study and Interview Research Method I

6. 現地調査とインタビュー調査方法 II

Field Study and Interview Research Method II

7. 国際比較分析方法 I

Method of International Comparative Analysis I

8. 国際比較分析方法 II

Method of International Comparative Analysis II

9. 国際比較分析方法 III

Method of International Comparative Analysis III

10. 事例研究の対象と範囲設定 I

Research Hypothesis, Object and Range Setting I

11. 事例研究の対象と範囲設定 II

Research Hypothesis, Object and Range Setting II

12. 事例研究の対象と範囲設定 III

Research Hypothesis, Object and Range Setting III

13. 事例研究発表 I

Presentation for Case Studies I

14. 事例研究発表 II

Presentation for Case Studies II

15. 事例研究発表 III

Presentation for Case Studies III

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

発表内容 (発表資料を含む) 50%、出席 20%、授業への参加 30%

Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Attitude in Class:30%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

特になし。適宜参考文献リストを配布する予定

Will be introduced the list of references implement a timely in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

自主ゼミ、関連研究会などに出席し、研究分析スキルを高めること。

Attend related research seminars and workshop to improve own research capability.

8. その他/In addition :

-

多元文化構造論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 藤田 恭子

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS614J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

マイノリティ文化をめぐる諸問題 — ルーマニアのドイツ語文化を事例として —

Introduction to the Study of minority culture: A Case of German-language Culture in Romania

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ハプスブルク家治下のオーストリアが第一次世界大戦に敗れて解体された際、その一部はルーマニア領となりました。以後、ルーマニアにおいてドイツ語話者の文化はマイノリティ文化となり、非常に興味深い展開を遂げます。第二次世界大戦中の軍事独裁体制とホロコースト、戦後の社会主義独裁体制、そして1989年の東欧革命を経て、2009年には作家ヘルタ・ミュラーがノーベル文学賞を受賞しました。この間のルーマニアにおけるドイツ語文化の展開は、社会体制の変化と常に不可分でした。本講義では、ルーマニアのドイツ語文化を事例にマイノリティ文化を論じつつ、その際に目配りをすべき諸問題を解説します。

When the Austrian Empire was disassembled after the end of the First World War, parts of the Empire became Romanian territory. After that, German-language culture in Romania is a minority culture, and it has developed very strangely. The development of this culture in Romania has always been closely linked to the respective changes in the social system. Various problems in the study in this subject area are presented in this lecture .

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

・マイノリティの文化をめぐる諸問題を考察するにあたって必要な諸視点を理解できるようになります。

・上記の視点に立って自ら問題を「発見」し検証する能力を養います。

・東ヨーロッパやドイツ語圏の歴史や文化に関する知識を深めます。

Students will understand necessary points of view to consider different issues related to minority culture.

Students will acquire skills to discover and validate problems themselves, based on the above points of view.

Students will deepen their knowledge of Eastern European and German history and culture.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 ・主に次の点について講義します。このテーマに関わる諸概念自体の歴史性や政治性、ルーマニアやドイツおよびオーストリアの歴史、ドイツ語話者の政治的社会的立場、アイデンティティと言語の関係等。随時、質疑応答し、必要に応じて、以下に記載したスケジュールを変更する可能性もあります。

・文化の多元性をめぐり、受講生の皆さんに自ら問題を「発見」してもらいます。6月下旬に、自分が「発見」した問題について、発表してもらいます。そこでの議論を踏まえて、レポートを作成して下さい。

・受講に際しては、ドイツ語の知識を前提としません。

・ We mainly deal with the following points.

・ Historical and political nature of concepts on this topic. History of Romania, Germany and Austria. Political and social position of German speakers in Romania. Relationship between identity and language etc.

・ Participants should "discover" problems of cultural pluralism by themselves. At the end of June, they should introduce their own topic that they "discovered". Based on the discussions, Each student should write a seminar paper.

・ Knowledge of German is not a requirement for attending the lecture.

1. オリエンテーション

Guidance

2. 問題領域への導入 (1)

Introduction to the Topic I

3. 問題領域への導入 (2)

Introduction to the Topic II

4. ルーマニアのドイツ語話者居住地域の多様性

Diversity of German-language Culture in Romania

5. ルーマニアのドイツ語文化・文学—20世紀初頭まで— (1)

German-language Culture and Literature in Romania - Until the Beginning of the 20th Century - I

6. ルーマニアのドイツ語文化・文学—20世紀初頭まで— (2)

German-language Culture and Literature in Romania - Until the Beginning of the 20th Century - II

7. ルーマニアのドイツ語文化・文学—20世紀初頭まで— (3)

German-language Culture and Literature in Romania - Until the Beginning of the 20th Century - III

8. ルーマニアのドイツ語文化・文学—20世紀前半— (1)

German-language Culture and Literature in Romania - First half of the 20th Century - I

9. 受講者による発表 (レポートで扱う予定のテーマについて)

Presentation by Participants

10. ルーマニアのドイツ語文化・文学—20世紀前半— (2)

German-language Culture and Literature in Romania - First half of the 20th Century - II

11. ルーマニアのドイツ語文化・文学—社会主義体制時代— (1)

German-language Culture and Literature in Romania - Under Socialist System - I

12. ルーマニアのドイツ語文化・文学—社会主義体制時代— (2)

German-language Culture and Literature in Romania - Under Socialist System - II

13. ルーマニアのドイツ語文化・文学—クリスマス革命以後— (1)

German-language Culture and Literature in Romania -After the Christmas Revolution- I

14. ルーマニアのドイツ語文化・文学—クリスマス革命以後— (2)

German-language Culture and Literature in Romania -After the Christmas Revolution- II

15. 総括 Summary

試験 筆記試験は実施しません。Evaluation is performed comprehensively based on a submitted report and participation in discussion etc.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業中の発表や発言 30%、セメスター末のレポート 70%で評価します。

A submitted report, attendance and participation in discussion are evaluated. A report 70%, attendance and participation in discussion 30%.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教室で指示する。Textbook and references will be designated in the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

自らのレポートテーマを探してください。

テーマを定めるためには、先行研究の状況や使用可能な資料の探索と収集が必要です。

テーマ発表の際には、受講者全員分のレジメを用意してもらいます。

授業の際には、事前に配付する資料を予習してください。

-Students should ever "discover" their own research topic-

-In order to set a topic, it is necessary to gather information about

8. その他/In addition :

希望する場合は個別の指導に応じる。

事前にEメール等で教員の都合を確認すること。

Office hours: Make an appointment via e-mail or other means.

多元文化動態論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 長友 雅美

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS615J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

計画移民の成功例と失敗例 — 排除の論理か移住者たちの acclimatization efforts

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

移住・移民・難民・亡命に関し、旧満洲国への日本人開拓移民、南米諸国と北米のドイツ系*移住者たちを、「政治・経済的理由」「思想・信条的理由」という2つの大きな因子を中心に考え、かつ彼らが「新天地」で絶え間なく格闘してきた言語文化問題について色々と考えてみようとするのがこの授業の目的である。【*注意：ここで言う「ドイツ系」とはドイツ語を母語として育った人々で、政治的あるいは国家としてのドイツという意味ではない。】「難民問題」も含め、移民・移住に関しては、常にある種の「排除の理論」と移民自身の入植地での acclimatization efforts「同化努力」問題尾が関わっており、Nimmi Hutnik 女史**の理論を参考に講義を進めたい。**Patterns of ethnic minority identification and modes of social adaptation (Ethnic & Racial Studies, Vol. 9 No. 2., 1986)

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

この講義を通し「移住・移民・亡命・難民」と「母語の言語文化育成保護」との関係を考える糸口を見だし、またその複合的要因を受講者が自力で見いだす力となれば幸いである。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 -

1. 授業概要・評価方法・レポート提出の説明

2. 「移住・移民・亡命・難民」の定義と固定概念の問題点

3. 「(国策) 計画移民」の「拓務省」と「外務省」 — 「海を渡った日本人**」

4. 「(国策) 計画移民」としての「満洲開拓移民団」 — 「海を渡った日本人**」

5. 言語問題と満洲帝国を巡る諸問題の整理

6. 南米への計画移民 (その1) : ブラジルの Blumenau と Pomerode

7. 南米への計画移民 (その2) : ペルーの Pozuzo と Oxapampa

8. 南米への計画移民 (その3) : パラグアイの New-Germania (Elisabeth-Förster Nietzsche から FM-Radio Nueva Germania まで)

9. 南米への計画移民 (その4) : チリのドイツ系移民たち

10. 計画移民としての南米 (その5) 南米諸国のキリスト教再洗礼派メノニータ Menonita の人々

11. 計画移民としての「ロシア系ドイツ人」(その1)

12. 計画移民としての「ロシア系ドイツ人」(その2)

13. 計画移民の例: テキサスのドイツ人移民: テキサス州 San Antonio 周辺には今も計画移民の子孫が住み、まだいわゆる「テキサスドイツ語」を話す人々がいる。このドイツ語自体はほぼ死滅寸前ではあるが、彼らの祖先が持ち込んだドイツ文化は毎年 Wurstfest (ソーセージ祭り) や Oktoberfest として New Braunfels や Fredericksburg 催されており、またヒーストン市内ですら、ドイツ系移民が残した文化史跡の見学も可能である。

14. Cincinnati, St. Louis, Milwaukee を結ぶと形成される三角形の領域内居住のドイツ系移民の子が、毎年開催するビール祭り Oktoberfest、また 10 月 6 日に出されるホワイトハウスから米国大統領記念祝辞は、いかにアメリカ合衆国にとってドイツ系移民が多大な文化貢献を果たしてきたかを意味している。ドイツ系移民とその子孫が果たしてきたこの文化的貢献に関し、いくつかの事例、例えば Steinway や Knabe といったピアノ製造業、Yuengerling や Anheuser-Bsch といった

15. 講義総括とディスカッション

試験 -

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席と授業中の発言、ならびに学期末提出レポートでの総合評価による。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

① 野村達郎 (1992) : 『『民族』で読むアメリカ』講談社現代新書

② **参考資料 : 岡部牧夫著 : 「海を渡った日本人」(日本史リブレット)、山川出版社・2002 年

③ Irene M. Franck/David M. Brownstone. : The German-American Heritage. 1989, New York/Oxford: Facts On File.,

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

とくに無し

8. その他/In addition :

時間の都合上、今回は、ペンシルバニアドイツ語文化に関しては触れない。文献資料にはドイツ語と英語(それに若干のスペイン語)が含まれるが、その概要は当方で説明します。

多元言語文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 石幡 直樹

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS616J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

英詩講読

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

英国の人びとが人間や社会や自然をどのように捉え、詩という文学様式の中に表現したのかを探る。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

優しさや怒りを見せる自然、不可思議な生と死への錯綜する思い、脳裏を巡る幸福感や悲哀、人を翻弄する感情の渦、広大な世界や茫漠とした宇宙に生存する意味など、さまざまな主題が凝縮された英語の韻文を理解し、詩人の思索と表現について考える。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 対訳と脚注つきのテキストを用いて、解釈と解説を交えながら読み進める。詩は本来翻訳が不可能であるので訳は参考にとどめ、原文の意味と含蓄および韻律の効果の理解を深める。当番を決めて鑑賞と質問を行う。

1. Alexander Pope
2. William Shenstone
3. Thomas Gray
4. William Collins
5. William Cowper, William Blake
6. William Blake
7. Robert Burns, Samuel Rogers
8. William Wordsworth (1)
9. William Wordsworth (2)
10. Samuel Taylor Coleridge
11. Robert Southey, Walter Savage Landor
12. Charles Lam, Thomas Campbell
13. James Henry Leigh Hunt, George Gordon Byron
14. Charles Wolfe, Percy Bysshe Shelley (1)
15. Percy Bysshe Shelley (2)

試験 講義で扱った実際の作品数編を解釈・鑑賞し、そのレポートを提出することで試験に代える。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

レポートによる。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

『イギリス名詩選』(岩波文庫)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

自分の研究にどのように応用できるかという観点から、講義内容を検討して問題意識を持って詩を鑑賞し質問を考える。

8. その他/In addition :

レポートについては、引用の箇所と出典を明示するなど、研究倫理に準拠する内容と様式を求める。連絡や質問はメールでも受け付ける。

多文化共生思想論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 山下 博司

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS617J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

ディアスポラと民族宗教 (The Diaspora and Ethnic Religions)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

移民活動によって赴いた新天地における伝統文化の維持と変容の問題について、南インド・タミルナードゥ州と北部スリランカを故地とするタミル系ヒンドゥー教徒の移民・難民と越境の問題を中心に論じる。ホスト社会の新たな居住環境・文化環境の中における宗教の役割について多面的に考察する。移民社会における民族宗教の役割を考え直すことで、エスニシティとは何か、宗教とは何かという、より根本的なテーマを掘り下げる材料を得たい。

This course deals with the religious and cultural phenomena relating to immigrant Tamil minorities from southern India and northern Sri Lanka. We will take up issues in North America (mainly Ontario, Canada), Europe (mainly Nordrhein-Westfalen) and Southeast Asia (mainly Malaysia, Singapore and Indonesia). Historical overviews are introduced at the beginning of the course.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

グローバル化をうけた民族集団の流れについて概括的・包括的な知識を得るとともに、特定の民族集団・宗教集団の得意な動向をたどることで、エスニック・マイノリティ問題や宗教的マイノリティ問題の複雑さ、微妙さ、および深さに触れる。これにより、現代社会が抱える問題の一端をよりよく理解する手がかりを得る。

It is aimed to deepen the awareness of the delicate problems of resettlement and cultural/religious adjustment of the minority groups under the era of extensive globalization.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 はじめにインドからの移民活動全般について、北アメリカへの動きを中心に概論的に紹介する。次に南インドから東南アジアへの移民活動に的を絞って、さまざまな資料を駆使しながら論じる。

インド移民を扱った映画作品の上映などもおこなう。

We will discuss the issues of this particular ethnic group in North America and Southeast Asia, making use of a variety of materials including feature films.

1. イントロダクション

Introduction

2. 高度人材とインド移民-インドからのアメリカ合衆国への移民活動を中心に-

High-quality human resources from India in the United States (1)

3. 高度人材とインド移民-インドからのアメリカ合衆国への移民活動を中心に-

High-quality human resources from India in the United States (2)

4. 南インドと東南アジア世界 (1) -古代・中世-

South India and Southeast Asia (1): ancient and medieval periods

5. 南インドと東南アジア世界 (2) -近現代-

South India and Southeast Asia (2): modern periods

6. ムラユ世界 (マレーシア・インドネシア・シンガポール) におけるインド移民-宗教生活をを中心に-

Indian Immigrants in the Melayu world (viz. Malaysia, Indonesia and Singapore) (1)

7. ムラユ世界 (マレーシア・インドネシア・シンガポール) におけるインド移民-宗教生活をを中心に-

Indian Immigrants in the Melayu world and their religious life (viz. Malaysia, Indonesia and Singapore) (2)

8. ムラユ世界 (マレーシア・インドネシア・シンガポール) におけるインド移民-宗教生活をを中心に-

Indian Immigrants in the Melayu world (viz. Malaysia, Indonesia and Singapore) (3)

9. 関連映画作品の上映

A feature film on this subject will be screened.

10. 西ヨーロッパ (ドイツ・ノルトラインヴェストファーレン州など) におけるタミル系難民-宗教生活をを中心に-

Tamil Immigrants in western Europe (viz. Nordrhein-Westfalen, Germany) and their religious life (1)

11. 西ヨーロッパ (ドイツ・ノルトラインヴェストファーレン州など) におけるタミル系難民-宗教生活をを中心に-

Tamil Immigrants in western Europe (viz. Nordrhein-Westfalen, Germany) and their religious life (2)

12. 西ヨーロッパ (ドイツ・ノルトラインヴェストファーレン州など) におけるタミル系難民-宗教生活をを中心に-

Tamil Immigrants in western Europe (viz. Nordrhein-Westfalen, Germany) and their religious life (3)

13. 北アメリカ (カナダ・オンタリオ州など) におけるインド移民-宗教生活をを中心に-

Tamil Immigrants in western Europe (viz. Ontario, Canada) and their religious life (1)

14. 北アメリカ (カナダ・オンタリオ州など) におけるインド移民-宗教生活をを中心に-

Tamil Immigrants in western Europe (viz. Ontario, Canada) and their religious life (2)

15. 全体の総括

Summery

試験 パワーポイントを活用しながら講義をおこなう。実感をともなう理解を進めるため、ビデオ資料や映画も用いるように努める。MS Powerpoint is used for the presentation purpose. Video materials and feature films are also employed.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

毎回の出席状況、授業での受け答え、作品感想文 (以上 50%)、期末のレポート (50%) の総和で単位を認定する。出席率については、全体の 3 分の 2 以上を確保することが単位認定の前提となる。試験はおこなわない。以下に記すレポートと平常点によって単位を認定する。Evaluation is performed comprehensively based on a submitted report and participation in discussion etc. A report 50%, attendance and participation in discussion 50%.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教室で指示する。References will be designated in the course.

However, for the preparation, the three books given below are recommended.

山下博司 「ディアスポラとヒンドゥー教 -東南アジアのタミル系寺院と司祭-」、三尾稔・杉本良男編 『現代インド6・環流する文化と宗教』 東京大学出版会、2015年

山下博司 『インド人の「力」』 講談社現代新書、2016年

山下博司 「インド系

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義の進展にあわせて参考文献を提示していくので、そのつどそれらを参照の上、自らが問題意識を深めて授業に臨むことを希望する。Students are required to read designated material in advance and to prepare for their active participation in the discussion on the research topic.

8. その他/In addition :

メールでの連絡先 :

hiroshi.yamashita.d8@tohoku.ac.jp

多文化比較思想論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 1 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐藤 透

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS618J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

比較宗教入門 3

An Introduction to Comparative Religion 3

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

宗教は多くの文化の基礎を形作るものであり、世界に存在する様々な宗教を理解することは、多くの文化を理解する上で重要である。この授業では、とくに欧米文化の基礎となっているキリスト教とアジア文化の基礎である仏教を比較思想・比較宗教の見地から理解することを目的とする。

Religion is a basis of culture, and it is important for acquiring an understanding of cultures to have knowledge of various religions in the world. In this course, students will learn Christianity as the basis of European culture and Buddhism as the origin of the Asian culture from the standpoint of comparative philosophy and comparative religion.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

(1) 比較思想・比較宗教の意義と視点を理解する。

(2) とくにキリスト教および仏教の比較宗教学的理解を通じて、東西文化を考える。

What do we hope to achieve?

- Understanding the standpoint and significance of comparative philosophy and comparative religion.

- Pondering over the Eastern and Western cultures by researching in Christianity and Buddhism from the viewpoint of comparative philosophy and comparative religion.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 初めに比較宗教の意義と方法に関する講義を行い、次いで、中村元『比較思想から見た仏教』第3・4章をテキストとし、その内容について参加者で議論する。

After surveying the topic, students will read the chapter 3 and 4 of Hajime Nakamura's "Buddhism in Comparative Light" and discuss the detailed contents. The contents and schedule are as shown below:

1. 導入

Introduction

2. 第三章 人間的状況の診断 (一) 一切皆苦、諸行無常

Chap. 3: Diagnosis of the Human Condition, Sec. 1: All is Suffering, All is Transient

3. 第三章 人間的状況の診断 (一) 一切皆苦、諸行無常

Chap. 3: Diagnosis of the Human Condition, Sec. 1: All is Suffering, All is Transient

4. 第三章 人間的状況の診断 (二) 輪廻

Chap. 3: Diagnosis of the Human Condition, Sec. 2: Transmigration

5. 第三章 人間的状況の診断 (二) 輪廻

Chap. 3: Diagnosis of the Human Condition, Sec. 2: Transmigration

6. 第三章 人間的状況の診断 (三) 仏教の無我説

Chap. 3: Diagnosis of the Human Condition, Sec. 3: Buddhist An-Attā Doctrine

7. 第三章 人間的状況の診断 (三) 仏教の無我説

Chap. 3: Diagnosis of the Human Condition, Sec. 3: Buddhist An-Attā Doctrine

8. ビデオ教材

Learning by watching video

9. 第四章 仏教とキリスト教の治療法 (一) 目標

Chap. 4: Buddhist and Christian Therapy, Sec. 1: The Goal

10. 第四章 仏教とキリスト教の治療法 (一) 目標

Chap. 4: Buddhist and Christian Therapy, Sec. 1: The Goal

11. 第四章 仏教とキリスト教の治療法 (二) 目標に至る道

Chap. 4: Buddhist and Christian Therapy, Sec. 2: The Path to the Goal

12. 第四章 仏教とキリスト教の治療法 (二) 目標に至る道

Chap. 4: Buddhist and Christian Therapy, Sec. 2: The Path to the Goal

13. 第四章 仏教とキリスト教の治療法 (三) 中道

Chap. 4: Buddhist and Christian Therapy, Sec. 3: The Mean

14. 第四章 仏教とキリスト教の治療法 (三) 中道

Chap. 4: Buddhist and Christian Therapy, Sec. 3: The Mean

15. 結論

Conclusions

試験 学期末レポートをもって試験とする。

Submitted reports

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

平常点 (授業への積極的参加) および学期末レポート。

Submitted reports, attendance and so on are evaluated.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

中村元著、春日屋伸昌編訳、『比較思想から見た仏教』、東方出版、1987年。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回、授業で扱う予定のテキストの部分を各自が読んで理解してくる。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

8. その他/In addition :

授業は、テキストのコピーおよび資料を配布して行う予定である。
Copies of texts and references (handouts) are provided, when needed.

多文化交流史Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 2 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 坂巻 康司

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS619J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

比較視覚芸術学講義

Lecture of the visual arts comparative study

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

映画をめぐる様々な批評的言説の分析を通して、文化の多様性を理解します。

This course will look at various theories of film and understand the cultural multiplicity through them.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

・映画芸術の多様性を知ると同時に、様々な分析・批評の方法を理解できるようにします。

・様々な文化における思考方法の違いについて理解できるようにします。

-Knowing the multiplicity of Film Arts and understanding various methods of analysing

-Understanding the difference of thinking among several cultures.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 今年度は、基本的には“日本映画に対する理解が日本と海外（主にアメリカ、フランス）においていかに異なっているか”という問題に焦点を当てます。特に、日本を代表すると見なされている数名の映画作家、とりわけ、小津安二郎、溝口健二、黒澤明が議論の中心となります。

場合により、英語やフランス語の原典テキストを読みますが、日本語訳を併用し、受講に支障がないように配慮します。また、講義の後半には一部の課題を受講生に発表してもらうこともあります。

視覚芸術、特に映画に関心がある方の受講を期待します。また、受講者の関心に合わせて内容を少し変更することもあり得ます。

This course aims to treat mainly this question, “How are Japanese Films accepted differently among several foreign countries?” To resolve this problem clearly, we’ ll discuss the works of three film directors, Yasujiro Ozu, Kenji Mizoguchi and Akira Kurosawa. It is possible to read some critical texts written in English or French but in this case we always use its translation for the beginner. Do not hesitate to participate in this course, if you are really interested in the visual arts, especially the movie.

1. イントロダクション

Introduction

2. 小津安二郎①作品の概要

Ozu 1: Survey of his works

3. 小津安二郎②ボードウェルの批評

Ozu 2: Critic by David Bordwell

4. 小津安二郎③リチャー、シュレイダー、ドゥルーズの批評

Ozu 3: Critics by Donald Richie, Paul Schrader and Gilles Deleuze

5. 小津安二郎④蓮實重彦の批評

Ozu 4: Critic by Shigehiko Hasumi

6. 小津安二郎⑤吉田喜重の批評

Ozu 5: Critic by Yoshishige Yoshida

7. 溝口健二①作品の概要

Mizoguchi 1: Survey of his works

8. 溝口健二②ゴダールとリヴェットの批評

Mizoguchi 2: Critic by Jean-Luc Godard and Jacques Rivette

9. 溝口健二③ドゥルーズの批評

Mizoguchi 3: Critic by Gilles Deleuze

10. 溝口健二④佐藤忠男の批評

Mizoguchi 4: Critic by Tadao Sato

11. 溝口健二⑤木下千花の批評

Mizoguchi 5: Critic by Chika Kinoshita

12. 黒澤明①作品の概要

Akira Kurosawa 1: Survey of his works

13. 黒澤明②ボック、リチャー、タッソーネの批評

Akira Kurosawa 2: Critics by AudieBock, Donald Richie and Aldo Tassone

14. 黒澤明③ドゥルーズの批評

Akira Kurosaw 3: Critic by Gilles Deleuze

15. まとめ

Conclusion

試験 試験は実施せず、主にレポートで評価する予定です。

Report(end of the semester)

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

成績評価の配分は、出席状況・授業での発言が 20 パーセント、期末レポートが 80 パーセントとし、その合計で最終的な評価をします。

Report(end of the semester) 80%

Attendances and assignments 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

参考書は初回授業時に指示します。

The information for the reference books will be given in class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

期末レポートの作成に当たってはかなりの準備が必要とされます。

Students are supposed to read the relevant references before the report.

8. その他/In addition :

やむをえない事情により講義のスケジュールが変更になることもあります。

The schedule is subject to change due to instructor's unexpected meetings.

多民族社会論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 5 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 佐藤 雪野

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS620J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

エスニシティ論
Studies on Ethnicity

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

混乱しやすい概念であるエスニシティとネーションについて、現代における捉え方を検討し、事例研究により理解を深める。担当者を中心とするテキストの輪読と討論を中心に主体的に学ぶ。

In this course, concepts of ethnicity and nation are discussed and some case studies are presented. Students will present their comments on the textbook, so that they can actively study about the topic.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ① エスニシティとネーションの概念を理解する。
 - ② エスニシティやネーションに関する事例研究を知る。
 - ③ 専門書、論文の読解力を身につけ、主体的に研究を発展させる能力を身につける。
- 1) To understand concepts of ethnicity and nation.
 - 2) To know some case studies on ethnicity and nation
 - 3) To acquire skills on reading academic articles and monographs.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 下記教科書を輪読しつつ、検討する。以下は教科書の章立てに沿った予定であるが、参加者の状況により変更することがある。

One student will prepare for presentation on each subject according to the textbook. The schedule is subject to change depending on circumstances.

1. オリエンテーション

Introduction

2. 日本社会とエスニシティ

Japanese Society and ethnicity

3. エスニシティ概念の現代的位相

Concepts of Ethnicity: Contemporary Perspectives

4. エスニシティは変容する

Ethnicity Changes

5. 「ナショナリズムとエスニシティ」再考

Rethinking Nationalism and Ethnicity

6. トランスナショナリズムとコロニアリズム

Ethnicity, Transnationalism and Colonialism

7. 「アバター活動家」と「新ボアーズ学派」

"Avatar Activists" and "Neo-Boasians"

8. エスニシティ変容の諸相

Changing Ethnicity: Case Studies

9. エスニシティ変容のメカニズム

Mechanism of Changing Ethnicity

10. 日系アメリカ人の作品

Works by Japanese Americans

11. 日系アメリカ人組織の変遷

Changing Course of Japanese Americans

12. 日系中南米人補償に問われる「正義」

Quest for "Justice" for Japanese Latin Americans

13. ブラジル韓人コミュニティの発生とその変容

Beginning and Development of Korean Community in Brazil

14. ビクトリアの球技とバンクーバーの達磨落とし

Exploration in Designing Japanese Gardens in Victoria and Vancouver

15. 総括

Conclusion

試験 試験の代わりに授業内容に関連した期末レポートを課す。

Evaluation is based on a submitted report.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

平常点 (出席状況、輪読のアサインメント) 及び期末レポート (各 50%)

Attendance, assignment: 50% Report: 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書: マイグレーション研究会『エスニシティを問いなおす一理論と変容』関西学院大学出版会、2012年

参考書については授業中に指示する。

Migration kenkyukai, Ethnicity wo toinaosu - Riron to henyō, Kwansai Gakuin Daigaku Shuppankai, 2012.

References will be designated in the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習: 教科書の授業で扱われる部分を、担当者以外もあらかじめ読み、議論に参加できるように準備すること。

復習：予習時の疑問点が解決できたか、確認すること。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

8. その他/In addition :

オフィスアワー等については開講時に指示する。

The further information for the lecturer will be given in class.

多文化共生論総合演習 A

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 山下 博司

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS621J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

多文化共生論の基礎と発展(4)-A Basis and development of studies on multiculturalism (4)-A

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

多文化共生論という学問の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、受講者それぞれの問題意識をもとに、教員全員による研究・論文作成の指導を受ける。Students will acquire basic knowledge and necessary methods for studying on multiculturalism and preparing for academic papers.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

① 学問とは何かを、また学術論文を書くとはどういう行為であるかを理解する。② 多文化共生論という学問の特質を理解する。③ 問題の設定のしかたを学ぶ。④ 資料の収集や扱い方を学ぶ。⑤ 論文の作成に必要なさまざまな知識を修得する。The aim of this course is to understand 1) how academic works should be, 2) characteristics of studies on multiculturalism, 3) methods of setting the theme, 4) how to collect and deal with material, 5) necessary knowledge for writing academic papers.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 1 名ないし数名の学生がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて教員・学生全員で質問・討論を行う。Students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and all participants will discuss them.

1. オリエンテーションと発表予定の作成 Orientation

2. 修士論文執筆状況の発表 (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students

3. 博士論文執筆状況の発表 (前期 2 年次、後期 2 年次) Presentations by MC/DC second-year students

4. 研究テーマの発表 (後期 3 年次) Presentations by DC third-year students

5. 研究テーマの発表 (前期 1 年次) Presentations by MC first-year students

6. 修士論文仮題目の発表 (1) (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students as prepararion for the "Master's Thesis Plan"

7. 修士論文仮題目の発表 (2) (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students as preparing for the "Master's Thesis Plan"

8. 研究題目の発表 (前期 1 年次) Presentations by MC first-year students as preparing for the "Research Title Form"

9. 博士論文中間発表会題目の発表 (後期 3 年次) Presentations by a DC third-year student as preparing for the "Interim Presentation of Doctoral Thesis"

10. 博士論文題目の発表 (後期 3 年次) Presentations by DC third-year students as preparing for the "Doctoral Thesis Title Registration Form"

11. 修士論文構想発表会の予行演習 (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students as rehearsals for the "Presentation of the Master's Thesis Plan"

12. 修士論文構想発表会の予行演習 (前期 2 年次)・博士論文中間発表会の予行演習 (後期 3 年次) Presentations by a MC second-year student as rehearsal for the "Presentation of the Master's Thesis Plan" +Presentations by a DC third-year student as rehearsal for the "Interim Presentation of Doctoral Thesis"

13. 研究題目発表会の予行演習(前期 1 年次)Presentations by MC first-year students as rehearsals for the "Presentation of the Research Title"

14. 博士論文草稿発表会の予行演習 (後期 3 年次) Presentations by a DC third-year student as rehearsal for the "Presentation of a Doctoral Thesis Draft"

15. 博士論文草稿発表会の予行演習 (後期 3 年次) Presentations by a DC third-year student as rehearsal for the "Presentation of a Doctoral Thesis Draft"

試験 発表や討論の状況やレポートなどで試験に代える。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

授業中に適宜指示する。Textbook and references will be designated in the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。Students are required to prepare for their own presentations and the discussions on those of the others.

8. その他/In addition :

発表の 1 週間前に原稿を演習に参加する教員と学生にメール添付ファイルで配布すること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。Students are required to send a handout of the presentation to all lecturers and the other students a week before the presentation. Office hours: Make an appointment in advance via e-mail or other means. Students can email their questions.

多文化共生論総合演習 B

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 山下 博司

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-OHS621J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

多文化共生論の基礎と発展(4)-B Basis and development of studies on multiculturalism (4)-B

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

多文化共生論という学問の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、受講者それぞれの問題意識をもとに、教員全員による研究・論文作成の指導を受ける。Students will acquire basic knowledge and necessary methods for studying on multiculturalism and preparing for academic papers.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

① 学問とは何かを、また学術論文を書くとはどういう行為であるかを理解する。② 多文化共生論という学問の特質を理解する。③ 問題の設定のしかたを学ぶ。④ 資料の収集や扱い方を学ぶ。⑤ 論文の作成に必要なさまざまな知識を修得する。The aim of this course is to understand 1) how academic works should be, 2) characteristics of studies on multiculturalism, 3) methods of setting the theme, 4) how to collect and deal with material, 5) necessary knowledge for writing academic papers.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 1 名ないし数名の学生がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて教員・学生全員で質問・討論を行う。Students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and all participants will discuss them.

1. オリエンテーションと発表予定の作成 Orientation

2. 博士論文執筆状況の発表 (1) (後期 3 年次) Presentations by DC third-year students

3. 研究内容と進捗状況の発表 (1) (前期 1 年次) Presentations by MC first-year students

4. 研究内容と進捗状況の発表 (2) (後期 2 年次) Presentations by a DC second-year student

5. 博士論文執筆状況の発表 (2) (後期 3 年次) Presentations by DC third-year students

6. 修士論文題目の発表 (1) (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students as preparing for the "Master's Thesis Title Form"

7. 修士論文題目の発表 (2) (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students as preparing for the "Master's Thesis Title Form"

8. 研究内容と進捗状況の紹介 (1) (前期 1 年次) Presentations by MC first-year students

9. 修士論文執筆状況の発表 (1) (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students

10. 修士論文執筆状況の発表 (2) (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students

11. 研究内容と進捗状況の紹介 (2) (後期 2 年次) Presentations by a DC second-year student

12. 研究内容と進捗状況の紹介 (3) (研究生) Presentations by Research students

13. 研究内容と進捗状況の紹介 (4) (後期 3 年次) Presentations by DC third-year students

14. 修士論文発表会の予行演習 (前期 2 年次) Presentations by MC second-year students as rehearsals for the "Presentation of the Master's Thesis"

15. 研究内容と進捗状況の紹介 (5) (後期 3 年次) Presentations by DC third-year students

試験 発表や討論の状況やレポートなどで試験に代える。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

授業中に適宜指示する。Textbook and references will be designated in the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。Students are required to prepare for their own presentations and the discussions on those of the others.

8. その他/In addition :

発表の 1 週間前に原稿を演習に参加する教員と学生にメール添付ファイルで配布すること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。Students are required to send a handout of the presentation to all lecturers and the other students a week before the presentation. Office hours: Make an appointment in advance via e-mail or other means. Students can email their questions.

語彙論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時 207 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 小野 尚之

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN601E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Semantics and Word Formation

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

The aim of this course is to provide students with a basic understanding of the lexicon and lexical semantics that comprise an important part of modern linguistics.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

Students will acquire a thorough understanding of basic concepts and issues of the lexicon and lexical semantics through reading research papers and discussions in class.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 In this course I will focus on the semantic and morphosyntactic properties of agent nouns in English (driver, singer, consumer, etc.) and Japanese (untensyu, kasyu, syoohisya, etc.) There has been extensive discussion in the literature regarding agent nominalization in English, in particular, those with the affix -er, but Japanese agent nominalization has not been focused on as much until recently. I will present an extensive survey of data of agent nouns and investigate their semantic and morphosyntactic properties in light of theoretical findings uncovered by previous research conducted in terms of English agent nominalization.

1. Introduction

2. Word Formation (1)

3. Word Formation (2)

4. Argument Structure Conditions (1) Levin and Rappaport (1988)

5. Argument Structure Conditions (2) Rappaport Hovav and Levin (1992)

6. Argument Structure Conditions (3) Alexiadou and Schäfer (2010)

7. Event vs. Non-event Distinction in Agent Nouns (1) Miyajima (1997)

8. Event vs. Non-event Distinction in Agent Nouns (2) Kageyama (2002)

9. Agent Nouns and Event Nouns (1) Lieber (2004)

10. Agent Nouns and Event Nouns (2) Baker and Vinokurova (2009)

11. Japanese Agent Nouns (1): External Argument Condition, Ono (2016)

12. Japanese Agent Nouns (2): Stage-level vs. Individual-level, Ono (2016)

13. Japanese Agent Nouns (3): Agent Nouns and Event Nouns, Ono (2016)

14. Wrap-up

15. Oral presentations by students

試験 Term paper

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Course requirements

1. Regular attendance, 2. In-class oral presentation, 3. A term paper

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Alexiadou, Artemis and Florian Schäfer. 2010. On the syntax of episodic vs. dispositional -er nominals. In Artemis Alexiadou and Monika Rathert (eds.), The syntax of nominalizations across languages and frameworks, 9-38. Berlin/New York: Mouton de Gruyter

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

3-4 hours of reading per week

8. その他/In addition :

Office hours: Thursday, 9:30-noon or by appointment

生成統語論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時 207 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 高橋 大厚

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN602E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Introduction to Japanese Syntax

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course consists of a series of lectures where the instructor introduces students to generative linguistic research on Japanese syntax, so that the participants can acquire basic knowledge and methodology needed to study syntax in general and Japanese syntax in particular. Topics will include sentence structure, the topicalization construction, wh-questions, free word order, and relative clauses, among others.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

To acquire basic knowledge and methodology needed to study syntax in general and Japanese syntax in particular.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 The instructor will give a series of lectures according to the following schedule:

1. Introduction
2. Sentence structure 1
3. Sentence structure 2
4. Sentence structure 3
5. Topicalization 1
6. Topicalization 2
7. Wh-questions 1
8. Wh-questions 2
9. Relative clauses 1
10. Relative clauses 2
11. Free word order 1
12. Free word order 2
13. Free word order 3
14. Free word order 4
15. Free word order 5

試験 Final exam (take-home)

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Students' grades will be determined on the basis of the final examination, which will be a take-home exam.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

- (1) Tsujimura, N. 2007. An introduction to Japanese linguistics (2nd edition). Blackwell.
- (2) Carnie, A. 2013. Syntax: A generative introduction (3rd edition). Wiley-Blackwell.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Participants are required to have advance knowledge about generative syntax. They are supposed to read at least Carnie (2013) before the class starts.

8. その他/In addition :

Everything in this course, including lectures, discussions, and the exam, will be conducted in English, and hence participants are supposed to have ability to read, write, speak, and understand English. First-year students who wish to register are supposed to read Carnie (2013) prior to registration.

英語解析論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 川平 芳夫

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN603J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

英語の統語構造と意味解釈

Syntactic Structure and Semantic Interpretation of English Sentences

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

英語の統語構造と意味解釈がどのように対応しているかについて生成言語学の理論的基盤に基づいて理解する。

In this course the students will understand basics of the relation between syntactic structure and semantic interpretation of English sentences in the framework of generative linguistics.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

①英語の基本的な文がどのような構造を有し、どのように派生され、その意味がどのように決定されるか、などに関する生成言語学の基本事項を理解すること。

②英語の基本的な文の構造がある程度自由に書けるようになること。

③英文の意味を明確に理解し、これを日本語で分かりやすく表現する能力を強化すること。

In this course the students will get basic understanding of the following matters:

(1)basic structures of English sentences and their derivation

(2)basic semantic interpretation of English sentences

(3)basic relations between syntactic structure and semantic interpretation of English sentences

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 (授業内容) 英語の nursery rhyme に、連鎖的に関係する複数の命題を積み重ねて単一の文にした This is the farmer sowing his corn (中略) in the house that Jack built.がありますが、例えばこのような表現を自由に作り、その意味を瞬時に理解できる能力はどのように説明できるでしょうか。このような母語話者の言語能力とその起源の解明が生成言語学の目標ですが、この授業では、生成言語学に関する講義や原書講読を通じ、英語の文構造とその意味解釈を決定するメカニズムについて考察します。

(方法) 英文入門書の講読・要約により授業を進めます。

1. 生成言語学の研究法と科学の研究法

Methodology of generative linguistics and scientific approach

2. 生成言語学の主要な目標 (1) 人間の言語活動とその背後にある個別言語の知識

Main goals of generative linguistics (1) language activity and the knowledge behind it

3. 生成言語学の主要な目標 (2) E 言語と I 言語

Main goals of generative linguistics (2) External language and Internal language

4. 生成言語学の主要な目標 (3) 個別言語の獲得とそれを説明する理論

Main goals of generative linguistics (3) Language acquisition and its explanation

5. 英語の基本構造 (1) 句構造と X⁰-理論

Basic structure of English (1) Phrase structure rules and X⁰-theory

6. 英語の基本構造 (2) パラメーター

Basic structure of English (2) Parameters

7. 英語の基本構造 (3) 項の位置

Basic structure of English (3) Positions of arguments

8. 英語の基本構造 (4) 項の移動と表層構造

Basic structure of English (4) Movement of arguments and surface structure

9. 英語の基本構造 (5) wh 移動

Basic structure of English (5) Wh-movement

10. 英語の基本構造 (6) マージ操作

Basic structure of English (6) The operation of Merge

11. 英語の意味解釈 (1) 項や wh 要素が移動している文の意味解釈

Semantic interpretation of English (1) Sentences in which arguments and wh-phrases have moved

12. 英語の意味解釈 (2) 照応語や代名詞など代用表現の意味解釈

Semantic interpretation of English (2) Anaphors and pronouns

13. 英語の意味解釈 (3) 数量詞を伴う文の意味解釈

Semantic interpretation of English (3) Semantic interpretation of quantifiers

14. 英語の意味解釈 (4) 否定辞を伴う文の意味解釈

Semantic interpretation of English (4) Sentences including negative elements

15. 本講義のまとめ、試験、及び試験内容の解説

Summary of the course, examination and explanation about it

試験 期末試験またはレポートを課します。

The students will have a terminal examination or submit a term paper.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業及び授業での討論への参画(50%)、期末試験またはレポート(40%)、出席(10%)により総合的に評価します。

Evaluation will be based on in-class participation (50%), a terminal exam or a terminal paper (40%), and attendance (10%).

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

授業の中で示します。

The textbook will be shown on the first day of the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業で示す英文教科書を予習していただきます。

Students will read a few sections of an introductory textbook on generative linguistics written in English before the class every week.

8. その他/In addition :

(1) 受講希望者は初回の授業から出席して下さい。

(2) オフィスアワーは月～金の 12:15～12:45 としますが事前に電子メールで都合をご確認下さい。メールアドレスは初回の授業で示します。

(1) The students who will take the course are expected to attend the class from the first day of the class.

(2) The students may come to the instructor's office between 12:15 and 12:45 from Monday thru Friday after contacting by email. The instructor's email-address will be shown on the first day.

認知言語学Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時 5 3 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 上原 聡

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN604J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

認知言語学研究概論

Topics in Cognitive Linguistics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

言語学の新たな方向性を根源的に問い直す新しいパラダイムとして認知言語学は近年着実に進展している。その言語研究のアプローチにおける基本的な考え方、分析方法を学ぶ。言語の語彙・形態レベルの現象からはじめ、その研究手法に基づく様々な言語現象を扱った最近の研究論文を読み最近の研究動向について知る。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

認知言語学の基本的な考え方や分析方法を学び、その新しい見方に立って、様々な言語現象の分析に、また日本語を中心として他の言語との対照研究に活かせるようになることを目指す。言語に対する先入観のない見方を身につけ、各自で研究を進める力を養うことを目指す。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 認知言語学の研究分野のうち、認知語形成論と認知形態論に関するテキストを読み、議論をしながら理解を深めて行く。

1. 講義内容紹介、イントロダクション
2. 認知言語学における品詞論
3. 汎言語的な品詞分類と基準、個別言語性
4. カテゴリーとプロトタイプ
5. 言語の構造・文法の慣習性、生産性と新規性
6. 文法化と主観化
7. 語彙から統語・文法へ
8. 形態を動機づけるもの一頻度
9. 規則活用と不規則活用
10. 派生と活用
11. 語彙の活用と事象構造
12. 語彙の形式の言語間差異と文化的動機づけ
13. 形態素の順序とその動機づけ
14. 形態素列の歴史的変化とその動機づけ
15. 歴史的変化の動機づけと文法化

試験 認知言語学の基本的な概念を説明する力を問う内容。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席・課題 30%

発表 20%

期末レポート 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

上原聡・熊代文子 2007『音韻・形態のメカニズム認知音韻・形態論のアプローチ』研究社

他の論文・参考文献を講義で指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題および各自担当部分の発表の準備

8. その他/In addition :

オフィスアワー：最初の講義のときに決める。

言語文化論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 江藤 裕之

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN621J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

Topics in the Theory of Language and Culture

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course is designed (1) to provide students a general introduction to the theory of language and culture via a close reading of selected chapters/papers on the relevant topics and (2) to familiarize students with certain aspects of the history of linguistic theory. This course is conducted primarily in Japanese during discussions and presentations, but students are required to read English texts at an advanced level.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

This course will look at certain theories of language, society, and culture with the aim of answering the following questions:

- What is language? / What is culture?
- What are the overall view, methods, and goals suggested by the particular theory on language and culture?
- What is its historical and intellectual background?
- What is its position in the history of linguistics?
- What are its competing theories?

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 The course schedule and assignments are as follows:

1. Course orientation

2. Introductory discussion

What is language? / What is culture? / What is linguistics? / What is sc

3. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (1)

4. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (2)

5. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (3)

6. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (4)

7. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (5)

8. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (6)

9. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (7)

10. Reading and Discussion: Introduction to Language and Culture (8)

11. Participants' presentation (1): detailed information tba

12. Participants' presentation (2): detailed information tba

13. Participants' presentation (3): detailed information tba

14. Participants' presentation (4): detailed information tba

15. Participants' presentation (5): detailed information tba

試験 Grade will be determined by participation and presentation. No examination will be given.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Participation in discussions (50%) and presentation (50%). More detailed information will be provided at the first class session.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Textbook: Claire Kramsch. (1998). Language and Culture. Oxford, UK: OUP

References: tba

*Reading materials and handouts will be distributed in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Students are required to prepare and review for each class. In addition, they are expected to read assigned materials for discussion.

8. その他/In addition :

Further information, including the instructor's office hours and e-mail address, will be provided at the course orientation.

語用論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 中本 武志

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN606J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

語用論入門

Introduction to pragmatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

含意とポライトネスを中心に、最新の論文を通して語用論の基本概念を学ぶ。

データは主として日本語、中国語、英語を用いる。

This course is an introduction to basic concepts and principles of modern pragmatics.

Assuming no prior knowledge of pragmatic analysis, it covers fundamental phenomena such as implicature and politeness.

Many of the examples come from English, Japanese and Chinese.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

語用論の基礎知識を得ることによって、言語コミュニケーションの基本原則が理解できます。

論文を読みこなす力が付きます。

Students will gain a basic knowledge of pragmatics and insight into linguistic meaning and its role in communication, as well as the ability to read the latest papers critically.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 語用論の主な対象を概観した後で、特に含意とポライトネスを中心に学ぶ。

はじめの8回で基本概念を概観し、残りの7回で最近の論文を輪読する。

After over-viewing main topics in pragmatics, we will focus on implicature and politeness by reading the latest papers.

1. 情報構造 (1) : 機能的文分析

Information structure (1) : Functional sentence perspective

2. 情報構造 (2) : 「ハ」と「ガ」

Information structure (2) : "wa" and "ga" in Japanese

3. ダイクシス

Deixis

4. 語の含意

Connotation

5. 会話の含意

Implicature

6. 関連性理論

Relevance theory

7. ポライトネス (1)

Politeness (1)

8. ポライトネス (2)

Politeness (2)

9. 英語論文の輪読 1

Critical reading and discussion of recent papers (1)

10. 英語論文の輪読 2

Critical reading and discussion of recent papers (2)

11. 英語論文の輪読 3

Critical reading and discussion of recent papers (3)

12. 英語論文の輪読 4

Critical reading and discussion of recent papers (4)

13. 英語論文の輪読 5

Critical reading and discussion of recent papers (5)

14. 英語論文の輪読 6

Critical reading and discussion of recent papers (6)

15. 英語論文の輪読 7

Critical reading and discussion of recent papers (7)

試験 試験は行わない。

No examination.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

出席 (10%)

授業への積極的な参加 (50%)

課題の提出 (40%)

Attendance (10%)

In-class participation in discussions (50%)

Submission of Assignments (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書は用いない。

参考書は随時紹介する。

No textbooks.

Suggestions for further readings will be provided in class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題があれば、切までに提出すること。

課題論文はあらかじめ読んでおくこと。

Assignments must be submitted by the deadline.

Every participant must read the papers discussed in class in advance.

8. その他/In addition :

オフィスアワー：随時。アポイントメントが必要。

Office hours: By appointment.

takeshi.nakamoto.e3@tohoku.ac.jp

日本語解析論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 1 講時 1 0 7 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 副島 健作

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN608E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Introduction to Japanese Linguistics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course covers Japanese linguistics to help students understand Japanese pronunciation, grammar, vocabulary for communication, and to deepen their thinking about the difference from the other languages such as native language of Japanese learners.

Students should have N3 (or higher) on the Japanese Language Proficiency Test or the equivalent or higher proficiency in Japanese

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

The purpose of this course is to help students explain in English or Japanese the features of Japanese pronunciation, grammar and vocabulary while comparing other languages

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 This is a lecture-centered course.

1. Introduction

2. Phonetics

1. Phonetic Inventory

2. Suprasegmental Feature - Accent

3. Acquisition Issue

3. Phonology I

1. Phonological Rules in Japanese

2. Sequential Voicing - "Rendaku"

4. Phonology II

3. Mora vs. Syllable

4. Length Requirements

5. Loanwords

5. Phonology III

6. Accentuation in Japanese

7. Mimetics - Palatalization

8. Acquisition Issues

6. Morphology I

1. Parts of Speech Categories

2. Morpheme Types

7. Morphology II

3. Word Formation

4. Issues in Japanese Morphology (1): Transitive and Intransitive Verb Pairs

5. Issues in Japanese Morphology (2): Nominalization

8. Morphology III

6. Issues in Japanese Morphology (3): Compounding

7. Acquisition Issues

9. Syntax I

1. Syntactic Structure

2. Word Order and Scrambling

3. Reflexives

10. Syntax II

4. Passives

5. Causatives

11. Semantics I

1. Word meaning and Sentence Meaning

12. Semantics II

2. Tense and Aspect

13. Semantics III

3. Verb Semantics

4. Pragmatics

5. Acquisition Issues

14. Language Variation

1. Dialectal Variation

2. Style and Levels of Speech

3. Gender Differences

4. Acquisition Issues

15. Conclusion

試験 the final report or the final exam

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Class participation 40%, examination 30%, essay (including short essays) 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Natsuko Tujimura 2014. An Introduction to Japanese Linguistics. - Third Edition. Oxford: Wiley-Blackwell

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and documents that are commonly available

8. その他/In addition :

Students should have N3 (or higher) on the Japanese Language Proficiency Test or the equivalent or higher proficiency in Japanese

心理言語学Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 3 講時 1 1 3 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 中山 真里子

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN622E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Psycholinguistics II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

Psycholinguistics is the field of psychology that focuses on understanding mental processes underlying the acquisition, production, and comprehension of language. In this course, students will be introduced to various topics in psycholinguistics. In the first half of the semester, the focus of the lectures will be on the key issues with which psycholinguistics is concerned. In the second half of the semester, the students will gain an in-depth knowledge of the processes involved in successful word reading and word production by learning relevant theories and reading classic to current empirical literature in the specific areas of study. During the course, students are also expected to give a short group presentation on a topic that is relevant to the lecture.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- ・Understand the field of psycholinguistics
- ・Know typical experimental methods and tasks used in the study of psycholinguistics
- ・Review the literature and read academic papers critically
- ・Think about what language-specific and what universal language processes are

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Students will be introduced to various topics in psycholinguistics:

1. Course introduction and overview
2. What is language? Evolution of language
3. Language development 1
4. Language development 2
5. Student presentation
6. Word recognition 1
7. Word recognition 2
8. Second language acquisition and bilingualism 1
9. Second language acquisition and bilingualism 2
10. Disorders of language
11. Student presentation
12. Eye movement in reading 1
13. Eye movement in reading 2
14. Language comprehension and production 1
15. Language comprehension and production 2

試験 Term paper

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Presentation 30%, Term paper 50%, Active participation in class discussion 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

References: Harley, Trevor, A. (2014). The Psychology of Language: From Data to Theory. Psychology Press. New York, NY.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

TBA

8. その他/In addition :

Disclaimer: Course contents may vary from the schedule to meet the needs of students.

言語科学研究総合演習 A

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 中本 武志

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN610J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

言語科学研究の方法と実践(3)

Methodology and Practice in Language Science (3)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議する。これにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とする。

In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science and to present the results.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

受講者はこの授業を通して、主として次のような研究に必要な方法や技術を学ぶ。

1 研究テーマを設定し、そのテーマに関する先行研究を批判的に検討すること。

2 設定した問題に対する解決方法を論理的に構成すること。

3 適切なデータを収集し、分析すること。

4 研究結果をまとめ、説得力をもった発表を行うこと。

5 他の受講者の発表を正確に理解し、批評的かつ建設的に評価すること。

In this course the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science, such as the following:

1 to set a research topic and to critically review previous works on the topic

2 to work out a way to solve issues on the research topic through logical argumentation

3 to collect necessary data and to appropriately analyze them

4 to put the results together into a research report and to persuasively present it

5 to correctly understand other students' presentations and to review them both critically and constructively

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 学期のはじめに発表スケジュールを発表する。

The schedule of the student presentations will be announced by the beginning of the course.

1. 学生による発表とそれに関する討議 1

Presentations by the 1st and 2nd students, after each of which there will be a discussion by all.

2. 学生による発表とそれに関する討議 2.

Presentations by the 3rd and 4th students, after each of which there will be a discussion by all.

3. 学生による発表とそれに関する討議 3.

Presentations by the 5th and 6th students, after each of which there will be a discussion by all.

4. 学生による発表とそれに関する討議 4.

Presentations by the 7th and 8th students, after each of which there will be a discussion by all.

5. 学生による発表とそれに関する討議 5.

Presentations by the 9th and 10th students, after each of which there will be a discussion by all.

6. 学生による発表とそれに関する討議 6.

Presentations by the 11th and 12th students, after each of which there will be a discussion by all.

7. 学生による発表とそれに関する討議 7.

Presentations by the 13th and 14th students, after each of which there will be a discussion by all.

8. 学生による発表とそれに関する討議 8.

Presentations by the 15th and 16th students, after each of which there will be a discussion by all.

9. 学生による発表とそれに関する討議 9.

Presentations by the 17th and 18th students, after each of which there will be a discussion by all.

10. 学生による発表とそれに関する討議 10.

Presentations by the 19th and 20th students, after each of which there will be a discussion by all.

11. 学生による発表とそれに関する討議 11.

Presentations by the 21st and 22nd students, after each of which there will be a discussion by all.

12. 学生による発表とそれに関する討議 12.

Presentations by the 23rd and 24th students, after each of which there will be a discussion by all.

13. 学生による発表とそれに関する討議 13.

Presentations by the 25th and 26th students, after each of which there will be a discussion by all.

14. 学生による発表とそれに関する討議 14.

Presentations by the 27th and 28th students, after each of which there will be a discussion by all.

15. 学生による発表とそれに関する討議 15.

Presentations by the 29th and 30th students, after each of which there will be a discussion by all.

試験 この授業は受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議することにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とするので試験は行わない。

In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. There

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

口頭発表および授業中の討議への参加を評価する。

Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

使用しない。必要な場合は授業中に指示する。

No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

学生は自分の発表予定日に向けて先行研究や自分の論考を分かりやすくまとめ、またパワーポイントスライドを準備する。

The students have to prepare the presentation on the designated day, including PPT slides.

8. その他/In addition :

なし

Nothing

言語科学研究総合演習 B

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 中本 武志

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN610J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

言語科学研究の方法と実践(4)

Methodology and Practice in Language Science (4)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議する。これにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とする。

In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. Thereby the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science and to present the results.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

1 研究テーマを設定し、そのテーマに関する先行研究を批判的に検討すること。

2 設定した問題に対する解決方法を論理的に構成すること。

3 適切なデータを収集し、分析すること。

4 研究結果をまとめ、説得力をもった発表を行うこと。

5 他の受講者の発表を正確に理解し、批評的かつ建設的に評価すること。

In this course the students will acquire the necessary methodology and skills to conduct research in language science, such as the following:

1 to set a research topic and to critically review previous works on the topic

2 to work out a way to solve issues on the research topic through logical argumentation

3 to collect necessary data and to appropriately analyze them

4 to put the results together into a research report and to persuasively present it

5 to correctly understand other students' presentations and to review them both critically and constructively

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 学期のはじめに発表スケジュールを発表する。

The schedule of the student presentations will be announced by the beginning of the course.

1. 学生による発表とそれに関する討議 1

Presentations by the 1st and 2nd students, after each of which there will be a discussion by all.

2. 学生による発表とそれに関する討議 2.

Presentations by the 3rd and 4th students, after each of which there will be a discussion by all.

3. 学生による発表とそれに関する討議 3.

Presentations by the 5th and 6th students, after each of which there will be a discussion by all.

4. 学生による発表とそれに関する討議 4.

Presentations by the 7th and 8th students, after each of which there will be a discussion by all.

5. 学生による発表とそれに関する討議 5.

Presentations by the 9th and 10th students, after each of which there will be a discussion by all.

6. 学生による発表とそれに関する討議 6.

Presentations by the 11th and 12th students, after each of which there will be a discussion by all.

7. 学生による発表とそれに関する討議 7.

Presentations by the 13th and 14th students, after each of which there will be a discussion by all.

8. 学生による発表とそれに関する討議 8.

Presentations by the 15th and 16th students, after each of which there will be a discussion by all.

9. 学生による発表とそれに関する討議 9.

Presentations by the 17th and 18th students, after each of which there will be a discussion by all.

10. 学生による発表とそれに関する討議 10.

Presentations by the 19th and 20th students, after each of which there will be a discussion by all.

11. 学生による発表とそれに関する討議 11.

Presentations by the 21st and 22nd students, after each of which there will be a discussion by all.

12. 学生による発表とそれに関する討議 12.

Presentations by the 23rd and 24th students, after each of which there will be a discussion by all.

13. 学生による発表とそれに関する討議 13.

Presentations by the 25th and 26th students, after each of which there will be a discussion by all.

14. 学生による発表とそれに関する討議 14.

Presentations by the 27th and 28th students, after each of which there will be a discussion by all.

15. 学生による発表とそれに関する討議 15.

Presentations by the 29th and 30th students, after each of which there will be a discussion by all.

試験 この授業は受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議することにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とするので試験は行わない。

In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. There

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

口頭発表および授業中の討議への参加を評価する。

Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

使用しない。必要な場合は授業中に指示する。

No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

学生は自分の発表予定日に向けて先行研究や自分の論考を分かりやすくまとめ、またパワーポイントスライドを準備する。

The students have to prepare the presentation on the designated day, including PPT slides.

8. その他/In addition :

なし

Nothing

意味論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 2 講時 1 1 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), **単位数/Credit(s)** : 2

担当教員/Instructor : 吉本 啓

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN611J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

統語情報付きコーパス (ツリーバンク) の構築と言語研究への利用

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

現代では、コーパスは言語研究に欠かせないものと認識されている。しかし、日本語についてはこれまで形態論情報を付加したコーパスが主流であり、より価値のある統語情報をタグ付けしたコーパスは利用できなかった。これに対し、国立国語研究所では現在、日本語テキストに対し統語・意味情報をタグ付けしたコーパス NPCMJ を開発中である。この授業では NPCMJ の構築法について基本を学び、また言語研究にどのように生かしていけるかを考察する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

受講者が統語情報付きコーパスについて基本を理解し、またその検索によってそれぞれの言語研究に利用していけるようになることを目標とする。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 統語情報付きコーパスに関する講義の後、コーパス構築法および検索利用法について演習により理解を深める。最後に、受講者による、新しいコーパス構築法または検索利用法の提案についての発表を課す。

1. イントロダクション

2. 講義 (1) コーパス概論

3. 講義 (2) 形態論

4. 講義 (3) 統語論

5. 講義 (4) 意味論

6. コーパス構築法 (1)

7. コーパス構築法 (2)

8. コーパス構築法 (3)

9. コーパス構築法 (4)

10. 検索による利用法 (1)

11. 検索による利用法 (2)

12. 検索による利用法 (3)

13. 検索による利用法 (4)

14. 受講者による研究発表 (1)

15. 受講者による研究発表 (2)

試験 学期末にレポートを課す。試験は行わない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業への参加の積極度、学期末の研究発表、およびレポートにより決定する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

吉本啓・中村裕昭『現代意味論入門』くろしお出版, 2016年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

国語研究所の HP で利用可能なコーパスを利用した予習及び復讐を課す。

8. その他/In addition :

コーパス言語学Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時 M4 0 5 言語実験室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 岡田 毅

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN612E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

An Introduction to Corpus Linguistics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

The aim of the present course is to let the participants acquire the basic knowledge of the English corpus linguistics together with its history, which can be extended to the further individual corpus analysis of other natural languages, such as Japanese, Chinese, etc. The students are also expected to become familiar with corpus building methods as well as corpus analysis and processing by using various types of software and web services.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

After finishing the present course the students are expected to be able to (1) use software or web services that are helpful for their own research in the field of linguistics, (2) compile original corpora that best suit for their research topics, (3) exchange their novel idea about the future of the corpus linguistics, and (4) apply acquired knowledge not just to the field of pure linguistic research but also to the pedagogical field basically materialized as e-learning systems.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Putting a heavy stress on the classroom interaction and discussion, the lecture will be given by blending actual face-to-face class session and out-of-class self learning. We will take full advantage MOOC, especially FutureLearn, lectures and e-learning systems provided by the university.

1. General introduction to corpus linguistics.
2. The history of corpus linguistics and computer science.
3. The class discussion on the basic methods of corpus linguistics, with reference to how the discipline developed.
4. The discussion of the major approaches to the use of huge size of computer-readable data.
5. The detailed schedule will be made clear within the previous four weeks and decided.
6. Corpus annotation issues.
7. Corpus and world Englishes.
8. Corpus studies in the framework of digital humanities.
9. Mid-semester student presentations based on individual short essays.
10. Mid-semester student presentations based on individual short essays.
11. Text mining and corpus linguistics.
12. Corpus linguistics and its application to the language teaching (part 1).
13. Corpus linguistics and its application to the language teaching (part 2).
14. Semester-final student presentations and discussion.
15. Semester-final student presentations and discussion.

試験 A final, paper-based exam will be given at the very last week.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

The grade is decided by considering the in-class discussion, short occasional essays and the score of the final exam.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Tony McEnery and Andrew Hardie, {Corpus Linguistics: Method, Theory and Practice} (Cambridge Textbooks in Linguistics), Cambridge University Press, 2011.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

We will take full advantage of the e-learning system including a robust language management system.

8. その他/In addition :

The detailed lecture plan and schedule will be announced in the first week. Do not miss it.
takeshi.okada.a8(at)tohoku.ac.jp

外国語教育評価論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時 107 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 志柿 光浩

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN613J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

言語運用能力とは何か

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

CEFR 作成の背景にある考え方の理解を進めながら、言語運用能力とは何かという評価論の根本問題について考えていきます。また、CEFR の基本概念と具体的な利用可能性についての理解を深めます。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

受講者が、CEFR の基本的な考え方を理解し、言語運用能力をどう定義していけばよいかという問題について、自分の言葉で語ることを目指します。また CEFR が現在の外国語教育評価においてどのように利用されているか、自分の言葉で語ることを目指します

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 指定された文献を事前に熟読し、その内容の要旨を自分なりにまとめて、授業で発表し、これをもとに討議を進めていきます。

1. オリエンテーション
2. CEFR 作成の歴史的経緯 (1)
3. CEFR 作成の歴史的経緯 (2)
4. CEFR 作成の歴史的経緯 (3)
5. CEFR 作成の歴史的経緯 (3)
6. CEFR の基本概念 (1)
7. CEFR の基本概念 (2)
8. CEFR の基本概念 (3)
9. CEFR の基本概念 (4)
10. CEFR の具体的利用 (1)
11. CEFR の具体的利用 (2)
12. CEFR の具体的利用 (3)
13. CEFR の具体的利用 (4)
14. CEFR の具体的利用 (5)
15. まとめ

試験 試験以外の方法で評価します。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

各回の授業での指定文献の要旨発表 35%
 授業での討論への貢献 30%
 中間レポート 15%
 最終レポート 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

Green, Anthony. (2012). Language Functions Revisited: Theoretical and Empirical Bases for Language Construct Definition Across the Ability Range. Cambridge University Press.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の授業について、指定された文献の熟読と、要旨をまとめた発表資料の作成が必要です。

8. その他/In addition :

授業は日本語で行います。

ICT応用言語教育論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時 CALL教室 M305

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 杉浦 謙介

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN614J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

ICT 応用言語教育論 II

Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は、ICT を応用した言語教育の方法を習得することを目的とする。

教員が ICT を応用した言語教育の方法を概説し、その概説にしたがって学生が教材を作成し、その教材について全員で議論するなかで、ICT を応用した言語教育の方法を習得する。

Der Kurs zielt darauf ab, die Methoden für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik zu erlernen.

Der Lehrer stellt die Methoden für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik im Umriss dar. Nach der Darstellung entwerfen die Studierenden ihre Unterrichtsmaterialien, diskutieren miteinander darüber und erlernen dadurch die Methoden für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

ICT を応用した言語教育の方法を習得する。

Ziel ist die Methoden für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik zu erlernen.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 教員が ICT を応用した言語教育の方法を概説し、その概説にしたがって学生が教材を作成し、その教材について全員で議論するなかで、ICT を応用した言語教育の方法を習得する。

詳細は授業 Web サイト(下欄)に掲載する。

Der Lehrer stellt die Methoden für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik im Umriss dar. Nach der Darstellung entwerfen die Studierenden ihre Unterrichtsmaterialien, diskutieren miteinander darüber und erlernen dadurch die Methoden für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik.

Einzelheiten stehen in der Webseite des Kurses (unten).

1. オリエンテーション

Orientierung

2. ICT を応用した言語教育用教材の設計(1)

Planen der Materialien für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik (1)

3. ICT を応用した言語教育用教材の設計(2)

Planen der Materialien für den Sprachunterricht mittels Informations- und Kommunikationstechnik (2)

4. PDF/HTML 教材の作成とリンクによる体系化・複層化(1)

Entwerfen der Unterrichtsmaterialien in PDF oder HTML und deren Systematisieren und Schichtbilden durch Verlinken (1)

5. PDF/HTML 教材の作成とリンクによる体系化・複層化(2)

Entwerfen der Unterrichtsmaterialien in PDF oder HTML und deren Systematisieren und Schichtbilden durch Verlinken (2)

6. MP3 音声ファイルの作成・編集(1)

Entwerfen und Verarbeiten der MP3-Dateien (1)

7. MP3 音声ファイルの作成・編集(2)

Entwerfen und Verarbeiten der MP3-Dateien (2)

8. ICT を応用したタスクの作成(1)

Entwerfen der Aufgaben mittels Informations- und Kommunikationstechnik (1)

9. ICT を応用したタスクの作成(2)

Entwerfen der Aufgaben mittels Informations- und Kommunikationstechnik (2)

10. スクリーン・キャスティングと反転授業への応用(1)

Aufzeichnen von Bildschirmaktivitäten und dessen Anwenden auf den umgedrehten Unterricht (1)

11. スクリーン・キャスティングと反転授業への応用(2)

Aufzeichnen von Bildschirmaktivitäten und dessen Anwenden auf den umgedrehten Unterricht (2)

12. Web テストの設計・作成(1)

Entwerfen der Web-Prüfungen (1)

13. Web テストの設計・作成(2)

Entwerfen der Web-Prüfungen (2)

14. ICT を応用した授業の実施方法

Methoden des Sprachunterrichts mittels Informations- und Kommunikationstechnik

15. まとめ

Schluss

試験 実施しない。

Keine Prüfung.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

作成教材 (50%) と議論 (50%) によって評価する。

Entworfenе Unterrichtsmaterialien (50%) und Diskussionen (50%) sind Bewertungsgrundlagen.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

詳細は授業 Web サイト(下欄)に掲載する。

Einzelheiten stehen in der Webseite des Kurses (unten).

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教員の概説にしたがって教材を作成する。

Nach der Darstellung des Lehrers entwerfen die Studierenden ihre Unterrichtsmaterialien.

8. その他/In addition :

授業 Web サイト :

<http://www.high-edu.tohoku.ac.jp/~sugiura/ICTALT/>

面談 : メールで日時調整

Die Webseite des Kurses:

<http://www.high-edu.tohoku.ac.jp/~sugiura/ICTALT/>

Besprechung: per E-Mail ansetzen.

対照言語学Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時 5 3 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 中村 渉

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN615J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

対照言語学の基礎：意味地図の諸問題

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

対照言語学（言語類型論）は言語間の比較を扱う言語学の下位分野であるが、語彙・構文・品詞等の言語間比較を行う方法の一つとして、意味地図（Haspelmath 1997）がある。この授業では、意味地図の方法論を概説をした後、意味地図に基づいて書かれた英語論文を読むことを通じて、言語間比較を体系的／客観的に行うための方法論を習得する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

意味地図に基づいた言語間比較の基礎及び意味地図を方法論に用いた論文を理解できると共に、自らが行う対照言語学的／言語類型論的な研究に適用することができる。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 最初の授業で意味地図の基本について講義した後、意味地図を用いて書かれた数本の英語論文を分担して報告（発表）してもらう形式で進める。

1. オリエンテーション：対照言語学／言語類型論と言語間比較において意味地図が果たす役割について

2. 意味地図の基礎 1 回目：Haspelmath (1997)

3. 意味地図の基礎 2 回目：Haspelmath (1997)

4. 意味地図の応用 1 回目

5. 意味地図の応用 2 回目

6. 意味地図の応用 3 回目

7. 意味地図の応用 4 回目

8. 意味地図の応用 5 回目

9. 意味地図の応用 6 回目

10. 意味地図の応用 7 回目

11. 意味地図の応用 8 回目

12. 意味地図の応用 9 回目

13. 意味地図の応用 1 0 回目

14. 予備

15. 授業全体の総括

試験 試験は行わない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

毎回の授業への出席は前提とする。その上で、授業内での報告・議論 40%（要約の巧拙・発表後の議論を主導できるかどうか）、意味地図を用いて（任意のトピックについて）書かれたタームペーパー60%として評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

授業開始時に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義を行っている際は指定された論文を授業の前に必ず読んでおくこと。授業はその理解を前提に進められる。論文の報告を指名された場合には、報告の担当者は責任を持って論文の内容を整理・要約してもらう（具体的には、出席者の人数分のレジュームを作成して、それに基づいて報告してもらう）。

8. その他/In addition :

論文の報告を行う際には、授業の回数・進め方を適宜変更することがある。

言語データ解析論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時 5 3 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 北原 良夫

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN616J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

データ統計処理 (2)

Statistical Data Processing (2)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

データ処理には統計的な考え方や手法が欠かせない。時間をかけて計画を立て、実際に調査や実験などを行って、苦勞の末に得られた貴重なデータも、主観的な印象で漠然と分析するなどその処理を誤ってしまつては、説得力ある主張をすることなどできるはずもない。

この授業では、平均～分散分析 (平均・分散・標準偏差、推定・信頼区間、カイ二乗検定・t 検定・分散分析等の統計的仮説検定や残差分析・多重比較等の関連事項、など) 及び相関～因子分析 (相関・相関係数と関連する統計的仮説検定、単回帰・重回帰・重回帰、相関行列、因子分析、など) について、論理的及び実践的の両面から学習する。

Statistical views and approaches are essential to data processing. Even if useful data has been obtained after much effort at time-consuming planning and investigation or experiment, no valid assertions can be made unless the data is correctly processed.

This course helps students to be equipped with the following statistical knowledge in both logical and practical aspects: from mean to analysis of variance (mean, variance, and standard deviation; estimation and confidence interval; statistical hypothesis testing such as chi-squared test, t test, analysis of variance, etc., and the related matters such as residual analysis, multiple comparison, etc.; etc.) and from correlation to factor analysis (correlation, correlation coefficient, and the related statistical hypothesis testing; simple linear regression, partial regression, and multiple regression, correlation matrix; factor analysis; etc.)

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

①統計の基本からよく用いられる分析までの理論的側面を身につけ、実際に運用する上での基礎を固めつつ応用力を育成する。

②演習を通し、適切な分析手法を用いて正しいデータ処理ができるようになる。

1. Students will be equipped with the logical aspects of statistics from its basics to common analytical techniques and will develop a solid base in the practical application of statistical knowledge.

2. Students will be able to process data correctly with appropriate analytical techniques, mainly through exercises.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 プリント及びコンピュータを使っての演習を交えた形で、毎回講義を進めてゆく予定である。以下に示す毎回の予定はおおよその目安であり、受講者の理解度などに応じて適宜調整する予定である。

Each lesson includes exercises on a handout and/or on a PC. The following progress plan is likely to be rescheduled according to such factors as students' degree of comprehension.

1. オリエンテーション、データの整理、代表値、散布度、相関 (1)

Orientation; organization of data, average, degree of dispersion, and correlation (1)

2. データの整理、代表値、散布度、相関 (2)

Organization of data, average, degree of dispersion, and correlation (2)

3. 統計調査といくつかの定理、推定、確率変数と確率分布 (1)

Statistical investigation and a couple of related theorems; estimation; random variable and probability distribution (1)

4. 確率変数と確率分布 (2)、統計的仮説検定 (1)

Random variable and probability distribution (2); statistical hypothesis testing (1)

5. 統計的仮説検定 (2)

Statistical hypothesis testing (2)

6. 統計的仮説検定 (3)

Statistical hypothesis testing (3)

7. 統計的仮説検定 (4)

Statistical hypothesis testing (4)

8. 統計的仮説検定 (5)

Statistical hypothesis testing (5)

9. 相関 (1)

Correlation (1)

10. 相関 (2)

Correlation (2)

11. 相関 (3)

Correlation (3)

12. 相関 (4)

Correlation (4)

13. コンピュータを使つての演習 (1)

General exercise with PC (1)

14. コンピュータを使つての演習 (2)

General exercise with PC (2)

15. コンピュータを使つての演習 (3)

General exercise with PC (3)

試験 試験は課さない。学期末にレポートを提出してもらう予定である。

There are no examinations. Students are required to submit a term paper.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業の参加状況 (出席、演習等) と学期末レポート (内容については教室で具体的に指示する) を総合して評価する。それぞれ 50% 程度の配点とする予定である。

There are no examinations. Students are required to submit a term paper.

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

教科書は使用しない予定である。必要に応じプリントなどを配付する。図書や論文などの参考資料については教室で適宜紹介する。

There are no textbooks. Handouts are distributed if necessary. Reference materials such as relevant books and papers are referred to during lessons if necessary

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の授業で学習した内容について、改めて演習を行ったりしながら、復習をしっかりとしておくこと。

Students are required to thoroughly review each lesson, performing exercises again with exercise questions given at each lesson.

8. その他/In addition :

オフィスアワーは特に設けないが、随時来室可 (川北合同研究棟 2 階 207 号室)。不在の際には、こちらから連絡がとれるよう、ドアのポストに連絡先などのメッセージを残しておいてください (留守番電話も設置してあります)。

There are no specific office hours, but, if students have any questions or messages, they can visit the instructor's office (Room 207, Kawakita Research Forum) at any time. In case the instructor is not at the office, please leave a message including contact information. Students can contact the instructor by telephone or e-mail. An answer-phone is installed in the instructor's office.

第二言語習得論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時 M6 0 1 大ホール左

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : WANNER PETER JOH

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN617E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Second Language Acquisition: Neurology of Learning and Memory

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This class will help enhance students understanding of how learning and memory interact in terms of Second Language Acquisition.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

Students will acquire the fundamental concepts and history of the historical foundation of evolutionary findings in neurology gaining a better understanding of how experience to modify connections linking networks of neurons in the brain interact with each other. These findings help explain attrition, the reason some languages are becoming endangered languages. If we can reverse the environmental factors that lead to attrition, we can maintain those languages better and become better language learners.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 Students will participate in class and perform on a mid-term and a final exam .

1. Introduction: Fundamental Concepts and Historical Foundations
2. Mechanisms of Synaptic Plasticity: Simple System Approach
3. Mechanisms of Synaptic Plasticity: Long-Term Potentiation I
4. Mechanisms of Synaptic Plasticity: Long-Term Potentiation II
5. Mechanisms of Synaptic Plasticity: Composition of AMPA Receptors
6. Mid-Term
7. Strengthening Synapses: Generating New Material, Genomic Signaling
8. Strengthening Synapses: Generating New Material, Local Protein Synthesis
9. Strengthening Synapses: Generating New Material, Synaptic Tagging Theory
10. Calcium; The Master Plasticity Molecule; Extracellular and Intracellular Sources
11. Calcium; The Master Plasticity Molecule; Calcium Release and Local Protein Synthesis
12. Dendritic Spines; The Dynamic Relationship between Structure and Function: Actin Regulating Principles
13. Dendritic Spines; The Dynamic Relationship between Structure and Function: Actin Modifications Cadherins
14. Dendritic Spines; The Dynamic Relationship between Structure and Function: Synaptic Plasticity, Spine Stability, and Memory Relationships
15. Final

試験 Students will gain a better understanding of how Neurolinguistics complements other areas of Linguistics, specifically Psycholinguistics in Second Language Acquisition.

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

Grades are based on participation in class (20%) and performance on the mid-term (40%) and final exam (40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

The Neurobiology of Learning and Memory; Jerry W. Rudy

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Students should do readings and prepare for classes.

8. その他/In addition :

第二言語教授法 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2 講時 5 3 1 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 菅谷 奈津恵

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN618J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

第二言語・外国語教授法 II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

日本語教育を中心に、第二言語・外国語教授法の基礎を学ぶ。教員による解説に加え、教材分析やレポートのピアレスポンス等の実践的課題を交えながら講義を進める。学期末には、初級レベルの教材について 2000 字程度の書評レポートを作成する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

- 1) 第二言語・外国語の初級レベルの教室活動について説明できる。
- 2) 第二言語・外国語の初級教材を分析し、特徴を記述できる。
- 3) レポート課題への取り組みを通じ、ライティングの指導方法について理解する。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 授業進行予定の詳細は、第 1 回目のオリエンテーションで説明する。

1. 授業オリエンテーション
2. コースデザイン
3. ライティングの指導法 1
4. 外国語教授法
5. 初級の教室活動
6. 初級の教室活動
7. 教材分析・開発
8. 教材分析・開発
9. 初級レベルの授業例 1
10. 初級レベルの授業例 2
11. ライティングの指導法 2
12. ライティングの指導法 3
13. 期末レポートアウトラインのピアレスポンス
14. 期末レポート草稿のピアレスポンス
15. まとめ

試験 試験は実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

小レポート 1 : 10%、小レポート 2 : 20%、期末レポート (初級教材の書評) : 40%
宿題 15%、授業参加度 15%

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

参考書

鮎澤孝子編 (2014) 『日本語教育実践』 凡人社
佐々木泰子編 (2007) 『ベーシック日本語教育』 ひつじ書房

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間外の課題の提出には ISTU を用いる。

8. その他/In addition :

配布資料には事前に目を通して授業に臨んでください。

神経言語学Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時 1 0 9 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : JEONG HYEONJEONG

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN619E

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class Subject :

Neurolinguistics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course overviews how language is represented in the brain and discusses its implication for language education. Topics to be covered in this course include speech perception, reading, lexical processing, syntax, semantics, discourse and bilingual language processing. Major neuroimaging techniques such as fMRI, EEG/ERP, MEG and NIRS will be also introduced.

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

The three goals of this course is:

- ・ Students can describe how language is represented in the brain.
- ・ Students can understand basic neurological methods, and advantages and disadvantages of each method.
- ・ Students can come up with a brief research proposal based on their own interests.

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 We will discuss assigned articles and book chapters.

1. Introduction
 2. Historical overview of language and brain
 3. Basic brain anatomy and function of human brain
 4. Methods and techniques of neuroimaging (fMRI, EEG, MEG, NIRS)
 5. Concept of experiment: How to design experiments
- Field trip to neuroimaging lab at IDAC and fMRI scanner
6. Speech and phonology
 7. Visual word processing
 8. Semantics/meaning of words
 9. Morphology and Syntax
 10. Sentence comprehension and production
 11. Bilingual language processing
 12. Second language acquisition
 13. Learning and memory
 14. Procedural and declarative memory
 15. Language communication/ Discourse/ Theory of mind

試験 Student' presentation and final paper

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

1. Presentation (30%) : Students give a summary presentation on an assigned article.
 2. Research proposal or paper (70%) : Choose 1 or 2
 - 1) Students write a brief research proposal based on their own interest (introduction, purpose, method and expected results) (4 pages, double spaces)
 - 2) Choose your topic and find relevant three peer-reviewed, published journal articles on cognitive science of language and write a short review paper (6 pages~10 pages, double spaces). The paper should clearly summarize the main points and argument and should conclude your own stance as well as suggestions for future study.
- * Proposal and paper should be formatted according to APA (6th ed.).

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

1. Assigned articles will be distributed weekly.
2. David Kemmerer (2015). Cognitive Neuroscience of Language, Psychology Press
3. Bernard J. Baars & Nicole M. Gage (Eds.), (2010). Cognition, brain & consciousness: Introduction to cognitive neuroscience

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Students are expected to read and review course materials before class in order to actively participate in discussion.

8. その他/In addition :

応用言語研究総合演習 A

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 5 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 志柿 光浩

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN620J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

応用言語研究演習(A)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための基礎的な知識と方法を習得する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための基礎を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせ合わせて授業を進め、応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための基礎的な知識と方法の習得をめざす。

1. オリエンテーション

2. 応用言語研究分野における研究のための基礎的な知識と方法(1)

3. 応用言語研究分野における研究のための基礎的な知識と方法(2)

4. 応用言語研究分野における研究のための基礎的な知識と方法(3)

5. 応用言語研究分野における研究のための基礎的な知識と方法(4)

6. 応用言語研究分野における口頭発表のための基礎的な知識と方法(1)

7. 応用言語研究分野における口頭発表のための基礎的な知識と方法(2)

8. 応用言語研究分野における口頭発表のための基礎的な知識と方法(3)

9. 応用言語研究分野における口頭発表のための基礎的な知識と方法(4)

10. 応用言語研究分野における論文作成のための基礎的な知識と方法(1)

11. 応用言語研究分野における論文作成のための基礎的な知識と方法(2)

12. 応用言語研究分野における論文作成のための基礎的な知識と方法(3)

13. 応用言語研究分野における論文作成のための基礎的な知識と方法(4)

14. 応用言語研究分野における論文作成のための基礎的な知識と方法(5)

15. まとめ

試験 実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業での発表や討議等によって総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

必要に応じて指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業で指示する。

8. その他/In addition :

応用言語研究総合演習 B

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 5 講時 109 講義室

科目群/Categories : 大学院専門科目-国際文化研究科専門科目 (MC), 単位数/Credit(s) : 2

担当教員/Instructor : 志柿 光浩

科目ナンバリング/Course Numbering : KIC-LIN620J

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class Subject :

応用言語研究演習(B)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための知識と方法を習得する。

3. 学習の到達目標/Goal of Study :

応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための力を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法/Contents and Progress Schedule of Class :

概要 学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせる。応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための知識と方法を習得をめざす。

1. オリエンテーション

2. 応用言語研究分野における研究のための知識と方法(1)

3. 応用言語研究分野における研究のための知識と方法(2)

4. 応用言語研究分野における研究のための知識と方法(3)

5. 応用言語研究分野における研究のための知識と方法(4)

6. 応用言語研究分野における口頭発表のための知識と方法(1)

7. 応用言語研究分野における口頭発表のための知識と方法(2)

8. 応用言語研究分野における口頭発表のための知識と方法(3)

9. 応用言語研究分野における口頭発表のための知識と方法(4)

10. 応用言語研究分野における論文作成のための知識と方法(1)

11. 応用言語研究分野における論文作成のための知識と方法(2)

12. 応用言語研究分野における論文作成のための知識と方法(3)

13. 応用言語研究分野における論文作成のための知識と方法(4)

14. 応用言語研究分野における論文作成のための知識と方法(5)

15. まとめ

試験 実施しない。

5. 成績評価方法/Evaluation Method :

授業での発表や討議等によって総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and References :

必要に応じて指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業で指示する。

8. その他/In addition :